

坪田留吉「陣中日誌」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 隼田, 嘉彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/780

坪田留吉「陣中日誌」

隼 田 嘉 彦

はじめに

本稿は、鯖江歩兵第三十六連隊から日中戦争に小隊長として「出征」した、坪田留吉（准尉 少尉）が陣中で付けた日誌（を作成するための下書乃至メモ）を翻刻したものである。

筆者はかつて、鯖江歩兵第三十六連隊に所属した山本武（上等兵 伍長 軍曹）と、松本歩兵第五十連隊の小隊長であった青木茂人（少尉 中尉）が、それぞれ陣中で記録した日記を翻刻したことがある。⁽¹⁾

旧稿 がいわゆる「北支」を舞台とし、河北省、河南省、山西省を転戦したときの記録であったのに対して、旧稿 上・中は本稿と同じ三十六連隊であったから、上海上陸以降この日誌と全く同じ行程を取っていることはいうまでもない。しかしながら実際の戦場においては、一致した行動をとることは無理というより不可能であり、中隊ごと、小隊ごとに個別の戦闘や作戦面で独自の展開を示すわけで、それは旧稿や本稿からも窺われるところである。したがって同じ連隊のものとはいえ、新しく付け加え得る部分も多いといわな

ければならない。⁽²⁾

しかも大切なことは、両者の内容が全く異なっていることである。比べればわかることなのでそのことについては立ち入らないが、武が率直過ぎるほど心情を吐露し、喜怒哀楽をそのまま表現していたことは旧稿 で述べたとおりである。それに対して留吉は、あくまで禁欲的で、むしろ淡々と記述しているかのように見える。この違いに関しては今後論議を呼ぶ可能性もあるが、武が大正二年生まれで、「初陣」であったという、二人の年齢、階級や実戦体験の差に加えて、「日記」と「日誌」（たとえ後日の資料とするためのものとしても）であることからくるものであるというのが、私の考えである。⁽³⁾

そうすると「陣中日誌」の史料的性格を考える上からも、極めて貴重な記録といえるであろう。ただ時間的制約もあって、全文翻刻できなかったことを遺憾とする。

一 坪田留吉の略歴⁽⁴⁾と日誌の概要

留吉は、明治二十七年(一八九四)七月三十日、福井県吉田郡西藤島村地藏堂(現福井市)の農業、西嶋伊左門とイエの四男(四男、四女の内)として生まれた。同三十四年四月、西藤島村立啓明尋常高等小学校に入学、同三十八年三月同校卒業、四月に高等科へ進み、同四十年三月卒業した。翌四月には福井県立福井中学校に進学したが、家庭の事情により、三年を終えた同四十三年三月に中途退学のやむなきに至った。

その後直ちに台湾へ渡って西村商会(精糖会社)に入社、しばらくこの地で会社員生活を送ったのである。

大正二年(一九一三)徴兵検査のために帰国し、十二月一日鯖江三十六連隊に入隊して兵役の第一歩を踏み出した。その後は、同三年四月から朝鮮守備、同七年九月からは中国青島守備に任じられたほか、同十一年五月にはシベリア派遣部隊補充員として派遣されている。昭和元年(一九二六)三月三十一日、歩兵特務曹長に昇任し、いわゆる満州事変では、昭和七年二月四日召集され、上海付近の会戦に参加したあと五月に帰国、六月七日召集解除となった。

この間福井市尾上中町で薬種業を営んでいた、坪田兼蔵の養子になって長女小ぎく(明治三十二年六月二十四日生)と結婚し(大正十年九月十日入籍)、長女とみ、長男裕、二男昭和が生まれている。そして昭和三年四月五日からは、福井市立福井商業学校(以下福商と略称)に教練担当として勤務することになった。大正十四年から

配属将校による教練が始まり、三十六連隊から少尉(中佐クラス)が派遣されたが、その補助として軍隊経験者を採用したのである。職員名簿には「教授囑託」とある。鮎釣りを趣味とし、また奉られた由来は定かでないが、「おむすび」「おむっさん」のニックネームで生徒達に親しまれたという。

日中戦争が始まると、福商教員からも応召が相次いだ。先ず七月に竹内善助(商業)、坂本忠市(英語)、九月に入ると島田清市郎(教練)、坪田留吉(同)、馬来田善統(国語)、ついで津田富夫(武道)、真山博(英語)、波多野博視(教練)と、次々と「出征」していったのである。ところが十月九日には早くも馬来田(第五中隊第一小隊長、少尉)が戦死、十二月十六日には市葬が営まれた。

留吉は四十四歳での応召であったから、「若イ兵達ニ一歩モ拙ラズ」(一月八日条)と書いているように、肉体的にきついこともあったようである。また「支那派遣軍八漸次現役ニ交代スル方針」(二月十九日条)との情報もあって、早期帰還を期待していたようでもある。その後も幸い負傷することもなく転戦し、昭和十四年二月十日には待望の少尉に昇進することができた。そして同五月、最後の新墻河作戦に臨み、その二十三日九時四十分、湖南省臨湘県草鞋嶺南方高地において、右肩胛骨から撃ち込まれた弾丸によって戦死した(中尉に昇任)。三十六連隊は六月に入ると帰還の準備を始め、数回に分かれて帰還し、七月三日には完了しているから、文字通り帰還開始直前のことだったのである。なお小隊の編成が目まぐるしく変わっているのは、それだけ戦死傷者が多く、繰り返し補充され

たことを示す。因みに「大本営陸軍部二十九日発表」によれば、十二年七月から十四年四月までの戦死者「五万〇九九八」、占領地は「国土の二倍半弱」とある（『福井新聞』十四年五月三十日）。

留吉戦死のことは、六月六日太田部隊原隊で他の二三人と共に発表され、翌七日（水曜日）の福井新聞に「福商の教官 戦死した坪田中尉」と、写真入りで大きく報じられた。遺族は小ぎく（41）、とみ（19）、裕（17）、昭和（12）の四人、小ぎくの「今までも度々召集されているので」今度の応召にも何も心配してくれるな。只一死奉公あるのみと、決意を示して征きました」という、健気な談話も添えられている。

市葬は七月十四日西別院で営まれたが、福商五年東組級長山岸勇は、在校生を代表して「先生、今一度御出征の時のあの勇しい御姿にお会ひして、内地の奇麗な水をゆつくり飲んで戴きたうございませ」と弔辞を読んで、満場を感動させた⁽⁷⁾。また福商同窓会では翌十五年三月、『校友会誌』二十八号で「噫坪田先生」という特集を組み、遺影、略歴、遺筆（同僚に宛てた葉書、墨書）のほか、同僚、生徒五人の追悼文を収録している。葉書の文字は達筆で、「日誌」の表紙と同じ手に見える。

日誌は若干の遺品とともに、留吉の遺骨に添えて送られてきたというが、事情そのほか詳しいことはわからなくなってしまう。本文に見られるように、留吉は戦地から度々留守宅へ手紙を出しているが、戦災とそれに続いた水害、震災などによって全て失われ、今は二、三の遺品と次の四冊が残されているのみである。

昭和十二年九月十日～十二年十一月三十日。

昭和十二年十二月一日～十三年一月三十一日。

昭和十三年二月一日～四月三十日。

昭和十三年五月一日～十月三十一日（表紙は「三〇」）。

以下それぞれ第一冊～第四冊と称することにしているが、見られる如く僅か一年二ヶ月分に過ぎないといえ、残っている限り一日も欠けるところがない。いずれも小振りな大学ノートが使用されており、表紙はきちんとした墨書で、「陣中日誌」から「坪田留吉」までが横書き、四冊とも同じ様式である。

本文は漢字、片仮名交じり、青インキ書きを基本とするが、時々ま平仮名もあるほか、赤インキの部分も少なくない。若干の勘違いと思われるものを別にすると（十一月十日条）、留吉としては漫然とペンを持ち替えたのではなく、ある程度意識的に色分けしたとみられるが、その区分の方法は傍線を含めてはつきりしない。想像をたくましくすれば、公的な部分が青インキ、追筆乃至感想、覚書に類するものが赤インキ（九月十七日条）、純然たる私事が平仮名のようでもあるが（四月十日条）、もとより厳密な区分ではない。

なお第四冊は六ヶ月分で分量が多く、実際他の二冊分以上にのぼるので、残念ながら本稿には収めることができなかった。また第二冊と第三冊の後半には、留吉の自筆になる今でいえば「中国語単語帳」あるいは「日中日常会話集」とでもいえるものを載せ、延べ四三頁に亘って五〇〇以上の単語や短文が書き留められている。恐らく暗記しようとしたと思われる、中国に渡った日本軍がどのような中

国語を覚えようとしたか、それ自体興味深いことではあるが、これまた割愛せざるを得なかった。

最後にごく簡単に第四冊の概要を紹介しておく。

五月一日蚌埠への行軍から始まり、二日到着。その後いわゆる徐州会戦が終わったあと、またしばらく蚌埠に滞在、六月十一日常州に着いている。七月二十三日には雨の中、旅団長、連隊長の交代式が行なわれ、三十六連隊は脇坂次郎に代わって太田貞昌が新連隊長となり、以後太田部隊と称されるようになる。八月二十六日条に、瑞昌に到着したところ、あちこちに「打倒日本帝国主義」「倭鬼」などの「標語、落書多シ」とあって、このような形での中国人民の抵抗に驚いたようである。十月二十五日、漢口を陥落せしめたが、「出征」以来の直屬中隊長安保善治大尉が戦死した。そして十月三十一日条の、「明朝出発、岳州攻略二向フ筈。」という記述でこの日誌は終わっている。

この後の「陣中日誌」(以下に相当する部分)があつたか否かも明らかでない。

二 翻刻にあたって

翻刻に当たっては概ね次のような方法に従った。

本文はおもに漢字と片仮名で書かれているが、大部分の漢字を常用体に改めたほかは、平仮名、数字などすべて原文通りである。ただし三字以上の算用数字は漢数字に直した。

偏や旁の間違いや勘違いによる誤字は、前後勘案して正しい文字に直したが、極めて少数であったことを特記しておきたい。なお濁点には若干補ったり、省略した部分もある。

校訂者による注はすべて()で示し、傍注に(ママ)(脱)(カ)(衍)などを付けた。そのため原文の()はすべてに改めたほか、「」は『』に換え、読めない文字は 示し、僅かに見られる抹消部分(見消)は全て無視した。

本文中の朱筆は、文字はすべて「」で括り、傍線は波線で示した。なお青は点線にした。

句読点は校訂者が付けた。原文では改行が頻繁なほか、人名や物品名を一行に一人(一品)ずつ書いた例も多いが、紙数を節約するため大部分を追い込んだ。

日誌には裏半紙などに印刷された、第一機関銃中隊の「編成表」が貼付されているが、印刷の都合で付表として最後にまとめた。なお『行動概要』に収められた一九枚の「歩兵第三十六聯隊將校職員表」は、小隊長以上に限られ兵士までわからない。

原本の挿絵は、その場所を(写真1)などとして示し、これも右の「編成表」の次にまとめて入れた。

以上である。

(1) 隼田「山本武の『陣中日記』」上・中・下(『福井大学教育学部紀要』第 部 社会科学 五一・五二・五三、一九九六〜九八年)、以下旧稿 上・中・下。同「青木茂人の『陣中日記』」

『福井大学教育地域科学部紀要』第 部 社会科学 五八、二〇〇二年)、以下旧稿。

(2) 本稿においても、坂武徳『歩兵第三十六聯隊中支方面ニ於ケル行動概要』(一九八三年、以下『行動概要』)、山本武『一兵士の従軍記録』つづりおく、わたしの鯖江三十六聯隊』(一九八五年、二〇〇一年改訂版、以下『従軍記録』)を大いに利用させていただいた。なお『行動概要』には山本武のものは多く引用されているが、本日誌を参照した形跡はない。

(3) 陣中日誌とは、野田勝久氏によれば次のようなものである(同氏「解説」『第一次上海事変における第九師団軍医部「陣中日誌」』不二出版、一九九八年)。

「陸軍が戦史の資料及び将来の改善資料にするために、動員下令の日から復員完結の日まで、毎日の遭遇事項や実施事項等を記述し、一か月毎に順序を経て大本営に提出するもので」「記載事項は、毎日の位置、主要な命令・報告・通報、行事・宿営のことに始まり、戦闘の景況、人馬の移動及び現員の概況、死傷者及び勲功者の事跡、部隊編成、職員、補給、給養、衛生、教育、軍紀等に関することである。記述内容は上記の事項が全て網羅されているわけではなく、作成部隊によって異なる。ただし、現在、このような陣中日誌そのものを読む機会が少ないものと思われる」という。

いわば公的な、功績調書作成などの資料にするためのものといえるのである。経験豊かな留吉が日記と日誌を混同するはず

はなく、実際「自分」とか「俺」という語は用いず、「坪田准尉」とか「坪田小隊」と客観的に表現している。本稿ではこれを踏まえ、もともと個人の日記ではないという意味を持たせるため、旧稿では入っていた記主と日記の間の「の」を省いたのである。

ただし、本文には純然たる私事に亘ることが少なからず見られるが、戦場であるだけに二種類に書き分けることができないため、私事もメモしておいたものと考ええる。

(4) 以下留吉に関しては、二男の昭^{ていせ}和氏、当時福商在学中の吉田(旧姓山岸)勇氏に御教示を得たほか、福商同窓会『校友会誌』三十六号(国民精神総動員号、昭和十三年)、同三十八号(御親閲拜受記念号、昭和十五年)、福井県立福井商業高等学校『福商六十年史』(一九六七年)、福井新聞(福井市史編さん室架蔵マイクロ版)などによる。なお『校友会誌』三十六号には「戦線朗信」という欄があつて、留吉の四点の外、先述の応召教員からの手紙が数通ずつ収録されている。因みに、「此の用紙は占領した家屋内に散乱してゐた紙であります。便箋など持ちませるので」云々と、留吉の手紙の一節にある。

(5) 昭和十二年十月一日調べの「歩兵第三十六連隊將校 一部准尉、曹長ヲ含ム 職員表」(『行動概要』)によると、総勢一〇九人の内留吉のみ後備役である。

(6) 前掲『行動概要』『従軍記録』および『福井新聞』による。

(7) 「甲辞」の草稿を吉田勇氏に見せていただいた。

第一冊

〔表紙〕 自昭和一二、九、一〇

其志 至昭和一二、一一、三〇

陣中日誌

上海派軍

吉住部隊

脇坂部隊

安保隊

坪田留吉

〔扉〕 「上海出征陣中日誌」

昭和十二年九月九日、第九師団二動員下令。

昭和十二年九月十日午前三時半、充員召集令状ヲ下付セラル。

昭和十年九月十二日午前七時、歩兵第三十六連隊二応召、野戦隊二編入、第一機関銃中隊小隊長拝命。

自昭和一二、九、一二

至昭和一二、九、一二

昭和一二、九、二二日、鯖江駅出發。

同 二二日、大坂浪速港駅着、午後三時頃宿舍二入舎ス。

大阪市東成区東桃谷町四丁目、木村馬吉方。

自昭和十二年九月廿三日

滞在。

至昭和十二年九月廿五日

第一機関銃中隊幹部（*印は戦死者、『行動概要』による。）

中隊長 大尉 安保善治殿*

第一小隊長 少尉 河合喜作殿*

第二小隊長 同 内山 富殿

第三小隊長 准尉 宇野嘉津二殿*

第四小隊長 同 坪田留吉*

弾薬小隊長 同 田中 静殿

曹長 岸名 林*

給与係 南保軍曹

出發時二於ケル編成表、第四小隊編成表。

小隊長 准尉 坪田留吉

第七分隊 第八分隊

長予伍 野村 勇 長現伍 道清宇吉

現一 太田善一 現一 吉田 静

予上 中西竹蔵 現上 西野千代治

現一 小松 保 現一 林志計夫

現伍上 吉田秀次 予上 金田米一

予一 元 雄弘 予一 吉村正一

予一 松村武雄 予上 石山豊治

予一 山越秀治 予上 大門喜代治

後上 合川作太郎 馭兵後上 有城栄一

馭兵現一 山口宇太郎 予一 梶 俊雄

馭兵現一 島 孝二 馭兵現一 山口源十郎

銃馬 谷白 銃馬 谷月

彈馬 福晴 彈馬 千夫

(一) 屯営出發時ニ於ケル編成表【付表1】参照)

昭和一二、九、一二、雨

午前五時福井駅前電車停留所ニテ万歳歡呼ノ裡ニ電車ニテ出發、
午前七時入門、身体検査。第、第 雪中演習場、午前十一時過
ギR長室前ニテ命課、中隊ニ至リ中隊長殿初メ幹部ニ挨拶。晚八
我家ニ歸ル。

昭和一二、九、一三、晴

編成其他。応召者ボツボツ入隊シ来ル。

昭和一二、九、一四、晴、雨

応召者入隊アリ。

昭和一二、九、一五、雨

応召者入ノ隊アリ。營外居住者ノ住所ヲ要函報告、出發ニ際シテ
ノ各種ノ注意アリ。

昭和一二、九、一六、雨、午後止ム。

応召者入隊。

応召者入隊ノ最終日デアル。

昭和一二、九、一七、金曜、半晴

被服ノ適合。舟艇ヨリ跳込ミノ練習 敵前上陸ヲ予想シテ。
種痘。本日中隊ノ編成ヲ終ル。

認識票ヲ分配ス。准尉以上ノ分モ出来分配セラル。代金四十錢也。

動員会報

一、午前十一時十分待從武官ヲ御差遣ニ相成リシ事ハ、明日ノ軍
装検査ノ際伝達セラル。其他略ス。

一、二回目ノ予防接種ハ二十一日行フ。

一、軍装検査後野戦隊ノモノデ会食ヲ行フ。

一、夜間ノ標識トシテ中隊長ハ×、小隊長ハノ白布ヲ附ラル。

「戦闘間附シタルコトナシ」。

昭和一二、九、一八、土、曇

被服ノ適合。各種準備。

昭和一二、九、一九、日、雨、午後止ム。「動員完結」

一、午前十時半ヨリ中隊ノ軍装検査。

二、午後〇時二十分大隊整列、大隊長野村少佐^(條吉)ノ訓辞アリ。

三、午後一時二十分ヨリ練兵場ニ於テ、R長ノ

イ、軍装検査。

ロ、訓示。

ハ、補充隊ニ残ル者、野戦隊トシテ出征スル者トノ面会。

二、野戦隊准尉以上撮影 丸山南斜面。

同 下士官 鞍部ニテ。

四、旅団長井出宣時閣下ノ訓示。午後五時解散。

五、午後六時ヨリ野戦、補充隊、混合小隊長以上ノ留送別会 連
隊講堂ニ於テ。

夕食ノ際兵一般ニモ若干ノ酒ト盛物ノ支給アリ。

昭和一二、九、二〇、月、昨夜来ノ雨止ム

自午前八時、至正午、將校以下官庭繩張内ニ於テ面会ヲ許ス。舎内ニ八一切入ルコトヲ禁ズ。拳銃実包購入ノ為メ鯖江警察署荒井ナドト交渉、困難セリ。日直勤務ニ服ス。

昭和一二、九、二二、火、晴
待機。

昭和一二、九、二三、水、晴、曇、「屯営出發」

1、午後九時三十分整列、本多大尉ノ指揮ヲ以テ鯖江惜陰小学校ニ至ル。面会許可。

2、午後十一時三十分鯖江駅ニ向ケ出發。

小生八大隊ノ人員ノ搭載係ノ勤務ニ服ス。近藤氏、北村ノ両親、鈴木広氏、三ツ屋ノ両親等面会ニ來テクレタ。

昭和一二、九、二三、木、晴、「鯖江駅出發」

一、午前〇時二十七分万歳声裡ニ鯖江駅發車、途中夜分ニモ拘ラズ、鯖江管内地積ニ於テハ歡送誠ニ涙グマシキモノアリ。

二、午前六時五十分大阪浪花駅ニ到着、下車。約三時間余下車并休憩後宿营地ニ至ル。

宿营地。

大阪市東成区東桃谷町四丁目 木村馬吉殿方。

途中敦賀駅ニテ思ハズモ上野梅吉氏ニ面会、橋檜ヲ一籠モラフ。

宿营地ニ於テハ、在郷軍人、青年団等大車輪ノ歡迎振テアル。

深謝シ、本日昼食ヨリ舎主ニ於テ給養。

昭和一二、九、二四、晴、金
滞在。

昭和一二、九、二五、晴、土

滞在。

無料理髪。

大阪市東成区勝山通り九丁目一八 北村教一殿

日満会話集寄贈者。

大阪市東成区東桃谷町四丁目二四 山崎久太郎殿

乗船命令出ツ。略。

昭和一二、九、二六、日、半晴、大阪港出帆

一、午前九時宿营地出發、十一時大阪港住友埠頭ニ至ル。昼食。

人員午後一時乗船。

午後三時第五艘目ニ住友埠頭ヲ離ル。しどにい丸、四千噸。

南西ノ風稍強ク、午後ヨリ曇天トナリ、午後九時半ヨリ風雨トナル。

ナル。

昭和一二、九、二七、月、晴、夜半ヨリ雨止ム

前後ヲ護衛サレツツ舳艫相フインデ上海向ツテ航行、平穩ナル航海ナリ。一同元氣旺盛、午前、午後、若干時保健運動。

昭和一二、九、二八、火、晴

前後左右一面ノ大海原、何等見エズ、唯々前後ニ僚船護衛艦見ル

ノミ。

昭和一二、九、二九、水、曇

上陸戰鬪準備トシテ浮胴衣ノ着装法等ノ教育。午後二至ツテ遠ク

山等ヲ眺ムルコトヲ得。午後揚子江上航、黃浦江上航、沖ニ碇泊

昭和一二、九、三〇、木、晴、晚方小霧雨

揚子江 黄浦江上航、呉淞沖ニ碇泊。更ニ上航シテ午後五時馬家頭ノ埠頭ニ上陸、其西南約五百米ノ畑ニ露宮。「虬口碼頭」。

「附近二八敵ノ塹壕、友軍ノ塹壕アリ。敵ノ遺棄セル死体多ク、臭気粉々タル有様デアル。砲声ヲ聞ク。」

(写真1)

歩哨ヲ立テ警戒裡ニ露宮。

十月一日、金、半晴

午前七時露宮地出發。王家宅―劉蔡家ヨリ軍工路ヲ呉淞ヘ向ヒ、午前九時半二八呉淞鎮北西約千米ノ張家上ヲ通過、「此ノ附近敵ノ腐爛シカケタ死体多数アリ」。尹家宅―吳家上樓―泗塘橋―陳家宅 金家宅、午前十一時十分ヨリ約三時間大休止、昼食。

此ノ附近A、工兵力盛ニ新軍用路ヲ工作中。

B、特務兵力馬ヲ牽キ、車輛ヲ引キ、第一線ヨリ歸ツテ来ル列、第一線ヘ行ク列引キ切レズ。全ク熾ルガ如ク二糧食ノ運搬ニ従事シテオル。

C、相当ノ暑サデアル。飲料水ニ困リ切ツテオル。水筒ハ空々デアル。特二兵ノ活躍振り、涙グマシイ程デア

ル。

齊家柵―胡家浜―張家宅―莊家宅 王家宅

莊家宅 王家宅 二於テ露宮。
午後四時半、朱家宅 周家宅 二於テ、第一線ニ出テ旅団長ノ指揮下ニ入ル ノ命ニ接シ、中隊長ヨリ旅団長閣下ノ指揮下

ニ入ルノデアルガ、何処マデ行クカ判ラナイ、各人命ノ続ク限リ従ツテ来イ、ノ調子デ、駄載ノママ第一線ニ向ツテ猛烈ニ進ンダ。

「朱家宅ニ於テスデニ小銃声ガ約千米前方デ聞キ、砲声殷々タリ。」
十月二日土、晴、「戦争ニ加入」

朝六時露宮地莊家宅 王家宅 ヲ出發。午前十時半張家角ニテ卸^(ママ)下、背囊ヲ残置シ、彈藥小隊ニ依シ、愈々戦鬪ノ為メ、戦銃隊ノ三偽装網ヲ着用シテ周浜宅ニ向ツテ前進。

「此ノ辺一帶敵ノ生々シキ死体モ散乱シテオルガ、友軍ノ死体、負傷者ノ収容等悲惨ナル殺氣立ツタ有様デアル。」

午前十一時半周浜宅ニ進入、湯茶一シツクモナシ。全ク困難ス。周浜宅ニ進入、直ニ東方畑地ニ出デ北陸宅、姜家宅ノ敵ヲ猛射。MG第一小隊八第二中隊ニ配属。

「方角不明ノ箇所ヨリ狙撃セラル。」

午後五時半頃、北陸宅、姜家宅八19 iノ某中隊ガ突撃、占領。日章旗ヲ揚グ。然ルニ「」ノ方向ヨリ狙撃彈盛ニ飛来シ前進困難ナリ。午後六時半頃、第三中隊八北陸宅ニ進入、MG主力ハ尚現在地ニ於テ徹夜警戒トス。

「敵ノ迫撃砲盛ニ飛来、炸裂ス。」

十月三日、曇、午後二時頃ヨリ雨
炸裂スル砲弾下ニ乾パン食。塩気ナク、臭気アル。クリーク湯、全ク生氣ナシ。

「湯水ナキ為メ、青イ黍^{モヒ}幹ヲカジリ水分ヲ汲^ヌフ有様デアル。」

午後〇時半周浜宅 胡家宅 出発、僥家宅ノ敵ヲ攻撃ノ為メ前進。前進途中敵ノ猛烈ナル砲撃ニ見舞レ、実ハ大狼狽ヲ演ジタリ。故ニ部落ヲ除ケ、水田、畑ヲ散開隊形ヲ以テ躍進ス。午後三時僥家宅占領、引続キ新木橋ノ敵ニ向ツテ攻撃。

「新木橋附近一帯八堅固ナル陣地を構築シアリ 攻撃意ノ如クナラズ。」

(写真2)

十月四日、曇

昨夜八猛烈ナル迫撃砲及榴弾ノ洗礼ヲ受ケ、野原ニ露営ス。

朝五時半又モ猛烈ナル敵砲彈ヲ受ケツツ僥家宅ノ西端ニ至ル。

「午前八時半、第七分隊長野村勇伍長敵情視察中戦死、咽喉部貫通。又昼頃、西野千代治敵砲彈ノ為メ爆死。」

今夜モ前進出来ズ、露営。

此ノ附近デ中隊主力露営。砲弾ガ来ルノデ家ノ中ニ入レナイノデアル。

(写真3)

実科高女ノ三田村少尉胸部貫通銃創ト聞ク。

十月五日、曇、シヨボ〜雨

昨夜来降雨模様トナル。午前五時半頃ヨリ例ノ通り猛烈ナル敵ノ迫撃砲、機銃ノ射撃ヲ受ケツツ攻撃開始。然シ新木橋ニ対スルノ進出ガ遅レテオルノデ、僥家宅ノ線ヲ出レナイ。斜射、側射ガ烈シク。

櫓網湾ノ敵中々頑強ニシテ攻略出来ナイ。此ノ方向ヨリ攻撃、午

前十時。

(写真4)

午後二時、MG第四小隊八第二中隊共ニ櫓網湾ニ進入。

「五日後ノ如キハ、特ニ空腹ニハナルシ、水筒ニハ一滴モナク、畑ノ生茄子ハ勿論、生南瓜ヲ嚙ツテ、飢ト渴ヲシノイダノデアツタ。」

櫓網湾進入後、爾後載家宅、三家村、陸家橋ノ敵ニ対シ、警戒シ乍ラ露営ス。

支那米ヲ僅カニ徴発シ、煙ノ上ラヌ様ニシテ『チャン』ノ釜ドテ炊事、夕食トス。塩氣ハナシ、メッコ飯デアリ、咽喉ヲ通ラナイ。敵ノ砲撃ハ前半夜ハ割合平穩ナリ。

十月六日、雨

午前二時半第二中隊長ニ呼バレ、攻撃方向ガ変更サレタカラ夜明ケマデニ櫓網湾中央ニ陣地ヲ構築スベシ、ト云フノデアル。此ノ村落ハ敵ノ迫撃砲、野砲ノ巢窟デアツタ。

午前六時半工事終了。

(写真5)

此ノ附近ヨリ仏法僧 鳥 ノ鳴声ヲ聞ク。

特記

今マデ江湾、大場鎮ヲ、大包围ノ形ニ大回旋運動ヲヤツテ来タガ、印ノ如ク、反対方向ノ指向サレルコトトナツテ、要隘ノ如キ態勢トナル。

糧秣補充

午前八時半僅力二米、乾パン、缶詰ノ補給アリ、兵八活気付ケリ。
7i 左 方面ノ戦闘進捗セズ、本日一旦第二線ノ予定陣地ヲ占
領シタガ、両翼ノ關係上昨夜ノ壕中ニ後退シテ待機、夜ヲ徹ス。

十月七日、曇、雨、櫓網灣

一、午前五時頃ヨリ、7i 方面毎日ノ通り猛烈ナル銃声、砲声デ
アル。

一、連日悪天候ノ為メ、陣地壕内八突ニ手ノ付ケ様モナイ程、土
ガコテくニナツテ、作業、居、困難、坐ルコトモ出来ナイ。
一、髭八伸ビ、髪八長クナリ、色ハドス黒クナリ、身体ハ泥ダラ
ケテ見ラレタ者ジャナイ。

午前十時頃ヨリ降雨甚ダシクナリ、壕内坐ルコトモ出来ズ、全
ク閉口ノ極デアル。

午前十一時半頃ヨリ、我重砲、江湾西北方ニ進出、猛烈ナル砲
撃百雷ノ如シ。雨中陣地移動。

午後二時命。

9 D H 13 D ト陣地ヲ交代シ、西南方ニ攻撃指向地ヲ変更ス。第
二中隊八第三小隊トMG 第四小隊ヲ現在地ニ残置シ、13 D ノ
或部隊ヘ引継ノ為メ 現在地 櫓網灣 一楊家楼一孫家頭一徐
家宅ニ前進ス。残置隊ハ現在地ヲ死守シ、交代後中隊ノ位置ニ
追及スベシ、ト云フノデアル。

(写真6)

午後七時雨中ヲ交代部隊来ル。第十三師団ノ特設第一〇四連隊
ノ第9中隊デ、中隊長以下後備役ノ召集者ハカリテアル。夜遅

クナツタ關係上、明朝中隊ニ合スルコトトシテ今夜ハ櫓網灣ニ
アリ。

十月八日、曇、雨ハ稍々止ム

午前七時櫓網灣ヲ出発。途中畑ヲ横切り前進、雨ノ為メ泥田ノ如
ク歩行困難。回りくツテ午前八時半徐家宅ニ到着 第四小隊ハ予
備隊ニ入ル。

丁度MG中隊本部、第二中隊主力ハ休憩中デアツタ。

「コレヲ患 当部落 徐家宅 二於テ、第四中隊ノ兵二名コレヲ病
二罹ル。」

本日ノ攻撃目標。

36 i 八猛家宅一朱宅二巨ル間。

八徐家宅ヨリ朱三房、朱宅、須宅方面。

八魔橋頭一後巷一猛家宅一清水願方面。

薄暮ト共二大隊予備隊タル第2中隊、MG 第4小隊ハ、朱三房ニ向
ツテ前進。然レ共雨ト暗闇ノ為メ方向ヲ誤リ、足先ハ見エズ、泥
田ノ様ナ処ヲ滑リ転リ乍ラ、或部落ニ到着シタガ、行先ガ目的地
デナカッタノデ後退シテ、汗ト雨ニ泥ノ子ノ様ニナツテ朱三房ニ
午後八時半到着シタノデアル。

途中敵カラ小銃彈ハ飛来スルシ、銃手ハ重イ銃身、脚、彈藥箱ヲ
担ビ、並大テイノ苦勞デハナカッタ。

十月九日、雨、夜半来又雨デアル

第三中隊ノ右二陣地ヲ占領シ、花家橋宅、須宅、清水願ヲ射撃シ
得ル如ク。

但、第三中隊前進シテモ、清水顧占領セサルトキハMG八前進セサルコト。午前十一時攻撃開始ノ予定ナリシモ、午後三時二延期シテ実行。

〔所感〕

散兵線ニアル小銃中隊八更ニ射撃ヲシナイ。殊ニ小銃ノ如キハ射撃スル者ガナイ。壕内ニ隠レテオルバカリデアル。故ニ攻撃前進前ニ掩護射撃ヲシテヤツテモ前進シナイモンダカラ、サツパリ予定ノ行動ガ予定ノ時間内ニ出来ナイ。占領出来ル部落ガ占領出来ナイ。

九日正午ニ於ケル / 36 i 正面ノ態勢。

(写真7)

午後四時須宅占領ニ成功。猛烈ナル戦闘ナリシモ幸ニシテ我小隊ニ損害ナシ。

消耗弾 三箱

午後六時四十分、 / 36 i 八師団予備トナルベキ命ヲ受ケ、須宅

第二中隊トMG第二中隊ヲ残置シ、残余ハ徐家宅ニ集給ス。^(結力)

小銃弾盛ニ此ノ処ニモ飛来シ、第一線ト異ナラズ。

〔馬来田少尉戦死。十月九日朝。猛家宅？ 摩橋頭？〕

十月十日、夜来大雨、〔徐家宅ニ在リ〕師団予備第二日

九月十日召集令状ヲ受ケタ日デアル。満一ヶ月ヲ経過セリ。

〔一、昨日来降雨ノ為メ、日本軍トシテ空軍ノ協力ハ得ラレズ、堀壕モ意ノ如クナラズ、従ツテ地上軍ノ攻撃全ク意ノ如ク進展セズ。支那兵壕中ニ雨傘ヲサスアリ。〕

支那兵ニシテ、服ノ裏へ黄色ノ片布ヲ附シ、之ヲ示シテ降参シテ来タ者ハ射殺セス、捕虜トシテ取扱ヘ、トノ命アリ。

風雨ノ為メ飛行機トノ協同モ面ハシカラズ、戦闘進捗セズ。銃声殷々タリ。

十月十一日、雨午後晴、徐家宅ニ在リ、師団予備第三日

昨夜八今日マテニナイ静寂サデアツタ。襦袢ノ洗濯、久シ振り身体ノ水拭ヒ。

野村清蔵伍上、第七分隊長トシテ第二小隊ヨリ来ル 谷本伍長ノ代リ。

谷本伍長ハ兵器係トシテ指揮班ニ入ル。

午後五時前後陳家宅ニ対シ爆撃。

十月十二日、小雨、在徐家宅、師団予備第四日

午前七時二十分、早朝ヨリ予備隊ノ位置へ敵ノ砲弾盛ニ飛来ス。〔当部落デハコレラ患者ガ発生スルヤラ、野村大隊長殿初メ腹具合ガ一般ニ悪クナツテ、患者多シ 赤痢疑似。〕

午後四時頃二八、敵砲弾ノ為メ家屋内ニ居リシ第2中隊兵数名即死、6名負傷。我砲兵陣地ガ部落近クノ畑中ニアル関係ナラン。

十月十三日、晴、晩方曇、在徐家宅、師団予備第五日

昨夜モ銃砲ノ洗礼ニ、一発ノ今力ノト懸シナガラ就寝シタガ、損害モナク夜明。

午後一時飛行機ノ爆撃、砲撃ゴゴゴタリ 陳家行方面ニ対シ。第一線ハ相変ラス攻撃進展セズ。

十月十四日、晴、曇、雨又晴、在徐家宅、師団予備

夜半ヨリ払曉二亘リ、陳家行方面猛烈ナル銃砲声デアツタガ、攻撃意ノ如クナラス、依然トシテ奪取出来ス。一部占領。

十月十五日、晴、北風強シ、在徐家宅、師団予備

情況昨日ト殆ソド変化進展ヲ見ス。13 D 方面八砲声殷々タリ。

十月十六日、快晴、在徐家宅、師団予備

1、午前二時頃ヨリ約一時間、敵ノ榴弾盛ニ当部落ニ落下ス。

2、天気ハヨシ、払曉ヨリ我飛行機活躍。

3、理髪ヲナス。久シ振り。

4、巡察將校ノ勤務ニ服ス。

午後九時四十分頃ヨリ、又モ猛烈ナル銃砲ノ攻撃ヲ受ク。第一線ヲ突破サレテ、予備隊ノ位置ニ襲撃ジャアルマイカト思ハレル程ダツタ。

十月十七日、快晴、在徐家宅

午前八時二八嵐ノ後ノ静ケサデアル。飛行機ハ払曉ヨリ活躍開始

朝ノ大隊命令。

大隊ハ7 i ノ左翼談家頭ニ向ツテ前進セントス。7 i ガ姚宅

ヲ奪取次第行動ヲ開始スルヲ以テ、各隊ハ直ニ宿営地出發ノ

準備ヲナスベシ。

陳家行方面ハ静カデアル。7 i ハ陳家行、陸家、姚宅占領。

老陸宅方面ハ終日相当ノ銃声デアル。13 方面デアル。

「此ノ日敵ハ、空陸相呼応シテ逆襲ノ兆アリ。ト伝ヘラレタガ、何ノ変化モナシ。」

(写真8)

十月十八日、快晴、水曜、在徐家宅

「晩ノ命令。」

ノ36 i ハ午前七時三十分、泰家巷一無名部落一頓悟ニ出テ談

家頭方面ノ敵情搜索。

MG 第4 小隊ハ第2 小隊ニ配属シ、大隊ノ進路ヲ頓悟ニ向ツテ前

進、第3、第4 中隊ハ予備隊。

十月十九日、快晴、木

午前七時三十分、昨夜ノ命令ニ基キ徐家宅出發、八時半予定地頓悟ニ到着。

「第七連隊力非常ナル苦戦ヲシタ所デアル。彼我ノ屍累々タルモ

ノニシテ臭氣鼻ヲツク。第七連隊ノ兵ハ裸体、或ハ襦袢、袴下ノママ突撃、肉弾戦テ奪取シタト云フ。」

7 i ハ午前中ニ北桃園浜ト談家頭中間無名ニ部落ヲ占領。或中隊ノ如キ八下士以下十数名残レルノミナリ、ト云フ程激戦デアツタ。

(写真9)

十月二十日、快晴

午前三時、昨夜ノ位置 頓悟南方クリークノ線 ヨリ無名部落ノ

線ニ進出、7 i ト交代シテ談家頭ニ対シテ配備ニツク筈ダツタガ、

交代後地形ノ關係上、無名、三軒家カラ狙撃セラルル為メ、談家頭攻撃ノ運ビニ至ラス。

(写真10)

午後九時頃ヨリ敵八例ノ如ク猛射ス。

十月二十一日、快晴

一、午前五時ヨリ約三十分敵八例ノ如ク乱射。

一、昨夜八敵ノ壕ヲ改造シテ壕内生活、穴居生活トシテ八氣持ノ

ヨイ夜ダツタ。

負傷 金田米一 午前十時十分頃作業中小銃劊

懸 俊雄 砲弾破片劊。

吉田秀次 小銃弾劊。

山口宇太郎 擦過劊。

「友軍砲弾ノ為メ大混雜ヲシタモノデアル。吾レモ二尺程ノ処へ弾丸落下、命拾ヒ。又作ツタ壕ニ砲弾命中、若シ其ノ壕内ニ居タナラバ命ナシダ。砲弾ノ落下スル最中ニ後退シタノデ、命拾ヒヲシタノデアル。」

午後一時五十分談家頭占領、鹵獲品多数。

第2中隊八第4中隊ト交代、午後五時後退。MG 4小隊八相変ラズ

第4中隊ニ配属、此ノ位置ニアリ。

十月二十二日、快晴

午後三時談家頭ヨリ趙宅ニ向ツテ攻撃前進。右ヨリ第3 MG 4小隊、

第4 MG 主力。

(写真11)

敵陣地ノ状態ニヨリ斜行シテ攻撃ス。

負傷 林志計夫。

平病 道清分隊長、右脚痛ミノ為メ立テズ、後送。

合川上等兵ヲ一時分隊長代理。

敵銃火ノ為メ敵前約三百米ヨリ前進出来ス、壕内ニ停滞。

第四中隊八小隊長1、下士官、兵若干死、同若干負傷。

十月廿三日、快晴

昨日ニ続キ趙宅攻撃。

大ナル『クリーク』アル關係上、攻撃進捗セズ。

午前八時半、趙宅、沈宅占領。彈藥消耗四箱。王宅、張宅飛行機ヲ以テ盛ニ爆撃、敵兵盛ニ逃グ。

「趙宅占領ノ動機。

1、趙宅ノ敵八移動シテ我ニ逆襲ヲ試ミタ。其ノ移動シテ留守中ニ当面ノ中隊ガ占領シテシマッタノデ、全ク幸運ダツタ。

2、我占領シテ、敵ガ帰ツテ来ル奴ヲ片ガ射殺スルノデ面白イ程デアル。又各種兵器等モ多数鹵獲セリ。」

午後三時、第1、第2中隊第一線、張宅、王宅ヲ難ナク占領。

第3、第4中隊予備隊。MG 第4小隊八第2中隊ニ配属替へ。午後

五時楼下宅ニ進入。其時前方八房宅、側方張家宅南方無名部落ヨリ猛射ヲ受ク。

(写真12)

楼下宅ヨリ『走馬塘クリーク』マデ約八百米。午後五時五十分

頃迫撃砲ノ猛襲、第2中隊小隊長 藤沢三駄 負傷、後死。

小生地形偵察中帰り、身辺ニ落下、破片飛付キシモ負傷ナシ。

神仏ノ御加護ノ外ナラズ。敵八八房宅ヲ堅守。

本夜八楼下宅南方地区ヲ堅守ニ決シ、小生八MGト第2中隊ノ一小隊ヲ合セ指揮ス。

十月廿四日、快晴

昨夜八我正面二夜襲モナク夜明ク。

○時命令。

一、敵八退却中。

二、軍八之ヲ蘇州河方向ニ追撃。

三、師団八直チニ追撃、前面ノ敵ヲ殲滅、走馬塘南岸ニ進出セ

ントス。

四、各隊直チニ追撃開始。

午後〇時行動開始。午後一時、八房宅占領、クリークノ線マテ進出シテ午後四時半 ト交代、Rノ予備隊トシテ楼下宅へ後退ス。

十月廿五日、快晴

八第一線トシテ走馬塘ノ北岸ニ在リ。

午後二時四十分師団命令要旨。

敵八ドン／＼南翔及其南方ニ退却中、13 D、11 D八南翔ニ向ツテ進撃中、9 D八蘇州河ニ向ツテ進撃。

午後二時ヨリ前面ノ小銃声ハ非常ニ遠クナツテ来タ。

午後三時半追撃前進、八房宅ニ至リ更ニ前進。

午後四時半走馬灯ヲ渡リ、五時北張村ニ入ル。北張村ニテ軒下ニ

露営。

負傷 小松 保 右脚コブラ。

欠員ノ補充 第七分隊長 後備伍長 吉田重義

第八分隊長 後備伍長 不破正志

十月廿六日、晴、曇

午前八時北張村出発、八時半南張村ニ入ル。

同村、名津井初次郎君ニ面会ス。

午後二時十分南張村ヲ出発シタガ、左右ノ關係デ又元ノ休憩シテ居タ処へ歸ル。

負傷 吉村正一

：仙師廟、陸家宅ヲ占領。

：李寺橋、梅園、張家巷占領。

「大場鎮ハ3 Dニヨリ三日前ノ廿三日陥落セリト。」

(写真13)

突如、午後五時半洛陽橋占領ノ目的ヲ以テ南張村出発。李寺橋ト梅園ニ至ツタガ、都合ニヨリ午後九時頃又李寺橋ニ後退シ、數ノ

中ニ翌日午前四時マテ居ル。

十月廿七日、快晴

天候ガヨクテ戦争モ面白ク出来ル。午前四時李寺橋發、梅園西南端ニ陣地構築。

六時半ヨリ裴家橋、洛陽橋間ヲ猛射、重砲八同時刻ヨリ洛陽橋ヲ砲撃。

午前七時過キ 八洛陽橋占領、引続キ平押シニ大道路ニ沿ヒ南進、道路ト裴家橋・李家沙西・劉家橋ニ向ヒ馬安公墓ノ線ニ展開、午前九時攻撃準備。

「占領ノ際ノ歩砲ノ協同突ニ申分ナシ。」

「午前十時半劉家橋南端ニ於テ安保中隊長殿脚ニ負傷セラル。」

不破正志伍長右上膊貫貫、午前一時半 劉家橋南端陣地ニテ。

午後五時殿宅、塔來橋占領、MG第四小隊八指揮班ト共ニ中隊主力

トナル。大隊本部八午後六時劉家橋二入ル。

本夜八劉家橋ニテ屋内露営。

(写真14)

十月廿八日、快晴

内山少尉中隊長代理。

敵八急激ニ退却シテ、夜半来殆ント銃声ヲ聞カズ。八連隊命

令ニ基キ第一中隊尖兵、本道上ヲ午前五時半劉家橋出發進撃、

午前六時半滬寧線ニ到達。向フ処敵ナク、夜ノ白ミト共ニ遠ク

砲声ヲ聞キ乍ラ、愉快ナ行軍デアル。

江橋鎮八盛ニ攻撃中ニシテ銃砲声盛ナリ 他部隊ノ攻撃正面ナ

リ。馬家宅ニ一時停止、後ハトシノ急進、午前十時

ニ於テ一部ノ敵占領セルモノニ遭遇シ之レヲ撃退、午前十一時

半、北部夏家頭着、昼食、同時ニ前方ノ敵情、地形ノ偵察

(写真15)

南夏家頭ノ敵八大ナル抵抗ナシニ退却ス。

此ノ附近ニ八老母等相当逃ゲザルモノアリ。

又野菜物豊ナリ。

本夜八当南夏家頭南端ヲ占領シ夜ヲ徹ス。

「此ノ地方ノ住民一般ニ好意ヲ持タズ。」

十月廿九日、晴後曇

蘇州河南岸ニ八敵ノ陣地アリ。又朝来更ニ構築中ニシテ、午前十

時頃ヨリボチノ我ニ向ッテ小銃射撃ヲ始メタリ。

正午命令。

八71ト交代後戦場掃除。

八西浜宅ニ於テ師団命令 十一月X日蘇州河突破、南進ノ

準備完了スヘシ。

八徐家宅ニ於テ ト同様

ノMG、IA八ニ属セラレ、十月卅一日マデニ配属大隊長ノ指

揮下ニ入ルベシ。

以上ノ命令ニ基キ午後一時半南夏家頭ヲ撤退シテ、旧浜ニ集結シ

テ露営ノ準備ヲシカケタガ、MG第4小隊ハ第3中隊長ノ指揮下ニ

入り、午後五時石橋ニ至リ、紅橋鎮ニ対シ警戒、陣地ノ構築。

大隊命令。

『第三中隊 MG一小隊ヲ附ス 八石橋ニ至リ、ト交代シ、第

十一師団江橋鎮攻撃中ニ付キ、石橋ヲ警戒スベシ。』

ト云フノデアル 雨ガボチノ落チ出シタ。

昨日ノ追撃ニ比シ眼前ニ敵ノ陣地アリ。敵兵ノ右往左往スルノガ

見エ、小銃、重機、輕機等甚ダシキ变化ナリ。

(写真16)

十月三十日、雨、在石橋

11D午前六時ヨリ江橋鎮攻撃開始。石橋方面ヨリ八後備大隊ガ

攻撃ラシイ。中々進捗シナイ。

午後二時半ニ到ルモ尚石橋ニ在ル 吾々ニ、地形ヤ敵情ナドヲ尋

ネ廻ッテオル有様デアル。

弾薬小隊ガR本部所在地ノ旧浜ニ進出シタノデ、嘗テ置イテ来

タ背囊ヤ、図囊ヲ持ッテ来テモラッタノデ、万年筆デ字ガ書ケ

ル様ニナツタ。

加給品。煙草ハット、日本酒、スルメ。

平病。大門喜代治、『コレラ』ノ症状デ大隊本部へ送付。

十月卅一日、小雨、午後止ム

『中隊主力ニ復帰スベシ』ト云フ命令ニ接シ、坪田小隊八第三中隊ト別レ、午前九時当部落。石橋 ヲ引上げ、連隊本部ノ位置旧浜ヲ経テ、ノ所在地西浜宅ニ至ル。午前十時。

第十一中隊ノ宿舍ノ一部ニ、MG全部入ツタノデアルガ、丁度第十一中隊ガ留守中人舎シタノデ、第十一中隊ノ者ノ装具ガ紛失シタト力、或ハ貴重品ガ紛失シタト力デ、坂大尉カラ取調ヲ要求セラレ、散々ナ目ニ遭フタノデアル。

午後四時ヨリ、分隊長以上蘇州河渡河ノ為メノ陣地偵察。

蘇州河対眼(岸)一帯ニ亘リ堅固ナル陣地アリ。時々狙撃セラレ。午後十一時頃約二十発位R本部附近へ敵ノ榴彈飛来ス。

昭和十二年十一月一日、昨夜来雨、北西ノ風稍々寒

午前五時ヨリ約二十発榴彈R本部部落附近へ落下、炸裂ス。

午前七時西浜宅出發、陣地。蘇州河攻撃渡河ノ附近。二就キ陣地構築。MG八第ノ渡河掩護ノ為メ配属セラレタノデアル。

一、午前十時半頃、山、重砲ノ集中射撃アリ。弾着過近、友軍吾々ノ陣地附近、危険ニツキ後退セシモ、後退ノ後レタル分隊デ我山砲ノ為メ戦死傷アリ。

二、正午ヨリ工兵ノ煙幕構成ニ引続キ、小銃中隊ノ舟渡。

「斜方向ヨリ敵弾猛烈ニ飛来シ、舟橋モ架ケラレナイノデアル。

渡シ舟 銃舟 ニドンノ弾ガ命中シテ穴ガ開キ、甚タ危険ナリ。負傷シタルモノモアル。」

三、午後一時大部分ノ渡河シ終ル。渡河大成功、感状ヲ賜ハル。

続イテ予備隊ノ渡河、姚宅、張家宅ノ敵ヲ掃蕩ニ突進。

四、19 D、36 R全部、本日舟渡ヲ終リ、張家宅、姚宅ニ入ル。

五、張家宅東端ニ露営、午後七時。

(写真17)

昭和一二、一一、二、曇、雨、張家宅ニ在リ

一、昨夜八終日射止マズ。大砲八日暮レ少シ来タガ其後來ラズ。敵ノ弾着適當ニシテ、予備隊ノ位置ニアル者スラ相当ノ死負傷者ヲ出セリ。

ノ攻撃前進、午前八時三十分間イタガ、予定ノ通り行ハレズ。

午前十一時、吉田分隊長左頬及左肩ニ擦過傷ヲ負フ。張家宅東南端陣地。

大靛原負傷、午後一時三十分、左背ヨリ右肩へ貫通。

雨ハ降ルシ、寒クハアリ、足場悪シク困難ス。第一中隊ニ配属セラレ、蔡家宅ノ攻撃ヲ命セラル。午後三時第一中隊攻撃前進、薄

暮ニ至リ蔡家宅ノ一角ヲ占領。

MG第四小隊モ統イテ進入。

「三方敵中ニ在リ、然モ小銃中隊ノ兵力僅カニ山際少尉以下三十名位。心細キ事限リナシ。」

薄暮デハアリ、吾々ノ侵入シタ事ヲ支那兵知ラナカッタノデアロ。附近ヲ支那兵ガガヤノ言ヒ乍ラ、盛ニ八字橋、狄巷上

方面ト往復シテ居タ。

昭和一二、一一、三、曇、雨

中隊主力八一日以来張家宅ニ在リ。昨夜八全ク一睡モセズ、濡レ身ノママフルヘ乍ラ、生キ心地ナク徹夜ス。

一、午前七時前後我ヲ知ラ又敵ハ右往左往、我一角ノ陣地ニ接近シアリ。近キ八一〇米、遠クモ一〇〇m。我兵ハ小銃、MG、手榴彈ヲ以テ狙撃、爆撃。面白イ程、片バシカラ来ル者ヲ屍シタ。昨夜ノ死ノ思ヒモホツトシタ。

「軍刀ノ柄曲折ス。

午後〇時五十分、昼食セントシテ腰ヲ卸シ、伝令徳田ト共ニ乾麵包ヲ喰ヒ始メタトキ、友軍砲弾ニ見舞ハレ、軍刀柄曲折ス。」

蔡家宅、狄巷上、八字橋ノ敵ハ、今マデニ見ザル頑強ナル抵抗振りテアル。

命令。

ハRノ予備隊、第一中隊八日暮ト共ニ張家宅ニ復帰スベシ。

第七中隊ハ蔡家宅堅守 八字橋攻撃。

一、午後七時盲射ノ中ヲ、膝ヲ没スル泥水ノ交通壕中ヲ、パシヤノ泥人形ノ様ニナツテ、或ハスベリ、或ハ竹藪中デ連絡ヲ失ヒ、命ノアルガ情ケナイ氣持チデ、午後九時過ギ中隊主力ノ位置ニ到着ス。腹ガ減ツテ何ト思ツテ乾麵包ヲ喰フタ事ヤラ。

昭和一二、一一、四、曇、在張家宅

昨三日ノ明治節ニ加給セラルベキ加給品ヲ、本日分配サル。

押物菓子巻箱 二ヶ入、日本手拭一、スルメ一、日本酒、

羊羹小2。

一、支那軍、我軍ヲ見下ゲタノ力、横着ニモ昼間予備隊ノ位置ヘ砲彈ヲ落シヤガルノデ、危険千万ナリ。遂ニ穴居生活。

二、午後晴氣味ニナルト共ニ、戰場モ大変活氣ツイテ来タ様タ。

日本軍ハ何ト云フテモ天氣ガヨクナラネバ駄目タ。

一、左記ノ者彈薬小隊ヘ送ル。

負傷 上 中西竹蔵 左肘貫通。

上 野村清蔵 同。

一 大葎原修 左背ヨリ右肩。

一 南 龍雄 左眼上。

戦況。

午後三時過、及第七中隊ハ狄巷上占領ストノ情報アリ。引続キ八字橋ノ敵ヲ攻撃ノ筈。19 Rハ蘇州河畔ノ張巷ヲ占領、屈家橋ニ進ム筈。

十一月五日、曇、午後又雨、在張家宅

戦闘。

徐家巷、狄巷上中間地区ニ陣地占領。日暮レテ益々雨烈シクナリ、壕ニ天幕ハ張ツタモノノ壕内ニ水ハ溜マリ、健康状態面ハシカラズ。実ニ情ケナクナツタ。

十一月六日、曇

雨ハ止ンタガ曇天、降りソーデアル。飛行機ハ飛ンデオルケド、サツパリ爆撃ガ行ハレナイ。本日モ攻撃ノ命令ハ下ツタガ、サツパリ面ハシク前進ガ出来ズニ終ツタ。

十一月七日、雨、風

昨夜八、夜半3D方面ニ重砲声猛烈ナリ。昨晚カラ降り出シタ雨八、風サヘ加ハリ、困難ナ上ニモ困難トナツテ来タ。

一、午前九時、東部八字橋ニ進入、雨中午後一時三十分施家巷ニ対シ砲兵ノ集中射撃。引続キ歩兵部隊ノ、攻撃前進。
一、本夜八八字橋ニ入り穴居。

十一月八日、快晴

久シク青空ヲ見ナカッタガ本日ハ快晴、腹具合モ良クナリ、晴々シタ氣持デ戦闘ガ出来ルノガ実ニ愉快ダ。飛行機モ動き出シタ。

噂ニヨレバ新鋭ナル一軍某地ニ上陸、集中ヲ終リ、敵ノ背後ヲ突ク模様デ進撃開始ト聞ク。実ニ心強イ 第十軍ト名ツク。

十一月六日現在ノ態勢。

(写真18、最も薄い部分は青鉛筆)

昼八珍ラシクモ敵ハ沈黙シテオル。

十一月七日午前九時完全ニ占領ス。

十一月七日午後三時ノ態勢。

(写真19)

「敵ノ抵抗頑強ナリ。」

八日朝マデニ一部占領、進入、但、部落内掃蕩ハシテナイ。

七日、師団命令ハ、36 i 八本日中ニ施家巷ヲ占領スベシ、ト云フノデアルガ、天候ト地ノ不利デ相当ノ死傷ヲ出シタガ、施家巷ニ百米附近ニ硬着、夜ヲ徹セサルベカラザル状態トナリリ。^(レカ)

MG 八八字橋ニ露営。第一線ニ配属サレシ小隊モ集結ス 降雨ノ

為メ止ムヲ得ズ。

廢墟同様ノ家ノ中ニ露営ヲスルノデアルガ、敵砲彈ノ為メ疲レタ身ヲ以テ穴ヲ掘ツテ入ル所ヲ作ラネバナラヌトハ、実ニ戰場ノ悲惨事ト云ハネバナラヌ。

八日、坪田准尉ハ第四小隊ノ一銃ト第三小隊ノ一銃ヲ以テ、完全ナル一小隊ヲ編成、指揮シ、第一中隊ニ配属、戦闘ニ協力。
午前八時迄ニ出発準備完了。

情況。 八第4、第1中隊第一線、先ツ東部施家巷ニ進入、掃蕩シツツ西部施家巷ニ辿リ着キ、先ツ曹家宅ヲ攻撃セントス。
攻撃実施。

… 東西施家巷ノ中央ヨリ碑坊路以東地区。

… 碑坊路ヨリ西、陳家巷西端ト、張家巷東端ヲ連ヌル線。

即チ ト ノ戦闘地境ハ碑坊路トス。

(写真20)

A、正午ニ八未ダ八字橋ニ在リ。午後一時三十分、右第四中隊、

左第一中隊トシテ、東部施家巷ニ向ツテ突撃。

午後二時、部落内ニ進入、掃蕩。

中々掃蕩シ切レズ、四圍ヨリ猛烈ナル射撃ヲ受ケ危険此ノ上モナシ。

元々第四、第一中隊ハ、無理ナ進入ノシ方ヲシタノデアル。

過小ナル兵力ヲ以テ、煙幕ヲ張りツツ敵ノ手薄ノ箇所カラ進入シタノデ、中々掃蕩ニ骨ガ折レタ。漸次予備隊タル第二中隊、本部、ノ第6中隊モ到着、一時八大混雑。

八日午後五時二於ケル態勢。

午後五時半頃約三百ノ敵ハ逆襲シ来ル。第二中隊、MG等二依ツテ撃退。

(写真21)

午後十時頃マデハ、猛烈ナル盲射、乱射ヲ続ケテ居タガ、夜半以後ハ全ク一発ノ銃声スラ聞エズ、反ツテ気味悪ク九日ノ朝ヲ明カシタモノデアル。

十一月九日、快晴

一、昨夜八東部施家巷東端ニ於テ夜ヲ徹ス。

二、午前七時半追撃開始。敵ハ夜半以後退却ノ模様。

八第四中隊ヲ尖兵トシテ西部施家巷一普家宅ヲ経テ、碑坊路上ヲ右方ヲ掃蕩シ乍ラ南方ニ急速ノ追撃ヲ開始シタ。我大隊ノ進ム処殆んど敵ナク、約三千米ノ間旅次行軍ニ近キ行進ヲナス。姚巷上東方無名部落附近ヨリ敵ノ小銃弾飛来ス。午前九時半。王家、油車里迄八各所ニ陣地アリ、塹壕掩蓋銃座等アリシモ、以南二八之レヲ見ズ。湯家巷、油車里附近二八各所ニ陣地、鉄条網サヘ作りタル所アリ。碑坊路ハ多数軍隊ノ通過セル跡歴然タリ。砲車ノ跡モアリ、有刺鉄線、土囊等多数防御用材料遺棄シアリ。

徐家宅一金家橋ニ若干ノ敵アリ。之レヲ攻撃。午前十時。逐次若干敵ノ抵抗ヲ排除シ乍ラ、正午江橋飛行場ニ到着。各格納庫ハ既に爆破サレアリ。碑坊路側、飛行場入口二八拒馬壕、ト一チ力等仲々堅固ナル防御振りデアル。敗残兵多数。

敗残兵ノ抵抗ヲ猛烈ニ排撃シツツ午後二時、師団第二期進出ノ計画地点タル碑坊路、江橋路交叉点ノ線ニ進出スルヲ得タノデアル。交叉点家屋脇坂部隊本部ニテハ、屋上高ク日章旗ヲ翻シ万歳ノ声連呼、吾々ハ夫々露営ト警備ヲ兼ね配備ノ準備ヲ為ス。

配宿要図。

(写真22)

午後二時二八要図一帯占領、小銃ノ音サヘ聞エズ。

我飛行機八盛ニ低空飛行ヲ以テ敗残兵ノ爆撃ニ活躍シアリ。

八高家湾ニ露営、配宿、休養、警備、兵器ノ手入ト云フノデ、腰ヲ落チツケタガ、連隊ノ命令ニヨリ午後五時半沈巷上ニ移動、露営ス。

兵力ノ消耗。

十月廿五日以來 第一回補充員ヲ受ケテ間モナク、各中隊共損傷多ク、十一月一日頃二八各中隊平均四、五十名、少キハ予備少尉ノ指揮スル三十名位ノ中隊サヘアリ、攻撃力ノ減退甚タシ。

十一月十日、晴、在沈巷上

今日初メテ騎兵部隊ガ某地ニ向ケ活躍ヲ開始セルヲ見ル。

十一月九日、辱クモ師団八高松宮殿下ノ御台臨ヲ^(仰)迎キ、憂握ナル御言葉ヲ賜ハリタリト訓示アリ。

戦闘開始以來肩章ヲ徐イテ居タガ、本日ヨリ全般ニ着スル様、連隊会報。

第一次行動ハ將兵ノ勇武ニヨリ見事目的ヲ達シタ。第二次行動

八外人多数居住シテオル所ナレバ、諸行動嚴肅ニシテ我皇軍ノ威武ヲ示スト共ニ、軍ノ威容ヲ損スルガ如キ行動断ジテアルベカラズ、トノ訓示アリ。

「右ノ訓示ヲ見ルニ、此ノ地ヨリ前進セズ、上海近ク外人ノ居ル処デ交戦スル様ナ予定ラシイ。」

彈藥小隊八本日全部当部落 沈巷上 二集結ス。

江橋飛行場八今日ヨリ我物トナリ、飛行機ガ発着出来ル様ニナツタ。

昨日ノ午後三時頃には未ダ敗残兵ガ居タノデアル。

第七中隊ノ水野一郎君ガ面会ニ来テクレタ 健康デ結構タ。

陽氣。

1、夜ハ一般ニ寒サヲ感ズルガ、昼ハ暖カデ燕ガ未ダ飛ンデオ
ル。

2、夜ノ寒サトテモ、内地ノ十一月ト云ヘバ随分寒イ筈デ霞モ
降ローガ、当地デハ霜モマダ降ラナイ。

来翰 西島与太郎氏、岡本秀雄氏

十一月十一日、半曇、晴、在沈巷上

遠方デ夜半ニ、三発、朝五、六発砲声ヲ聞ク。小銃声ナシ。

第二回補充員到着。

横井少尉、木水徳松伍長、上等兵以下十九名、計二十一名。

言伝トシテ小包二個受領。

Aーワカモト吉、ノーシン吉、キヤラメル小2。

Bーワカモト吉、ノーシン吉、キヤラメル小2。

十一月十二日、曇後大雨トナル、追撃前進第一日、戦闘ナシ

一、午前五時警戒ニ当レル部隊ノIG射撃銃声ヲ聞ク。唯事ナラズト思ツテ居ル内、突如出發命令アリ。午前八時。

1、師団八崑山ト太倉ノ線ニ向ツテ攻撃前進ス。

2、連隊八朝、昼食ヲ終リ、午前十時半迄ニ出發準備ヲ完了スベシ。

二、中隊八各自ニ背囊ヲ分配シ、整理シ、編成ヲ改メ、出發ノ準備ヲナス。

彈藥小隊八若干ヲ残シ、行動ヲ共ニス。

「朝来、重砲声殷々トシテ活動ヲ開始ス。」

三、本日ノ進路

沈巷上 十一月十二日午後二時五分發 一紀王廟鎮ト崑山ト向
フ。

午後一時命令要旨

1、連隊八右縦隊トナリ、紀王廟鎮附近ヲ経テ、黄渡鎮ニ向ヒ
前進セントス。

2、前衛、第三中隊尖兵 MG増田小隊配属 本部第一中隊、
第四中隊MG主力、歩兵砲小隊の順序。第二中隊ハR予備

途中道路不案内ノ為メト降雨ノ為メ行進抄ラズ、殊ニ馬携行ノMG
隊ノ如キハ、『クリーク』ニ橋ナキカ、或ハ馬ノ通過困難ナル橋

ニ遭遇スルナド、想像以上ノ困難ヲシツツ午後七時第一大隊ノ宿
营地ニ到着シタガ、狭イ為メMGハアチラヘ行ケ、コチラヘ行ケデ

又又大混雑。

宿营地、浜頭。

(写真23)

(写真24)

十一月十三日、曇、晩方快晴、追撃第二日

中隊八午前五時起床、午前六時半出發シ得ル如ク整理。

大隊八七時三十分、其ノ尖兵ガ宿营地ヲ出發ス。連隊八黃渡鎮ニ向ツテ前進。

午後二時半黃渡鎮着。

イ、可ナリノ町デアルガ、随分我飛行機ノ爆撃ヲ喰ツテ中ル。

ロ、強固ナル陣地ガ構築サレテ居ルガ、南翔モ陷チ容易ニ当地

モ奪取セラレタノデアル。

ハ、本日モ戦闘ナク宿营地ニ到着。

二、宿营地八黃渡鎮西方約七百米ノ部落、夜八砲声モ聞カズ至

ツテ静寂タリ。

黃渡鎮ノ陣地ハ、重ニ西方ニ向ツテ構築セラレアリ。然ルニ日本

軍八東方ヨリ攻撃シタ為メ、陣地トシテハ価値大半ヲ失ヒ、更ニ

砲撃、爆撃ニ大ナル抵抗モナシ得ズシテ、遠ク退却セルモノノ如

シ。

十一月十四日、快晴、追撃第三日目

一、午前五時三十分中隊八宿营地出發。

一、大隊八午前六時半 上 陸家宅 ヲ出發、約三百米ノ地点ニ

於テ『クリーク』ノ巾広キ、且巾狭キ橋ヲ渡ル為メ、馬ヲ河ニ

落スヤラ、銃、彈藥ヲ載セ卸セラヌル為メニ、MG中隊八大混雜

ト、中隊ニテ八味フコトノ出来又困難ヲナス。

朝デアリ、橋ノ巾ガ狭イカラ馬ガ落チルノデアル。

「少数ノ残兵ノ外敵影ヲ見ス。」

行先太倉城ヲ目標トシテ追撃。

一、午前十一時十分鉄道線路ニ出ツ 上海―南京線、滬寧鉄道。

重砲声八大変近イ。

「鉄道線路ニ辿リ着イタ時、線路ニ沿フ道路ノ橋ガ破壊サレテ居ル

ト云フノデ、集結旁々工兵ノ架橋ヲ待ツ：十一時半昼食。」

一、午後三時猛烈ナル追撃。先頭部隊八極少数ノ敗残兵ヲ驅逐シ

ツツ追撃ス 午後三時二八北、北西方ニ進ミツツアリ。

一、午後三時半ニ八望仙橋鎮ヲ通過ス。可ナリノ町デアル。

一部爆撃、砲撃ノ跡ハアルガ、大シテ破壊ハサレテイナイ。

一、午後四時三十分錢門塘鎮ヲ通過、可ナリノ町デアル。本夜旅

団司令部ノ宿营地。

一、午後五時五分宿营地ニ到着。揚田涇。行程約三里 実動距離

約七里ハアロ。

「錢門塘鎮ヨリ『大クリーク』ニ沿フテ前進シタノデアルガ、道路

ニ沿フ約三十米ノ巾、畑ヲ支那軍ノ大部隊ガ算ヲ乱シテ逃ゲタ跡

ガ、丸デ苗ヲ烏ガ荒シタ様ナ有様デ、如何ニ混雜シテ逃ゲタカハ

覘ハレタ 雨ノ日ニ逃ゲタノデアル。」

十一月十五日、快晴、追撃第四日目

一、中隊八午前五時三十分出發、大隊ノ集合地点ニ至ル クリ

クニ沿フ昨日ノ道。

行進目標。

葛隆鎮―太倉城―西碼頭―家巷―王家頭―揚家灣。

一、午前九時三十分、嘉定―常熱道二出夕。出夕処、方葛隆鎮テアル。道路ヨリ百米離レテオル。

〔此ノ大道路八野砲、重砲、輕重、戰車等々、道巾一パイデ各人ノ通過サヘ大困難、増シテ銃、彈藥等ヲ載セテ馬ヲ引テハ、非常ニ苦心シテ太倉ニ向ツタ。〕

一、午前十一時蘇州河ニ到着、大キナ橋ガ破壊サレテオルノデ前進出来ス、午後一時半迄大休止。架橋ノ為メ。

〔河畔ニ八堅固ナル陣地ガ一連ニ築カレテアル。〕

午後二時太倉城ヲ右ニ見テ通過、立派ナル古代支那式城壁アリ。

午後八時二十分湖川橋鎮ニ到着シテ宿營ス。道八田(團)甫道(團)デアリ、橋八馬ノ通過ヲ許サズ、ホト／＼困リヌイタ。

十一月十六日、追撃第五日目、雨、午後風雨トナル

午前五時起床、大隊八午前七時三十分混山(マ)ニ向ツテ追撃、午前八時早クモ架橋ヲ要スル所ニ遭遇シ、前進意ノ如クナラズ。

午後五時頃ヨリ、支那ニハ珍ラシク足羽山ヲ独立サセタ程ノ山ヲ発見。崑山テアル。

午後八時宿營地ニ到着。長浜 孝人堂。

1、砲声モ近クナツタ。約一里前方ニ八MG、LG、ノ銃声モ聞ク様ニナツタ。敵モ間近テアル。

2、昨夜来雨止マス。田甫道八丸テ田ノ中同様、スベリ、コロゲルナド全ク情ケナクナツタ。

3、直距離ニシタラ約二里位デアローガ、『クリーク』ノ關係テ廻リ廻ツテ約七里位ハアロー、大変ナ疲レ方デアアル。

4、所々ニ陣地アリ。然レ共降雨ノ為メ壕ニハ水溜リ、敵モ維持出来ナカッタラシイ。

5、『クリーク』ノ為メ思フ様ニ猛追撃ガ出来ス、敵ニ抵抗ノ暇ナカラシムルコトノ出来ナイノガ、何ヨリ残念千万デアアル。

十一月十七日

一、中隊八午前五時起床。暗イ間ノ裝鞍、駄載等々甚ダ困難ダ、大隊八午前七時出發。

一、9D八崑山ニ集結。崑山マデ八宿營地ヨリ約一里半。

一、午前九時R八旅團司令部ノ位置ニ集合、九時三十分R本部、ノ順序ニ崑山ニ向ツテ前進。

一、午前十一時二十分崑山々麓約三百米ノ地点ニ到リ、架橋ノ為メ大休止、昼食。

一、午後二時崑山市ニ入市、配宿。所々砲彈ノ跡アリ。

山ノ中腹ニハ所々堅固ナル掩蓋ヲ作りアリ。

附近ノ要所ニハ散兵壕アリ、僅カニ敵死屍ヲ見ルモ激戦ノ跡ヲ見ズ。

崑山望景。

高サ約二百米、全山芝生、短木。所々岩石現ハレ、頂上ニハ羅馬塔アリ、洋建物アリ、景色ヨシ。山ノ西麓ハ公園ニシテ立派ナル古代唐風建築アリ。

(写真25)

崑山二八五ヶ師団集結シアリト聞ク。

崑山八大キナ町デ、要所ハ爆撃、砲撃サレテ悲惨ナモノデアル。

「伊藤新任大隊長殿ハ各中隊へ新任ノ挨拶ニ来ラル。」

十一月十八日、雨

午後六時急ニ崑山ヲ出発。

一、命令ニヨリ午前十時ヨリ舟ヲ徴発ノ為メ兵十名ヲ引イ出発。

苦心シタガ一艘モナシ。

他隊ガ集メタ後ダカラナイノデアル。

午後四時半帰ツタガ六時ニ出発デ大混雑。

情況。敵ハ退却開始。R八直チニ追撃開始。 八前衛、午後五時

半整列、午後六時蘇州ニ向ヒ進ム。

午後九時半鉄道線路ニ出デ、午後十時真儀鎮到着、宿営。

「道路上ニ八敵屍、破壊自動車放棄シアリ、鉄道線上ニ八所々立

派ナル掩蓋銃座アリ。」

十一月十九日、雨、風、寒

午前七時起床、午前八時出発、大 大隊八前衛、鉄道上ヲ前進。

夜明ケテカラノ出発準備デ、今日ハ大変楽デ容易ダツタ。

師団八敵ヲ蘇州ニ向ツテ追撃。 八師団主力ノ前衛。

一、午後〇時五分唯亭站ニ到着。鉄橋ガ爆破サレテアルノデ、修

理ト他部隊ガ同時ニ通過シヨウトスルノデ大混雑ヲ呈ス。

一、午後一時唯亭站発。

「相変ラス多数ノ銃座ガ作ラレテアル。」

此ノ附近ヨリ山腰一等兵ガ容体ガ悪イトテ、後ヨリ隊ヲ離
レテ続行ス。」

一、午前六時第六旅団八蘇州占領スト、午後三時伝ヘラル。

一、午後七時三十分暗クナツテ蘇州城内へ入城。

午後八時二十分、人員ヲ集結シテ宿営ス 山腰一等兵一人居ラ

ズ。

蘇州八大キナ町デアル。前ヲ蘇州河ガ流レテオリ、立派ナ眼鏡

橋ヲ渡ツテ入城スルノデアル。

十一月二十日、雨、風、寒

相変ラズ昨日来ノ雨風止マズ。時節柄寒ク風引患者続出ノ状態デ

アル。

A、出発準備ノ命ナシ。

B、師団八蘇州ニ集結シ、無錫ニ向ツテ敵ヲ攻撃セントス 無錫

八崑山ト蘇州間程ノ里程デアル。

C、中隊八午前中ニ糧秣ヲ徴発シ、午後八時機ノ姿勢ニアルベシ。

午前十一時命令。

A、連隊ハ〇時四十分出発、無錫ニ向ツテ攻撃前進。

B、第一大隊ハ〇時四十分蘇州橋ヲ渡リ、鉄道線路ニ沿ヒ集結

スベシ。

一、午後二時澁野関ニ到着。澁野関ハ可ナリノ町テ大工場アリ、

大煙突数本見ユ。

一、午後三時頃ヨリ、残敵ヲ駆逐シツツ午後七時十分頃、雨ノ降

ル線路上デ敵ヲ前ニシ乍ラ、寒サニフルヒ乍ラ夕食。又前進、

午後十一時半真暗ノ望亭站到着。敵ノ猛烈ナル抵抗振りテ前進デキズ。警戒線ヲナシテ望亭ノ町ニ宿営ス。午後十二時、身体ズブヌレ。疲労困憊セリ。

十一月二十一日、雨、寒、ミゾレサヘ降ル

一、大隊八依然敵ヲ無錫ニ向ヒ追撃セントス。

一、午前七時迄ニ望亭站ニ西面ノ途上縦隊ニ集合スベシ。

「集合シタケレ共、敵ノ抵抗ノ為メ前進デキズ。站ノ処テ相当ノ損害ヲ受ケツツ午前十一時昼食トナリ、午後二時愈々攻撃前進トナル。」

一、午後二時第二中隊尖兵、MG第四小隊尖兵ニ配属シ前進シテ見ルト、前面二八一連ニ敵ノ陣地アリ、抵抗大ナリ。鉄路上八高イカラ前進出来ザル処ヨリ、線路ノ右ニ下リテ午後四時、曹家門附近ノ敵ヲ攻撃、大激戦。第四小隊八泥濘ヲオカシ、死傷続出スルモ勇敢ニ戦闘ヲ続行シ、第二中隊ノ攻撃進捗ヲ容易ナラシム。

敵ニ多大ノ損害ヲ与ヘシヲ目認ス。第二中隊モ非常ニ多クノ死傷ヲ出セリ。最モ激烈ナル戦闘デアッタ。

即死 木村音次郎

負傷死 吉田重義伍長

負傷 道清宇吉伍長、小松 保、松村武雄、木村定義

自分モ背囊ニ一発弾痕アリ。神仏ノ御加護ニ依リ無事タリシ事ヲ喜フト共ニ、死傷者ニ対シ氣ノ毒ニ堪ヘズ。

死傷者多カリシ為メニケ分隊ノ運用出来ズ、一ケ分隊ニ編成シ

テ一銃八弾薬小隊ニ送ルコトトセリ。

十一月二十二日、晴後曇

相変ラズ第二中隊ニ配属、昨日ノ敵ヲ攻撃続行。

情報。

1、旅団当面ノ敵八現在抵抗シアル敵ノミニシテ、後方ニ八敵ナシ。

2、連隊八速力ニ当面ノ敵ヲ攻撃シ、無錫ニ向ヒ追撃セントス然シナガラ、

一、正面ノ敵八頑強ニ抵抗シ、六十米至近ノ距離ニテ相待持^(時)シナガラ、壕内ニ夜ヲ撤ス。点火スルコトサヘ出来ナイ。

「昏間八随分敵ノ迫撃砲弾ガ飛来シタガ、夜ニナツテカラ八来ナクナツタ。退却？」

十一月二十三日、曇、寒

一、敵八退却。午前一時三十分追撃開始。再ビ鐵路ニ出テ追撃。

一、午前五時三十分頑強ナル敵ニ遭遇、逐次撃退シツツ前進スルノ状溼トナル。

一、港 間駅通過後間モナク頑強ナル敵ノ抵抗ニ逢ヒ、午後二時ニ至ルモ尚戦闘進捗セサルノ状態トナル。

時節柄デハアルガ、午後二ナリテチラ〜雪サヘ降り出シタ。一、午後三時李巷上ニ進出シ、左第十九Rノ突撃援助ノ猛射ヲシタガ突撃スルニ至ラズ、大隊ノ位置ニ復帰シ宿営ス。李巷上。

十一月廿四日、晴、昨夜ノ位置ニアリ

一、敵八依然抵抗ヲ続ケ戦果拡張セス。中隊八大隊要旨命令ニ基

キ、何時テモ出発出来得ル如ク態勢ヲ整ヘアリ。

一、午後二至リ左ノ命令アリ。

1、攻撃開始八明後日黎明ト予定ス。

2、敵八退却スルノ公算大ナルヲ以テ、何時ニテモ追撃ニ移リ

得ル準備ヲナシオクベシ。

第四小隊ノ編成。

小隊長 坪田准尉

分隊長 上 合川作太郎

1 1 柳瀬敏章

2 1 若泉文平

3 1 吉田 静

4 1 元雄 弘

5 1 大阪文治

6 上 西野千太郎

7 1 松浜則茂

8 1 島 孝二

本日一日八全ク戦闘ニ参加セス。

十一月廿五日、晴、霜深ク寒

一、午前二時半出発準備。

一、午前四時出発。 鐵路ノ左側ニ出テ残敵ヲ掃蕩シツツ約千米モ

前進セシ時、突然三方ヨリ敵ノ射撃ヲ受ク。依ッテ一時家屋内

ニ入り、命ヲ待ツコトトセリ。午前七時。

七時四十分大隊本部ノ位置ヘ前進。

抵抗シテオツタ処ハ無錫鎮ノ町端デアツタ。

一、午前九時半無錫駅通過。小銃声、MG声ヲ聞キ乍ラ無錫鎮ノ端

ニ到着。鎮内ニハ多数敗残兵アリ、狙撃ニ依ッテ頑強ニ抵抗ヲ

ナシアリ。

午後五時五十分無錫ノ一角ヲ占領シ、宿営。明日ノ南門攻撃ノ準

備ヲナス。小林正雄少尉殿戦死セラル。気毒ニ堪ヘス。午後二時

四十分無錫東北端ニテ。

南門西北方約二千米ノ地点ニハ標高約二百米ノ山アリ。山頂ニハ

羅摩塔アリ、洋建物アリ、景色ノヨサソナ山デアル。処々ニ山

アリテ愈々支那ノ奥地ニ入ツタ感ガアル。

本日ノ無錫端デ新聞記者二名狙撃サレテ戦死、大毎？新愛知？

十一月廿六日、晴、無錫南門攻略並ニ市内ノ掃蕩。

午前六時十五分起床、七時出発準備完了。南門ハ非常ニ堅固ナル

陣地ニシテ、且ツ城内ノ掃蕩モ容易ナラス。依ッテ南門攻略後市

内ニ入ラズ、沈巷一馬鞍橋ヲ経テ太湖ニ沿ヒ、ズツト迂回シテ常

州 武進 ニセマラントス。

他師ハ鐵道線路ニ沿ヒ常州ニ至ル筈。無錫ヨリ常州ヘ、鐵道線

ニ沿ヘバ約十里、太湖ヲ迂回セバ約二十里アルト云フ。

戦闘經過。

中隊ハ大隊命令ニ基キ第二小隊ヲ第一中隊ニ配属シ、主力ハ予

メ偵察セル敵前百米ノ至近家屋ノ屋上ニ銃ヲ据ヘ、第一中隊ノ

戦闘ニ協力シ、敵側防火器ヲ制圧シ、午後四時半南門占領ヲ容

易ナラシム。

敵弾ハ距離ノ近イ關係モアルガ、二枚煉瓦ノ壁ヲ射テ破ツテ銃側ニ飛来スルノデ、危険此ノ上ナシ。

「午後四時三十分南門ヲ占領シタノデアルガ、第十二連隊ノ、第三十六連隊ノ、ガ殆ンド同時ニ入門、占領シタノデ、城壁上ニ八日章旗ト両連隊ノ大隊旗ガ同時ニ立テラレタノデアル。歴史的光景デアル。」

午後五時三十分、ノ最後尾入城シ南門附近ニ本夜宿営ス。
十一月廿七日、曇、午後雨、戦闘ナシ

午前八時三十分中隊本部前ニ集合。大隊八午前九時宿営地出發。西門ヲ経テ、途中急造、シカモ二、三時間前ニ作ツタ様ナ粗末ナル壕ヲ、『クリーク』ノ両側ニ或ハ重要ナル場所ニ見ナカラ、城外北、北西方ニ前進ス。約千米ノ地点ニ急ニ停止シテ、午前十一時大休止ノ命アリ。中隊毎ニ家屋ニ入り休養ス。

場所。無錫県第四区仙蠡 馬鞍橋。

午後五時頃ボツ／＼降雨。大休止ト云フノデ、今カ今カト出發

ノ命ヲ待ツ内ニ日ガ暮レ、茲ニ宿営スルコトナレリ。

伊藤大隊長殿ヨリ、ワカモト一、ドロップ一ヲ届ケテ下ツタ。^(善光)^(ママ)

大隊命令。

- 1、連隊八明早朝ヨリ無錫城内ヲ掃蕩シタル後、其西側地区ニ兵力ヲ集結シタル後、爾後ノ追撃ヲ準備ス。
- 2、大隊八明早朝ヨリ城内ヲ掃蕩シタル後、西門ヨリ馬鞍橋ニ兵力ヲ集結シ、爾後ノ追撃ヲ準備セントス。以下略。
- 1、第三大隊八師団予備トシテ蘇州ニ位置シテオツタガ、本廿七

日午後無錫ニ到着。

2、昨夜来小銃MG声ハ一発モ聞カズ。無気味ノ程デアル。重砲声、爆撃ノ音ハ殷々ト聞ユ。

十一月廿八日、日曜日、晴 朝五時頃マデハ雨ダツタ

一、常州ニ向ヒ追撃。

一、中隊八昨夕ノ大隊命令ニ基キ、午前五時半馬鞍橋西端ニ集合シ、架橋ノ為メ大隊ノ出發八午前七時過ギトナリ、途中敵ノ遺棄死体、コワシタ自動車等ヲ見ナガラ常州ニ向フ。

「梅園附近八実ニ景色ノヨイ処デ、別荘地帯トシテ好適ノ地デアル底キ山連ナリ、湖アリ。松林モアリテ樹木ヨリ繁茂ス。太湖ノ際ニ八実ニ見事ナ陣地ガ一連ニ湖ニ向ツテ作ラレテアル。日本軍ガ湖面ヨリ来ルト考ヘタカラデアル。」

一、日本軍八其ノ裏ヲカイテヤツタ。

午後五時過キ若干ノ敵ヲ撃退、午後七時漕橋鎮ニ宿営ス。

一、本日ノ行動約七里。好天氣ノ為メ道堅ク一同疲労ス。乗馬車

八乗馬ニテ行軍。

足袋テ行軍シタ為メニ足ガ非常ニ痛ミ出シタ。

十一月廿九日、快晴

一、午前七時五十分大隊出發、本道上ニ出ツ。本道上ノ橋梁ガ燒却サレテテ(衍)オルノデ、MGノ通過容易ナラス、大隊ニ遅レ勝チデアル。

一、昼食後八概ネ順序ニ順調ニ続イテ行軍ガ出来タ。

「午後三時半湖塘橋 町 通過ノ際、住民八

(写真26)

ノ旗ヲ出シテ道端ニ迎ヘタ。真? (ママ) 擬?」

午後五時常州 一名武進 二人ル。飛行機ヲ爆撃サレタ処モアルガ、市民多数在住シアリ。

午後七時配宿、入舎。行程約七里半。城内ニ八敵影ヲ見ス。

本日通過シテ来タ沿道各所ニ八立派ナ掩蓋陣地ヲ見タガ、抵抗セズニ総退却ノ様子ヲ見ハレル。

十一月三十日、快晴、在常州

一、午前九時マデニ物資ノ徵発ヲ命セラレ、米、砂糖、酒、椎茸、果物其他、色々ナモノヲ徵発シテ来タ。

午前十一時ニ至ルモ何等命令出テス。

餅米ヲ取ツテ来タト云フノデ、ボタ餅ヲ作り舌鼓ヲ打ツタノ

モ陣中光景デアル。

一、午後左ノ命令アリ。

1、連隊八明日午前八時出発ノ予定。

2、第一大隊八尖兵。

二、大隊命令。三十日午後。

1、旅団八常州西南方ニ於テ兵力ヲ集結シ、爾後ノ追撃ヲ準備セントス。師団主力八昨夜漕橋鎮ニ到着セルモノノ如シ。

2、大隊八新二連隊長ノ指揮下ニ入り、現在ノ態勢ヲ以テ爾後ノ行動ヲ準備セントス。

3、各隊八現在ノ態勢ニアリテ、部隊ノ整頓、後方ノ整理ニ務メ、爾後ノ行動ヲ準備スベシ。他八略ス。

大隊命令。三十日午後七時五十八分。

1、追撃隊八金壇城ニ向ヒ追撃ス。16Dノ一部八丹陽ニ向ヒ敵ヲ追撃ス。

2、大隊 1、2欠、工兵一中隊 属スル八前兵トナリ、明日午前八時連隊露营地西端ヲ出発シ、金壇城ニ向ヒ前進セントス。諸隊八午前七時三十分迄ニ、宿营地南端橋梁ヲ尖頭トシ、西面ノ途上縦隊ニ集合スベシ。他略。

中隊八右命令ニ基キ、第二小隊ヲ第三中隊ノ尖兵ニ配属、残余八主力トシテ出発準備ヲ整ヘ露営ス。

一、午前十時二八、第十六師団ノ一部ヲ鉄舟デヤツテ来タ。

二、鉄道線路ニ沿フテ攻撃中ノ9D主力八、其ノ前衛ノ尖端方午前九時常州ヘ入市シタト云フ。

三、追撃急ナリシ為メ大行李ヲ思フ様ニ追隨出来ズ、兵ノ徵発ニ依ツテ給養シテオル状態ナリ。

四、市内ヲ流レテオル河八、揚子江ノ水ト同ジク大變ナ濁水デア。之レデ炊事、湯茶ヲ沸カシテ呑ムンダカラ大シタモノダ。

望亭附近激戦要図

解。

A八十一月二十二日午後三時頃三方ヨリ猛舎ヲ浴ビ乍ラ、第二中隊ノ攻撃ヲ援助シタル激戦ノ位置。

B八二方ノ敵ヲ撃退シ、第二中隊正面ノ敵ヲ攻撃スベキ陣地ヲ変換シタル位置ナリ。

(写真27)

午後二時尖兵タル第二中隊二配属シ、を進ム。
即死一、戦傷死一、負傷三、内小松八野病へ行く途死^(中脱力)

感想。

一、出征二当リ、装具、背囊ノ外ニ、中形『リュックサック』ヲ携行スルヲ可トス。

之レ戦闘開始セラルルヤ、背囊ヲ後方ニ残置シ、軽装シテ前進スルコトアリ。此ノ場合ニ於テ、日用品殊ニ食料ヲ是非携行スル必要アレバナリ 背囊ニ何ニモ入ラヌモノデアル。

二、眼鏡ハ今後一考ヲ要ス。

1、精巧ナルモノカ、

2、是非軽クシテ対物窓ガ高く、伸ビ上ル式ノモノタルヲ要ス。

敵ノ陣地攻撃等ノ際ハ、自動火器等ヲ以テ狙撃セラルルヲ以テ、従来ノ眼鏡デハ目標ニサレ易ク、発見サレ易シ。

三、戦闘中ハ防水マントヲ携行スルヲ可トス 兵八天幕々布。防寒ニハ不十分ナルモ、防雨ニハ極重宝ナリ。

四、手帳『ノート』ハ二冊位ハ携行スルヲ可トス。戦況、編成、殊勲者、戦死傷等、必要事項ハ小隊長トシテ是非記載シ、後日ノ功績調査ノ際ノ参考書タラシムルヲ要ス。

五、通信材料 封筒、ハガキ用紙 若干ハ携行スベキデアル。

第二冊

〔表紙〕

其式

自昭和一二、一二、一
至昭和二三、一、三二

陣中日誌

上海派遣軍

吉住部隊

脇坂部隊

安保隊

坪田留吉

〔扉〕
陣中日誌 其式

自昭和一二、一二、一

至昭和 (MMA)

十二月一日、快晴、花曇リ、「戦闘ナシ」

愈々十二月ニモナツタ。内地デハ雪モ降ツテルダロシ、寒クモアロ。

一、午前八時宿営地ヲ出発 常州出發、金壇ニ向ヒ追撃。

・ 2 前兵。MG第二小隊ヲ第三中隊ニ配属。

常州― 6里― 呂城鎮。

常州― 11里― 丹陽。

常州― 11里― 金壇。

二、午前八時常州出發、一路金壇二向ヒ追撃。午後四時黃渡鎮西方二軒ノ部落ニ到着シ、露営ス。本日ノ行動約六里。

十二月二日、晴、「戦闘ナシ」

本日モ金壇二向ヒ追撃。

一、中隊八八時整列完了。大隊八午前八時三十分出發。途中処々ノ橋梁破壊セラレ、馱馬ヲ有スル部隊ハ非常ニ困難シツツ、午前十時十五分金壇城ニ入城。尖兵八十時半入城ス。昼食。立派ナル城壁ヲメグラシ敵ニシテ抵抗セントスレバ、如何ナル堅固ニデモ抵抗シ得ルモノヲ、何ノ故ヲ以テ一発モ射ツコトナク退却セシヤ。

一、午後四時蓬板橋ニ露営。

(写真28)

本夜、旅司、連本、金壇二宿営。

1、敵ハ薛阜鎮附近ニ陣地ヲ構築中ナルモノノ如キモ、未夕審ナラス。

2、第四中隊ハ先遣隊トナリ、明三日午前七時三十分木板橋西端ヲ出發、薛阜鎮ニ至リ磨盤山系ノ敵情、地形ヲ搜索スヘシ。

「1、情報ニ依レバ南京迄八約二十里ニシテ、三線ニ亘リ堅固ナル陣地ガ構築セラレアル模様ナリ。

2、当地方ニハ相当ノ敗残兵ガ居ルニ付充分警戒スヘシ。」

十二月三日、晴 霜深シ、「戦闘ナシ」

一、石巷二向ヒ追撃。

二、途中相変ラス処々ノ橋梁破壊シアリ。行程約三里、午前十一

時四十分薛阜鎮ニ到着、配宿ノ準備ヲシタ。

然ルニ突如午後一時五分配宿中止。出發、前進ノ待機ノ姿勢ヲ

トレトノ命下ル。

三、午後二時十分、痛イ足ヲ引ズリ乍ラ出發。

四、午後六時半石巷ニ到着、露営ス。行程朝カラ約七里。

山坡多シ。

十二月四日、土曜、晴、「戦闘ナシ」

一、天王寺二向ヒ追撃。

二、午前八時半宿営地 石巷 ヲ出發。本日ハ輕戦車十五台ヲ前衛 二配属セラレシハ壯快デアル。

三、午前十時天王寺ニ到着。小憩後句容二向ヒ前進、午後八時黃泥堡ニ到着、露営ス。

石巷12里 天王寺11里 大道口1約1里官塘。

十二月五日、快晴、北風寒、「戦闘アリ」

一、南京二向ヒ追撃、並ニ淳化鎮攻撃。

二、午前七時半急ニ出發準備、八時十分宿営地出發。

三、昨日ノ句容行ハ止メテ、丁度三角形ノ一辺ヲ行ク形ニナツテ、

南京ニ肉迫スル近道ヲ急進スルコトニナツタ。

四、午前十時二十分土橋鎮着、十五分休憩。

土民ハ商売シアリ。兵ハ豆腐ヲ掴ンデ食フヤラ、誠ニ見苦シ

イ略奪振ヲ發揮シタ。

此ノ附近敗残兵多数アリ、捕虜トス。

「午後二時ヨリ小敗残兵ノ抵抗アリ。之レヲ排撃シツツ前進。青龍

郷七里崗附近、前進遅滞ス。

約二、三千ノ敵ガ句容方面ヨリ南京ニ向ヒ退却中ニシテ、之レガ援助ノ為メ陣地ヲ構築シ、抵抗ヲ頑張ルモノノ如シ。」

A、師団予備タリシモ、午後三時三十分ニハ、ヲ追イ越シテ前進。

B、山砲モ前進。追却中、二、三千ノ敵ヲ殲滅スベク全力ヲ拵ケル計画ニ基キ、戦況ヲ進メアリ。

C、ノ主力ハ七里崗ニアリテ待機ノ姿勢、小銃弾ガシキリニ飛来シ危険ナリ。

「D、午後三時五十分戦闘ノ為メ前進、若干ノ敵ハ抵抗シアルモ大部分ハドシ／＼退却スルヲ猛射シ、歩兵部隊ノ前進ヲ援助シ、山坡ヲ二ツ越シテ午後六時四十分、山坡脚ニアル部落ニ露営ス。」

(写真29)

十二月六日、快晴、「戦闘アリ」

一、戦場淨化鎮。

一、全面ノ敵ハ依然猛射ナル射撃ヲナシ、我軍ノ追撃前進ヲ拒止シツツアリ。

一、午前七時二十分昨日ノ陣地ニ就キ、前八時カラノRノ総攻撃ノ準備ヲ為ス。

連日晴天ガ何ヨリノ幸デアル。

△全面ノ敵ハ夜ハ静肅デアツタカラ、退却カト思ヒノ外、案外頑強ニ抵抗ヲ続ケテオル。

一、連隊八、右、左トシテ、午前九時ヨリ攻撃開始。砲兵ノ

協力、飛行機ノ爆撃。

「攻撃目標。

淳化鎮一帯ノ敵陣地ニハ、処々ニ掩蓋銃座アリ、鉄条網アリ、仲々堅固ニ構築サレテアル。」

△掩蓋銃座ニ砲弾命中シテ、一旦退却セル敵ガ又又元ノ銃座ニ返ツテ来テ、我軍ノ前進ニ対シテ射撃ヲ続ケテナルナドハ、敵ナガラ天晴レデアル。

一、攻撃意ノ如クナラズ。約千米敵陣地ノ一部ヲ占領シテ膠着状態トナル。

「A、午後五時頃ヨリ、数門ノ敵迫撃砲ノ洗礼ヲ受ケ、部落三軒アリ。デ焚火、炊事ヲシテオツタ兵数名ノ死傷者ヲ出ス。」

B、追撃開始以來敵ノ砲声ヲ聞カナカッタノニ、今又砲声ヲ聞ク様ニナツタ。敵モ小癩ナコトヲヤリヨル。」

本夜ハ占領セル敵ノ陣地ヲ改築シ、至敵ナル警戒ヲナシツツ夜ヲ徹セントス。

十二月七日、火曜日、晴、霜深シ、「戦闘アリ、対壕近迫作業」

昨夜ノ寒サハ格別ダ。

一、第九、第十六師団ヲ以テ新夕ニ軍ヲ編成シ、朝香宮殿下軍司令官トシテ御統率アラセラルルコトナレリ。

「A、敵ハ銃眼ヲ有スル掩蓋ヲ利用シ、側防火器ヲ以テスル猛射ノ為メ戦闘意ノ如ク進捗セス。現陣地ニアリテ明日ノ攻撃ヲ準備シツツ敵ト^(シ脱カ)相対持ツツ夜ニ入ル。」

B、友軍ノ第一線ハ、約三百米ノ地点迄夜間ヲ利用シテ前進シタ

ル二過ギス。

C、ノ集中隊八、前方淳化鎮ノ東端一角ヲ占領セリトノ報アリ。
D、迫撃砲弾ガ飛来スルノデ炊事ガ出来ス。六日ノ夕食、七日ノ朝食、食フモノガナイ。生ノ薩摩芋ヲ囓ル。

「夜十二時半頃、正面ノ敵逆襲シ来リシモ速ニ之ヲ発見、該敵ニ猛射ヲ浴セ之ヲ撃退セリ。」

特ニ注意。

從來敵ノ夜襲ハ喇叭ヲ吹イテ来リシモ、当面ノ敵ハ夜襲ニ際シテハ極靜肅ニ近迫シ、手榴彈ヲ投擲シ、或ハ壕内ニボンヤリ中ノ我兵ヲ銃剣デ突クナド、アナドリ 侮リ 難イ行動ヲシテオ。之ガ為メ某中隊デハ大狼狽シタ部分ガアル 損害大。」

十二月六日写景。

(写真30)

一、午後三時半、淳化鎮北方最高陣地ヲ占領。我小隊八第四中隊正面ノ掩蓋ニ拠ル敵ヲ猛射シ、之ヲ制圧シ、第四中隊ノ既地占領ヲ援助。

二、猛烈ナル我射撃ノ中ニアリテ、淳化鎮東北方デハ土民ヲ利用シテ盛ニ陣地ヲ強化、構築中ヲ見ル 距離約千五百米。

十二月八日、水曜、晴

「一、淳化鎮攻略並ニ南京ニ向ヒ追撃。

一、昨日ニ引續キ戦闘ヲ続行ス。 一」
一、昨夜敵ハ猛烈ナル射撃ヲ行ヒツツ再三逆襲ヲ行ヒ来ル。
一、本日八第四中隊ニ配属、午後八時二十分陣地ニ就ク。

一、連隊八午後二時十分ヲ期シ一斉ニ攻撃、前進ス。爆撃、砲撃、MGヲ以テ援助。淳化鎮ハ全ク此ノ世ノ地獄ト見ユ。

一、八午後二時五十分南東部淳化鎮ニ進入、掃蕩シツツ淳化鎮ノ後方ヘ前進、敵ハ一帶ニ退却開始。第四中隊八午後三時半西南部淳化鎮ニ侵入。午後四時、全部淳化鎮ヲ占領、大隊八直ニ集結シテ南京ニ向ヒ追撃開始。急激ナル追撃ダ。

一、約二十米前進シテ敗殘兵ノ抵抗アリ。五時之レヲ撃退。

一、午後五時高菅頭ニ大隊八集結、左ノ如キ配備ニテ警戒、夜ヲ撤セントス。

「 午後五時半敵ノ豆戦車三台、歩兵一小隊ヲ掩護シ乍ラ逆襲シ来ル。 MGノ射撃ヲシナガラ鞍部迄来テ退却。」

(写真31)

退却ノ際、第九中隊ノ手ニヨツテ戦車二台捕獲ス。
戦車二輛レ又我兵ノ狼狽ハ誠ニ醜態デアツタ。

十二月九日、快晴

一、前面ノ敵ハ退却セルモノノ如シ。

一、大隊八前兵トナリ南京ニ向ヒ敵ヲ急追セントス。

一、第一中隊尖兵中、前兵ノ前方二百米ヲ南京ニ向ヒ敵ヲ急追スベシ 坪田小隊配属。

1、敵退却。追撃ノ命ニヨリ、午前一時三十分陣地を捨テテ本道上ニ出デ、第一中隊八配属替トナリ追撃。
「途中各所ニ於テ敵ノ抵抗ヲ排撃シツツ、午前五時十五分光華門、

六時南京ノ城郭ニ近迫スルコトガ出来タ 城廓約百米。】

A、爾後大隊八、連隊ノ右第一線トシテ光華門ニ対スル攻撃ヲ準備ス。

B、豪壮ナル城壁ヲ利用セル敵八、重砲彈ノ猛射ヲ浴セ大隊ノ近接ヲ妨害ス。

午前八時二八、第一線、R本部、八大校飛行学校ニ在リ。城壁近迫後ノ状況。

一、電氣モ通ジテオリ、電灯モ点セラレテモ。朝八時半ニハ非常サイレンガ頻リニブーブー鳴ラサレテモ。

一、我戦車八十一時半到着。之レノ援助ニヨツテ工兵ガ城門破壊ヲ試ミタガ、爆薬小ナリシ為メ力成功セズ。

城壁上ノ敵ヲ制圧シ、我陣地強化シツツ夜ヲ撤ス。
(写真32)

【一、九日正午ヲ期シテ光華門ニ突入ハ不能ダツタ。

一、各方面カラ逃ゲテ来タ敵八、歩三六ガ城外デ頑張ツテオルノデ逃場ヲ失ヒ、附近ニウヨクシテオル。

一、流石ニ首都ダ。城内ニ高射砲ヲ据付ケテ、我飛行機ニ対シ盛ンニ射ツテオル。炸裂スル弾丸ハ飛行機ヲヨク包ムガ、飛行機ハ墜落シタリハシナイモノダ。

一、城内カラ盛ンニ我等ノ陣ヘ迫撃砲彈ヲ落下サセテ危険〜。】

一、我飛行機八大胆ニ爆撃ヲ敢行シテオル。

十二月十日、金、曇後晴

昨夜モ遂ニ何等^効交果ナク入門シ得ナカツタ 光華門八二回ニ亘ツ

テ工兵ガ爆破シタガ、テ^ンデコタヘガナイ程堅固ダ。

【一、昨夜来敵八、続々光華門ニ兵力ヲ集結セルモノノ如シ。

二、敵ノ敗残兵集團ヲナシ、光華門ニ向ヒ後退シ来リ、我連隊ハ前方、後方、側方ニ敵ヲ受ケ、無援孤立ノ状態ニ陥レリ 猛射ヲ受ケ。】

一、九日八暗イ内ニ猪進シタカラ、有力ノ敵ガ後方ニ居ルコトトナリ、旅団トノ連絡全ク絶ヘテシマツタ。

二、後方部隊ト歩三六ノ中間ニ、有力ナル敵ガ陣地ニ掘レル為メ連絡モ絶ヘ、兵器、弾薬、糧秣モ来又コトニナツテシマツタノデアル。

三、何も食フ物ガナクナツタ。

【一、我等ノ陣地及後方部隊ノ位置ヘ、盛ンニ榴弾、迫撃砲彈ヲ炸裂スル。】

一、午後五時 光華門ニ突入スルト云フノデ、三時半ヨリ山砲ガ約百発、直接照準デ城門、城壁ノ破壊、射撃ヲヤリ出シタ。

二、午後五時半予定ノ通り、1、4中隊ノ順序ニ城門ニ向ツテ突入 2ハ旅団予備、3ハ大隊ノ予備。城壁ニ辿リツキ、門ヨリ前方ヘハ一步モ前進出来ス。

【一、敵ハ猛烈ニ射撃。手榴弾ノ投擲等熾烈ヲ極メタモノデアル。

2、夜ニ至リ、

A、毒瓦斯彈 催涙性ナリト云フ

B、戦車ニ台突撃シテ来テ、城門内ニ掘ツテオル我兵ニ猛射。

C、城壁上ヨリ丸太、角材ヲ落シ初メタ。石油ヲ撒キ、ボ口切

二火ヲツケテ、落シテ燒キ殺ス策ヲナシタ。

午後十時頃伊藤大隊長殿重傷。間モナク戦死セラル。惜ミテモ余リアリ。

城門ノ処デ負傷シテ動クコトノ出来又重傷者ハ、毒瓦斯ノ為メ二死シタノガ多イラシイ。自分テ防毒面ヲ装ケルコトガ出来ぬカラ。

自由のキク者ハ、毒瓦斯彈ヲ見舞ハルルヤ、毒瓦斯ダ、戦車ダト云フテ、命カラ〜皆一度予備隊ノ位置ヘ退却シテシマッタノデ、再ビ敵ニ逆襲、占領セラレテシマッタ。残念乍ラ止ムヲ得ナイ。

「MG横井小隊八第一中隊ニ配属セラレ、前進ハシタモノノ長以下殆ンド死傷ス。横井小隊長即死。」

敵八城壁上二砲ヲ据ヘ我戦車二備ヘタリ。

十二月十一日、土曜日、晴

一、昨日来壕生活。

二、壕ノ補修増強ニ努ム。

三、迫撃砲彈頻リニ飛来、炸裂ス。

午前九時四十分、城壁ノ砲彈デ破壊セシ処ヘ日章旗ヲ建テタガ、間モナク敵ニ逆襲セラレ奪ヒ返ヘサル。

「朝、我戦車大校飛行学校附近ニ来ルヤ砲撃ヲ初メ、為メニ戦車二台破壊セラレ全部前進出来ズ、後退ノ止ムナキニ至レリ。」

戦果ノ拡張ヲ見ズ、敵ト对待ノママ壕内ニ夜ヲ徹ス。
(後筆)
十二日午後八時頃。

午後八時頃大隊ノ將校以下全員ヲ集メ、葛野中尉ヨリ、明朝八一兵トナルトモ光華門ヲ奪取シナケレバナラヌト訓示ヲ与ヘ、朝香宮殿下ヨリ賜ハリシ酒、肴、菓子ヲ分配セリ。

十二月十二日、快晴

一、城壁上ノ敵ハ依然頑強ニ抵抗ス。

一、昨夜半来至ツテ敵ハ静デアッタ。朝七時頃ニナツテ突如七、八発ノ迫撃砲彈ヲ見舞ツテ来タ。

「午後二時敵ハ逆襲シ来ル。城内ヨリ敵ノ部隊逆襲シ来ル。MG、独機等総ガカリデ撃退ハシタガ、間モナク迫撃砲ヲ以テ我第一線ヲ打ツワ〜、距離ノ測定ガ確實タカラ命中率ガ甚ダヨイ。危険此ノ上モナイ。」

一、大野、助川、片桐、野田各部隊ハ、十二日夜明前二、大平、中山門前ニ肉迫セリ。

二、長野、山田部隊ハ、敵ノ退路ヲ遮断セント、十二日夜半揚子

江対岸ニ到着。

(写真33)

蒋介石ノ直系軍ヲ初メ、湖南、広東、広西ノ地方軍約十二万。

十二月十三日、快晴

「南京陥落。」

一、午前四時頃、斯クモ頑強ナリシ敵銃砲撃全ク止ミ、又手榴彈ノ投擲モ止ミタルヲ以テ、斥候ヲ以テ搜索セル処退却ノ徴アリ。

一、大隊八午前六時直チニ突撃隊出發、坪田小隊モ突入。
一、午前七時完全ニ光華門ヲ占領、直ニ城壁上ニ陣地構築。逆襲

二備へ城壁上高く日章旗朝風ニ翻リ、万歳ノ声天地ヲ動カスバカリナリ。

富士井、伊佐部隊モ、十三日中山門ニ雪崩ノ如ク進入、城内ノ掃蕩ヲ行フ。

長谷川、緒方部隊八十三日中華門ニ突入。

岡本、矢ヶ崎部隊八十三日西南隅ヨリ城内ニ進入。

斯クシテ南京首都ハ完全ニ陥落シタノデアル。

A、午前十時四十分二八、師団司令、旅司、19 i 等、続々トシテ光華門見掛ケテ進ミ来ル。

B、太平、中山門カラモ16 Dノ各部隊入城。

C、十一時三十分頃ヨリ、城内第二線陣地ニ向ツテ飛行機ノ猛爆アリ。

中隊八更ニ第二大隊ノ市内掃蕩ニ協力ヲ命セラレ、午後三時二十分光華門ヲ出發、通齊門ヲ経テ午後五時、任地『クリーク』ノ線ニ到着、至嚴ナル警戒ヲナシツツ該地附近ニ露營す。

「一、城内外処々ニ火災アリ。

二、殆ンド銃砲声ヲ聞カズ。」

城内ハ至ル処日本軍隊デ埋ツテオルト云ツテヨイ程、大軍ガ入城シテオル。

一、R光華門近クニ露營シアリ。

脇坂部隊占領
昭和十二年十二月十日午後五時光華門

昭和十二年十二月十三日未明同門城壁一帯

十二月十四日、晴

一、第二大隊長ノ指揮下ニ在リ。

一、待機。

一、軍司令部 湯山鎮 八約三千ノ敵ニ逆襲セラレ、19 iハ急援

ニ出勤セリ。

一、本日ヨリ一小隊ツツ交代テ光華門警備ニ服務ス 歩兵中隊ヨリモ約一小隊服務ス。之レト協同警備。

一、城内ニハ尚多数ノ敗残兵アリ。公用ノ外々出ヲ禁ズ。

昨夜急報ニヨリ、中華門へ第三小队ガ警備ニツイタガ、其後何ノ事ハナカツタ。静寂ノ裡ニ南京ノ第一夜ヲ明シタ。

十二月十五日、水、晴

一、待機。

一、第一大隊ニ復歸ヲ命セラレ正午露營地出發。午後三時移動シ

終ル。

一、坪田小队ハ正午迄光華門ノ警備ニ任ズ 宿所モ知ラズ任地ニツイタノデアル。

午後城門上ヨリ見レバ、砲兵部隊、大行李等続々ト城内ニ入ツテ来ル。

周囲至ツテ静寂ナリ。然、処々ニ火災アリ。

十二月十六日、木、晴

一、待機。

一、爾今将校以下肩章ノ離脱ヲ禁ズ。

一、敬礼ノ厳格

入浴。

今日八久方振りデ入浴ヲシタ。長イ間ノ戦塵、垢ヲ洗ヒ落シテ
氣持チガサツパリシタ。洋式単独風呂 沸シタ湯ヲ入レル風
呂。

十二月十七日、金、晴

一、待機。

一、南京入場式。午後二時三十分ヨリ晴レノ入場式挙行セラル 中
山門通り。

午後三時軍司令官閣下以下堂々入城ス。

一、光華門ノ警備、午前七時交代。

方方デ喇叭ノ音ヲ聞クヤラ、体操ノ号令ガ聞エルヤラ、戦場デ
ナイ様ナ感ガスル。

十二月十八日、曇 朝雪デ真白

一、待機。

一、中支方面陸海合同慰霊祭。午後三時ヨリ慰霊祭挙行セラル。

一、時節柄年賀状ヲ一般ニ廃止セラルルニ付キ、徹底セシムルコ
ト。

一、中隊長殿治癒退院ノ上、本日着任セラル。

十二月十九日、日曜日、晴

一、待機。

一、坪田小隊光華門ノ警備。

一、半数將校ノ引率ヲ以テ市内戦跡ノ見学ヲナス。

一、軍司令官閣下ヨリ訓示アリ。

十二月二十日、月、曇

一、待機。

一、正午ヨリ半数市内戦跡見学。

一、師団八来ル二十四日ヨリ移駐ヲ開始シ、蘇州以東ニ兵力ヲ集
結シ、次期作戦ノ準備ヲナス。

集結地。

蘇州 師団司令部 他秘

崑山 旅団司令部 他秘

嘉定 〇〇、 他略

南翔

劉河鎮

発信。

家庭及親叔知己へ手紙ヲ出ス。

十二月二十一日、火、晴

一、待機。

一、坪田小隊光華門警備。

一、移駐地。

南翔 。

嘉定 及R本部。

劉河鎮 。

十二月二十二日、水、晴

一、待機。

一、將校行李ヲ上陸以來初メテ手ニ入ルコトヲ得タ。

シャツ其他必需品ノ入替ヲナシ、再ビ大行李ニ渡ス。

一、今日八冬至デアル。戦地ニアツテ八冬至南瓜毛喰へ又。

二、学校デハ第二学期ノ終業式モ終ツテ、二十四日カラ年末休暇デアロー。

発信。前田中尉、北村 豊、小林次一、水野多平

来信。竹内貞 東京京橋区新富町二一ー一。

食料品ヲ送ツタトノ報ラセ。

十二月二十三日、小雨

一、待機。

一、坪田小隊光華門ノ警備ニ任ズ。

一、本日八主トシテ移駐ノ為メ出發準備ヲナス。移動地ハ嘉定、

約八十里。

十二月二十四日、雨、小雪、寒

一、南京出發。嘉定ニ向ヒ行軍ノ為メ新唐市ニ向ヒ前進。午前七

時半中山門ヲ出發ス。

一、午後四時四十分宿营地ニ到着。新唐市。

一、中山門ヨリ出て約一里ノ間一帯八中山公園ニナツテオリ、中

山墓地 孫文ノ墓 立派ナモノデアアル。

一、午後二時四十分湯山鎮通過、茲ハ温泉ノ出ル処テ蒋介石ノ別

荘ノアル処ダト云フ。行程約七里。

十二月廿五日、土、晴

一、行軍、太平省ニ向ヒ前進。

一、本日ハ畏クモ大正天皇祭。

一、午前八時半宿营地出發。

一、午後三時半露营地到着。太平省。

十二月二十六日、日、晴

一、行軍、十里碑ニ向フ。

一、午前八時出發。

一、午后三時露营地着。十里牌。^(ママ)

十二月二十七日、月、晴

一、行軍、丹容ニ向ヒ前進。

一、午前八時三十分露营地出發。

一、午後〇時半丹容南端ニ到着、露営ス。

一、駐屯地ヘノ先般者ハ、明二十八日汽車ニテ先行スルノ命アリ。

一、汽車ハ上海―丹陽間開通シアリ。

汽車ノ音モ非^(一脱)常懷シイ思ヒガスル。

十二月二十八日、火、曇、雪、丹陽ニテ滞在、給養

一、先発者丹陽駅ヨリ南翔ニ至リ、更ニ嘉定ニ至ル。内山少尉腹

痛ノ為メ同行ス。

十二月二十九日、水、雪

一、行軍、本牛站ニ向フ。

一、午前八時露营地出發。江南運河ニ沿ヒ悪道或ハ畑ヲ難行シ、

一、午後五時露营地着、本牛站。

十二月三十日、木、曇

行軍、常州ニ向フ。

一、中隊八午前八時三十分出發。

一、午後二時常州到着。

十二月三十一日、金、雨

一、行軍、路社鎮二向フ。

一、午前八時西門城外大道路上ニテ大隊ノ行軍序列ニ入り行進。

一、午後五時露营地着。

一、露营地、路社鎮。

愈々記念スベキ昭和十二年モ暮レタノデアル。戦地ニテ年越、

誠ニ感深キモノアリ。

一、行程約七里。午前八『クリーク』ニ沿フ本道上。午後八鉄道

線路上行進。

昭和十三年一月一日、土曜日、曇、十時頃ヨリ晴

一、遙拜式。午前七時半整列。中隊毎ニ遙拜式挙行。君ヶ代、万

歳三唱。

一、午前八時半鉄道線路上ヲ行進。無錫鎮ニ向フ。

一、行程約二里、午後一時半露营地着。

正月一日初メカラ行軍ヲシタノデアルガ、行程ノ都合デ止ムヲ得

又。早ク露营地ニ着イテ元旦ヲ祝シ、明日八休養。

加給品。羊羹、キャラメル、ミカン、スルメ、キン-ton 缶詰、

正月料理ノ平缶、日本酒。

1、其ノ附近ノ警備テハ、門松ナド建テテ国旗ヲ掲ゲ、縄マテ

張りタル処モアリ、幾分正月ラシイ気分モシタ。

2、36 i 八午前十一時無錫郊外ニ到着シタノデアルガ、休憩ヲシ

タリ城内ニ入ラス、城外ヲ廻ハリ、ツテ町端ヘ出タノデアル。

理髪。支那人ノ理髪屋方居タノデ理髪ス。金式拾銭。極粗末ナモ

ノデアル。

一月二日、日曜日、快晴、滞在、無錫鎮

一、朝八切餅ノ雑煮。

二、下記ノ如ク左物入蓋ニ赤色系テ縫ヒ置クコト。

三、午後八時半、敵機五、六台空襲ノ兆アリト警報アリ。全部消

灯。

一月三日、月、曇、寒

一、行先望亭。今日八格別ノ寒サデアル。午前中八特ニ耳ガトレ

ソーデアツタ。

一、大隊ノ出発、午前七時半。

一、宿营地 望亭町ノ南端 到着、午後三時

一、行程約六里。

一月四日、火、快晴

一、行先、木瀆鎮。望亭一六里木瀆鎮。

一、中隊ノ整(列脱)午前七時半。大隊ノ出発午前八時

馭兵、後備兵、鈴木八脚病ノ為メ汽車ニテ嘉定へ。

鈴木八不平家デアリ、『ズルク』思想穩健ナラズ。

一、宿营地 木瀆鎮一到着。午後三時二十分。

一、行程約七里。

商業学校使丁前田緑 特務兵 二、木瀆鎮ノ入口ニ於テ面会ス

大行李。

一月五日、水、晴、北風、寒

一、行先、蘇州。木瀆鎮一三里一蘇州。

一、中隊八午前八時整列。大隊八午前八時半出発。
一、宿営地、蘇州城外。到着午後〇時半。
蘇州風景。

1、城外ニテ八大分支那人帰来シ、商売ヲ初メテ居ル。飲食店多シ。

2、日本軍デ城内外ガ埋ツテヤル様ダ。第九師団司令部ノ所在地ナリ。

一月六日、木、曇、北風ニシテ終日氷解ケズ、寒シ

一、行先、真儀鎮。蘇州一六里一真儀鎮。

一、中隊八午前七時十分整列、午前七時半出発。

一、宿営地、真儀鎮南端農家、午後三時半到着。

一、行程約七里、崑山マデ約二里。羅摩塔指呼ノ裡ニアリ。

一月七日、金、快晴、北風、寒イ、終日氷解ケズ

一、行先、太倉城外、真儀鎮一六里一太倉。

崑山ヲ十時半通過、旅団司令部其の他歩兵部隊、特務兵多数アリ。

一、午前八時整列、八時五十分出発。

一、宿営地太倉城外、午後四時到着。

一、行程約六里。

愈々最後ノ露営デアル。砲弾八飛ンデ八来ヌガ、各露営共ヘンピナ処バカリニ露営シテ来タモノデアル。衛生上カラ云ヘハ、危険極ハマル事バカリデアル。

一月八日、土、曇、北風強ク寒イ、「最後ノ行軍ナリ」。

一、太倉 嘉定。

一、整列午前八時十分、出発八時半。
一、行程約四里。

A、最後ノ行軍デアル。

B、細イ乍ラモ約八十里ノ道ヲ、若イ兵達ニ一歩モ拙ラズヤツテ来タ。

C、各大隊共本日八最終ノ行軍デアツテ、夫々整備区ニ到着ノ筈デアル。

嘉定、 劉河鎮、 南翔。

午後二時半、先発者及第四回補充員及嘉定住民 子供、大人、親日派 二迎ヘラレテ、宿舎ニ到着シタ。

一、嘉定八案内平穩デアル。

1、避難民モ相当帰ツテオル。

2、自治会モ出来テ、会員モ活動シテオル様デアル。

3、朝ノ市場ナド賑ツテオル。

二、宿舎。二十八日カラ先行シテオル關係モアリ、ヨリ設備ヲシテオイテクレタ。昨日マデノ露営ニ比べ、丸デ極楽気分ト申サネバナラヌ。

三、配備。第4中隊及MG中隊八西門外、他八全部 後備大隊モ含

ム 城内ニ宿営アリ。

四、MG中隊八兵舎ト幹部舎ト二分レ、幹部舎八今ノ処他中隊ニ比シ一等立派デアルトノコトデアル。全ク官舎デアル。

一月九日、日、快晴

一、嘉定ノ第一夜ヲ寝台上ニ暖カク極楽ノ気分デ明カシタ。

一、連隊副官タリシ鈴木文雄少佐方当大隊長トナラレタ。

一、将校行李ヲ大本ヨリ受領。着替へ、行李内ノ整理。

一、郵便物。晩方二至リ内地ヨリノ郵便物ヲ一部分配セラレル。

来翰。

稲葉富太郎氏 東京市荒川区日暮里町一〇四四。

『小包ヲ送ツタ』ト云フ案内デアル。

北島平太郎氏 東京芝区西久保巴町一一二。

「本日ヨリ嘉定警備、次期作戦ノ準備。」

一月十日、快晴

舎内外ノ整理、掃除。

情況。(敵力) 報報変化ナシ。

一月十一日、曇、火

「戦闘間使用セシ地雷返却ス 事務へ。」

来翰。片山德行氏 福井市東上町 十月十七日出。

中西竹蔵 小隊ノ負傷兵。

坪田 裕 十月廿七日附。

宮下清太郎氏 福井市清川上町一〇六 十月廿八日附。

一、午後二時ヨリ中隊ノ日直勤務。風邪ノ気味アリ。

一月十二日、水、快晴、晩方曇

一、大隊長ノ舎巡視、午後二時十五分ヨリ約三十分。

小包来。福井市錦上町 西村乙松 一一、一二附。

メリヤス上下、細屋製慰問袋 一円位。

現在ノ編成。

伍 伊藤 章

上 合川作太郎

第一 元雄 弘

上 吉田 静

七 上 西野千太郎

上 柳瀬敏章

分 一 島 孝二

一 杉本 寿

隊 一 浅水久雄

一 鈴木庚子吉

一 白崎藤代治

伍 木水徳松

一 坂瀬吉五郎

第 上 北山長左衛門

上 坂井 泰

八 上 渡辺繁生

一 坂口金蔵

分 一 毛利 斉

一 酒井尚一

隊 一 山口由一

一 橋詰豊志

一 豊岡 豊

一 亀岡新治

一月十三日、木、曇、寒

一、今日八表門前ニ防弾設備作業。井戸ニ天幕ヲ張り雨雪除ケ、

炊事場、鍋ノ取付ケ。

一、午後二時ヨリ巡察將校ノ勤務二服ス。

来翰 坪田 裕 十一月十五日附。

とみ子 十月廿一日附。

初枝 十二月四日附。

黒川栄次郎氏 十一月廿七日附。

西島とめを、北島平太郎氏

片山清行氏 十二月二十日附。

だるま屋慰問袋 十二月十六日附。

「郵便物ノ取扱開始」

一、本日ヨリ郵便物ノ差出ヲ取扱フコトニナツタ

発翰。坪田裕・小菊、片山清行氏、宮下佐太郎氏、坪川信一氏、

西村乙松氏、近藤金松氏、久米田裕氏

一月十四日、金、晴、比較的暖

一、午前十時ヨリ兵器検査。

一、補充員到着。平井伍長以下四十二名正午到着 銃隊ノ定員一

百四十六名 二充実入。

一、日直勤務二服入。

来翰。森勝治氏 大阪市住吉区遠里小野町三四一。

小包到着。

坪田 裕 小刀、鋏、薬、サジ、ピカイ等、十一月十一日附

小林与三吉 月見町、十一月二十四日附。

一月十五日、土、晴、曇

軍刀ノ修繕。戦中蔡家宅ニ於テ折損セシ柄、R兵器委員へ提出。

発翰。小林與三吉氏、五十畑新一氏、坪田小菊、川栄 倬氏、

森勝 治氏、勝田 清氏、高佐・西村氏、長村龍蔵氏、

加藤武雄氏

来翰。五十畑新一氏 福井市花月新町一八〇。

西島善作氏

鷹尾雄孝氏

福井市手寄上町二〇。

一月十六日、日、晴

一、嘉定内務規程『案』出ツ。

一、軍刀ノ修繕出来テ、工長ガ持ツテ来テクレタ。

一、本日八嘉定一羅店鎮道ヲ 謝宅北方ヨリ、呉家宅東方点線路

迄 修繕作業 兵四十三名。

来翰。坪田小菊 十二月二十三日、航空郵便。

小包。国防婦人会宝永分会。

金額ヲ示シテ家ノ者ガ荷造リシタラシイ。

一月十七日、月、東風強、寒

発翰。国婦宝永分会礼状、久米田裕氏、鈴木 広氏、丸山秀弥氏、

浅山虎雄氏、福商同窓会

来翰。昭和・小菊 十一月十五日發。

岡本秀雄氏 十一月十七日發。

北島平三郎氏 十一月二日發。

川端太平氏 宝永上町七八。

福商同窓会ヨリ新聞、北島平三郎氏ヨリ小雑誌。

一月十八日、火、昨夜来小雨

一、午後二時ヨリ大隊長 鈴木少佐 ノ巡視。

一、日直勤務二服入。

小包到着。実科高女ヨリ 糸、針ヲ内容品ノ一ツトセラレシハ、

実科ナレバコソデアル。

来翰。石居岩雄氏 福井市湊新町一一。

小林與三吉氏 月見町 送荷案内。

「名津井初二郎君戦死状況」

受傷 一一、一一、三、死 一一、一一、五、第四野戦病院。

左右下腿骨折、貫通。瓦斯環痕。

一、旅団長閣下初度巡視。

一月十九日、水、大雨

発翰。石居岩雄氏、実科高女、坪田小菊

来翰。松谷金作氏。

二月二十日、木、雨止マズ

理髪。

来翰。坪田裕・昭和・小菊・とみ子・初枝同封、松谷金作氏

学校ヨリ同窓会誌 事変号。

一月二十一日、金、曇、寒

一、日直勤務二服入。

発信。松谷金作氏。

来翰。岡本秀雄氏、岡 孝教氏、久木健太郎氏、北島平三郎氏、

天谷泰蔵氏、久米田裕氏、丸山秀弥氏

一、俸給日。

九月份 日割計算 金參百円六拾九銭。

十、十一、十二、一月

仮編成 第三小隊長 坪田准尉。 第六分隊

伍 伊藤 章 適上 佐々木弘寛

一 谷口由太郎 一 松井儀右衛門(左)

上 柳瀬敏章 上 渡辺(健)伍一

上 前田五右衛門 上 笹原(兼吉)

上 金川作太郎 上 坂口松五郎

一 藤岡守一 一 任田一太郎(マ)

一 坂瀬吉五郎 一 石倉勇太郎

一 大坂文吉 一 浜田鉄夫

一 菱田正吾 一 浅水久雄

補二 斎藤円治 補二 岩本武男

同二 竹沢敏美 補二 山田初蔵

銃馬 谷西 銃馬 福松

弾馬 谷北 弾馬 欠

一月二十二日、土、快晴

来翰。坪田小菊、大手重太郎氏、朝田 伝君、西村乙松氏、

中西上等兵

発信。川端太平氏、岡 孝教氏、天谷泰蔵氏、久木健太郎君、

坪田小菊、大窪 弘君、岡本 等君

年末賞与金ヲ受領ス。金六拾八円也 八割五分。現役八十六割

一月二十三日、日、快晴

本日八中隊ノ休務日トシテ一般ニ休養ス。

情報。敵機襲来ノ兆有リ。

敵機、呉淞爆撃ノ兆有リ。MG中隊八対空射撃部隊トシテ、対空

射撃ノ設備並ニ監視哨ヲ配置シテ警戒スベシ 他中隊ノ分八略

ス。

小包到着。防水マント外数点、一月四日出。

一月廿四日、月、晴

発信。坪田小菊 金貳拾円封入。

中隊ニ於テハ、毛布、石鹸、歯ブラシ、同粉等ノ分配有リ。

一月二十五日、火、曇

一、師団長閣下ノ巡視 MG中隊ヘ八来ラス。

一、西門城壁上ヘ対空監視トシテ、MG一銃本日ヨリ配備スルコト

トナレリ。

来翰。岡本秀雄氏、道清伍長、北村 豊、藤田 寛氏

発信。坪田小菊行 金拾円封入、西島治昭氏

一月廿六日、水、晴、寒

午前二時非常呼集。

一、本日ヨリ二泊ノ予定ヲ以テ、中隊長指揮、戦場掃除。新木橋、

櫓網灣、談家頭、楼下宅方面：南翔二出ツ。

イ、MG二小队編成、小銃作業班二班。

ロ、午前九時出發。

一月廿七日、木、晴、晚方曇、戦場掃除第二日

南翔ヲ通過シテ約千五百米ノ地ニ宿営 周家橋ニ露営。

「 本夜半中村准尉八自分室ニテ焼死ス。気の(ママ)毒ニ堪ヘズ。

原因不明ナリ 廿八日帰営シテ聞イテ驚イタノデアル。 」

一月廿八日、金、曇

一、戦場掃除日第三日。

一、今日八周家橋ヨリ三隊ニ分レ、嘉定西門外街迄ノ軍用地誌ノ

研究ヲ行フ。右 坪田隊、中 中隊長、田中隊、左 内山隊。

一、午後五時帰営ス。

小包到着。稲葉富太郎氏 東京市荒川区日暮里九丁目一〇四四。

来翰。千田藤太郎・富雄氏 乾新町六九。

北村 豊氏、水野多平氏、小林次一氏、宝永分会、

坪田小菊、坪田茂三郎氏、西島治昭氏、不破伍長

一月廿九日、土、雨

朝一面真白デアル。爾後細雨。午後八風雨、寒厳シ。終日降り止

マズ。

一、慰問袋 吉個分配セラル 初メテデアル。

発信。坪田小菊 肩章其他送レ、小林次一氏、宝永分会長、

稲葉富太郎氏、水野多平氏、水野一郎君

一月三十日、日、雨

日直勤務二服ス。嘉定体育场ニ於テ、午後三時ヨリ陸軍々楽隊ノ

楽奏アリ 慰問ノ意味ニ於テ。

一月三十一日、月、曇

一、連隊慰霊祭挙行。

A、場所嘉定体育场。

B、時刻午後一時半ヨリ、仏式ニテ。

C、戦死、病死、伊藤中佐以下千二百五十七柱。

式典終了後連隊長ノ訓示アリ。

発信。五十畑新一氏、長村龍蔵氏、中村書記、乗竹先生

裕卜昭和 カラー、肩章、インク、靴ズミ等送レ

本日八左記ノ如ク沢山ノ慰問袋ヲ受領ス 受領人指名ノ慰問袋デ

アル。

第三冊

坪川信一氏、福商職員一同、吉田辰五郎氏、北村 豊君、西島治昭氏、西島善作氏

久木健太郎君 花月新町五六、千田藤次郎氏 乾新町 六九。

本多 弘君 留吉氏令息、宝永上町九〇。

坪田 裕 すてをよりの代人

中隊ノ将兵一般ニ多少ツツ指名慰問袋ヲ受領シテ、喜フト共ニ

感謝シテオル。

「昭和十三年ノ一月モ終ツタガ、情報トシテ八月初メニ敵機空襲ノ報ハアツタガ、其他何等ノ新報、情況ノ変化モナク終ツタ。一般ノ情勢 北支、中南支、北滿 ハサツパリ分ラナイ。」

一月中ニ於ケル感想。

昨年十二月二十四日南京ヲ出発シテ以來、約八十里ノ道ヲ約二週間ヲ費シテ行軍ヲ以テ当嘉定ニ落付イタガ、戦闘ヲ続ケテ南京ニ向ツタ途中八相当露営スベキ民家モアツタノニ、後方部隊ガ焼イタモノデアロー、道ニ沿フ家ハ大部焼カレテ煉瓦ノ壁ダケガ残ツテオル処ガ多イ。

露営地ニ着クヤ相変ラズノ馬小屋同様、藁ヲ敷イテ焚火ノ露営ニハ何トモ云ヘナイ。衛生モ何モアツタモンジヤナイ。

年末モ年始モ戦地デハアルガ行軍デ終ツタ。思ヒ出深イモノガアル。嘉定ニ落付イテカラハ、何時何処ヘ進撃スルヤラト思ツテ落付カ又状態デアツタノニ、一月モ過ギテ二月ヲ迎ヘル様ニナツテシマツタ。今後ノ情勢ハ？

「(表紙)

其参 自昭和二三、二、一
至昭和二三、四、三〇

陣中日誌

吉住部隊

脇坂部隊

安保隊

坪田留吉

「(扉)

陣中日誌

自昭和二三、二、一
至昭和二三、四、三〇

自昭和二三、二、一

至昭和二三、四、三〇

昭和二三、二、一、火、晴

娯楽場の開場

嘉定警備区慰安所規定に基キ、本日ヨリ下士官、兵ノ娯楽場ヲ

開場セラル 大入満員ノ盛況デアツタト云フ。

昨三十一日、多数ノ慰問袋ヲ貰ッタノデ礼状ヲ送ル。

昭和二三、二、二、水、曇

一、本日ハ採暖用ノ石炭及破壊家屋ノ材料 材木 ヲ運搬 徵発。

一、日直勤務二服入。

一、慰問袋壹個配給セラル 国婦御幸村分会。

昭和一三、二、三、木、曇、午後三時半ヨリ雨

一、午後三時半、福井連隊区管在郷軍人ヲ代表シ、小木大佐慰問ノ為メ来隊セラル。

昭和一三、二、四、金、雨

一、本日八休務日ナルモ降雨ノ為メ外出者少シ。

一、福商同窓会ヨリ新聞ヲ送リ来ル。

昭和一三、二、五、土、雨、風アリ

昨今天候余リ宜シカラズ、降雨勝チデアル。

発信。西島與太郎氏へ、竹内 貞氏へ、福商同窓会へ、

柴山一馬氏へ、近藤金松氏へ、先織泰治氏へ。

来翰。宮下清太郎氏 葉書

昭和一三、二、六、日、快晴、午後曇

一、種痘。午前十一時ヨリ将校以下全員行フ。

一、日直勤務二服入。

「異状。」

夜二ナルト南門外附近或八北門外附近ニテ、一、二発ツツ小銃

製発ス。犬方頻リト吠エル。

便衣ノ進入ニアラザルヤ?

昭和一三、二、七、月、快晴

小包来ル。東京市葛飾区四ツ木町二二四、宮沢潤二郎氏
羽二重餅 小箱壹、ビスケット 二斤、手拭 一、

ドロップス 数個、キヤラメル 小2。

(恩) 御賜煙草ヲ拝領ス。

将校、准尉 三拾本。

下士官 二拾本。

兵士 拾本。

負傷者二八御菓子ヲ賜ハル。

来翰。坪田小ぎく 航空郵便、山田武氏、五十畑新一氏、

北島平三郎氏 新聞

昭和一三、二、八、火、快晴、午後西風強

1、理髪ヲ為ス。

2、発信。坪内小ぎく、山田先生、宮沢氏、北島平三郎氏

3、本日毛採暖用薪炭ノ蒐集。

昭和一三、二、九、晴後曇

小包来。宝永軍事後援会慰問袋。

日直勤務二服入。

「小銃声。日夕点呼前後二北門方向ニテ聞ユ。怪シカラ又銃声デア
ル。」

昭和一三、二、一〇、木、曇

発信。宝永軍事後援会長黒川栄次郎氏へ。

来翰。坪田小ぎく 現金到着ノ報

懐中時計故障ノ為メ甚夕不自由ナリ。

昭和一三、二、一一、金、快晴

紀元節。紀元二千五百九十八年。

嘉定警備隊全部遙拜式挙行。嘉定体育場。午前十時ヨリ。機関銃中隊八小銃編成トス。

式後、連隊長ノ訓示、解散。准尉以上連隊本部ニ集結、祝盃。

昭和二三、二、一二、晴、土、午後曇

発信。三辺雅久氏、松谷金作氏、福商健児へ。

来信。斉藤 豊氏、坪内小ぎく、近藤老人死去ノ報ナリ、

亀岡新之助氏 大野町七間。

昭和二三、二、一三、日、昨夜来雨

本日八雨八降ルガ暖カデアル。『ストーブ』ノ傍デハ脱衣デナケ

レバ背ガ暑ク、汗ガ出ル位デアル。

1、兵器ノ手入、検査、連隊兵器委員。

2、日直勤務ニ服ス。

小包来。坪内 裕、菓子、青・赤インク、物サシ、鋏、小刀、

定木、齒磨キ、同楊子^{フラス}、ワカモト、其他略。

カラー、カフス。

昭和二三、二、一四、月、曇、半晴

発信。坪田小ぎく、小包ノ返事。

来信。久木健太郎氏、新聞、花月新町五六。

朝日 伝 月見町三二。

大島 剛 丹生郡吉川村平井。

岡本 等 福井市日ノ出中町二七。

小包来。坪田 裕、キング、日ノ出、カステラ缶入り、果物缶詰

勲記番号ヲ知ラセテ来タ。

第九十五万四千二百一十一号 昭和九年四月廿九日。

「異状。

午後八時半頃、南門ノ方向デ小銃声ニ発聞工、又南、北方ニ犬

ノ吠工声頻リナリ。午後九時半ニモ聞ユ。」

昭和二三、二、一五、火、時々雨

本日大隊命令ヲ以テ、坪田准尉、兵二十名戦場掃除ノ為メ、明十

六日ヨリ約四日間ノ予定ヲ以テ出張ヲ命ス、ト云フノデアル。

一等兵山腰秀治ノ死体捜査ノ為メデアル。

「情况。

(ママ)

方面ノ敗残兵ノ相蕩討伐開始。

第二中隊八本日出発、崑山ニ至リ討伐ニ参加。

午後九時頃南門方向ニ銃声一発。」

昭和二三、二、一六、曇、寒

大隊命令ニ基キ戦場掃除ノ為メ真儀鎮方面ニ出張ス。

一、午前八時三十分出發、行軍ニテ南翔駅ニ至ル。小銃携行、軍

装ニシテ防毒ヲ除キ、携帶口糧四日分携行。

二、参加人員、下士官、兵二十一名、准尉坪田留吉、伍長。

南翔行途中空自動車ニ依頼シテ便乗シ、午前十時半南翔着。午後

〇時四十一分南翔駅発、午後三時四十分唯亭站着、下車。鐵路ニ

沿ヒ山腰一等兵ノ屍体ヲ搜索シ乍ラ、午後五時四十分南水港

蘇州ヨリ約一里半東方部落ニ於テ露営ス。異状ナシ。

昭和二三、二、一七、半晴

午前九時前任務続行、南水港出發、午前〇時半蘇州着。午後三時迄大休止、昼食。午後三時蘇州發、午後五時半柏家里着、露営、異状ナシ。

柏家里…許墅閣站東南方約一里。

昭和二三、二、一八、快晴、暖

午前九時半柏家里發、午後三時望亭着。望亭站ヨリ一部ヲ以テ宿營ノ準備ヲナサシメ、大部ヲ以テ木村首次郎及吉田伍長ノ戦死ノ処ヲ吊^(弔)ヒ、墓標ヲ建テ、午後五時望亭站東北約三百米ニアル小部落ニ露営ス。

当部落ハ日本軍ニ好意ヲ持ツモノカ、大變便宜ヲ与ヘテクレテ万事順調ニ準備運ブ。異状ナシ。

「朝香宮殿下南京ヨリ上海ニ向ハセラル。午后二時半望亭御通過。」
昭和二三、二、一九、快晴、暖

午前九時一分ノ列車ニテ望亭發、午後〇時四十分南翔站帰着、昼食。午後一時半出發、約一里行軍ノ後トラックニ便乘、午後三時二十分無事帰着ス。

目的ヲ果シ得ズ歸ツタノハ甚ダ残念デハアルガ、全ク空摺ムヨリモ更ニ便リノナイ仕事ニシテ、止ムヲ得又次第アル。
来翰。浅山光男氏 尾上上町七二。

鈴木 広氏 湊上町五十五。

坪田 裕・坪田昭和・坪田小ぎく 航空、十二日出。

『新聞ニ依レバ当分小包ハ取扱ハザル様子ニ付キ、送ラヌ』ト云フノデアル。

北島平三郎氏ヨリ新聞

『二月二日ノ新聞紙ニシテ、支那派遣軍八現役兵ニ漸次交替スル方針デアル』ト、町尻軍務局長重大言明セリトノ記事ガ、第一面ニ記載サレテ居ルモノデアル。

「所感。

小包發送取扱中止、陣中日誌及功績調書ノ取急ギヲ思ヒ、又徐州方面ノ敵情、南支方面ノ敵情ヲ考ヘルトキ、初年兵ノ到着前ニ於テ一大決戦ヲ交ヘ、総攻撃ヲ以テ当面ノ敵ヲ殲滅シ終ルノデハナイカ。吾人ノ移動近キニアリト考フ。果シテ如何？ 愚考？」

昭和二三、二、二〇、日曜日、曇

發信。坪田小ぎく、麻本 広氏 湊上町五五。

来翰。小林次一氏、中島繁一氏、西島與太郎氏…十二月のもの、久木健太郎君 新聞

購入。ゴム長靴 壹足、金四円也。大学ノート 壹冊、金參拾錢。日直勤務。

昭和二三、二、二二、月曜日、快晴

一、機關銃三銃ノ試験射撃。

「御賜煙草三十本、小包トシテ郷里ニ送達ノ為メ連隊本部へ提出。中隊全部。宛名八留守宅。差出人八脇坂部隊長トス。

俸給日、金五拾九円貳拾錢也。金六拾円ノ処恩給國庫補助トシテ金八拾錢差引カレタモノデアル。

来翰。丸山秀弥氏 西別院裏。吉田辰五郎氏 舟橋新。發信。坪田小ぎく、御賜煙草發送ノ件。

久木健太郎君より新聞来ル。

昭和一三、二、二二、晴、月曜日

来翰。坪田 裕、航空。

発信。久木健太郎君。

別段記載事項ナシ。敵情況一切不明ナリ。

昭和一三、二、二三、水曜日、晴

本日八道路修繕。馬陸鎮北端―石崗門間トス。但今日八馬陸鎮ヨリ約六百米実施。

来翰。内藤 巴氏、上崎隼雄氏 福井市久保町、松谷金作氏、

中村亀太郎氏

「情況。

新木橋西方広福張家宅二八敗残兵アリ、兵器、彈藥ヲ隱匿シ、

宣撫工作ヲ攪乱スルモノアリ。

二十四日ヨリ、第一、第四中隊八中隊長ノ指揮スル各一小隊ヲ

以テ、二日間ノ予定ヲ以テ討伐ニ従事スルコトナレリ。」

昭和一三、二、二四、木曜日、晴

本日毛道路修繕。

発信。内藤 巴氏、上崎隼雄氏

日直勤務二服ス。

「一般帰還部隊携行物品ニ就テ細部ノ指示アリタルニ、更ニ本

日左ノ如キ指示アリ。

鹵獲及押収品引継並内地携行貨物ニ関スル件。

非常ニ八釜シキ関税問題、風紀問題等記載セラレタリ。

昭和一三、二、二五、晴、金

一、休務日。

一、正午、来週巡察勤務二服スルノ件。

連隊長、副官、大隊副官等二夫々申告、挨拶ヲ為ス。

来翰。北風藤蔵 東上町五二。

昭和一三、二、二六、晴、土

一、補充兵、一等兵ニ進級ノ命課。

一、本日ヨリ向フ一週間、「巡察勤務二服ス。」

一、遺骨内地護送者人名発信。MG：野坂上等兵。

発信。坪田小ぎく

稲葉富太郎氏 日暮里九丁目一〇四四、福商各先生へ。

会報。

1、検便 将校以下三月一日マデニ糞便ヲ医ム室ニ提出スル件。

2、派遣部隊ノ部隊名秘匿ノ為メ、「名ヲ『伊』トスルコト。」

「野坂上等兵ニ物品依頼。懐中時計及御守符縫付のチヨッキヲ小

包トナシ、留守宅へ届ケル様依頼ス 野坂上等兵八二月廿八日

嘉定出發ノ筈。」

昭和一三、二、二七、快晴、日曜日

昨今メッキリ暖カニナツテ来夕。

本朝八快晴ニモ拘ラズ霜サヘナカッタ。特記事項ナシ。

昭和一三、二、二八、快晴、月曜日

1、本日毛霜降ラズ、朝カラ暖カナリ。

2、中隊ニ於テ作製セシ陣中日誌自第一号、至第四号一部宛曹長

ヨリ貰ツタ。

3、野坂上等兵八本日上海ヲ出帆ノ筈。

二月二十二日、大朝発表。

一、松井大将、柳川中将ノ凱旋。

一、畑大将 松井大将ノ後任 ノ就任ノ辞。

一、台北、新竹、支那機爆撃ノ報。

或部隊モ内地ニ凱旋シタモノラシイ。

発信。真木友吉少尉

来信。西島與太郎氏

小包来。竹内 貞君 東京市京橋区新富町二一―。

内容品、木箱入。ウイスキー瓶入小壺、パイ缶中壺、お多福豆

中缶壺、鶏肉野菜煮壺、はまぐり缶詰壺、

手拭日本手拭壺 十二月十一日出。

一、中隊ノ日直勤務ヲ兼務ス。

昭和二三、三、一、快晴、火

温暖力ノ風力吹クケレ共益々快晴デアル。

慰問袋壺個、岐阜県高山市繩手町 愛国婦人会・国防婦人会高山

市支部、高山市婦人会。

発信。谷 三郎君

昭和二三、三、二、曇、午前十時頃雨、水曜日

発信。岡本秀雄氏

来信。山田三徳氏 老松中町、高佐幸二氏 朝柳町二三三、

須賀原直弘氏 佐佳枝上町一三九、小林計雄氏 月見町、

鷹尾雄孝氏 手寄上町二〇。

昭和二三、三、三、曇、木、陽気冷

1、中隊長殿八大場鎮附近ノ戦場掃除ニ出張セラル。

2、新聞来ル。勝山本町 松村国平氏

同 福井商業学校

同 北島平三郎氏 東京市芝西久保巴町一一二。

(M)
三、検便提出。

昭和二三、三、四、金、曇、小雨、冷

休務日。

来翰。久木健太郎君 新聞、北村 豊君

昭和二三、三、五、土、曇

来翰。坪田小ぎく 航空、21日出。

来翰。坪田小ぎくへ、須賀原真弘君、高佐先生へ、加藤先生へ、

山田三徳氏へ。

加藤先生 福井市松本地方三三六号19、沢崎清七方。

昭和二三、三、六、日、雨、雷鳴

発信。裕 写真器送レ、五十畑氏、栗田氏、石居氏、福山氏

来信。久木君、新聞、橋本幸一君、有城米太郎君

本日は雷鳴アリ、風雨にして近来ニナキ冷氣デアツタ。

昭和二三、三、七、月、雪

1、午前三時大隊本部火事、一棟丸焼、風はあり手ノ下シ様ナク、

書類一切モ何物モ取り出セナカッタト云フ。丸焼ケデアル。

「」昨日来寒カツタガ、本朝来殊ニ寒ク前十時頃ヨリ霰トナリ、

本調子ノ雪模様トナリ屋上地真白トナル。

一、昨日来ノ悪寒、頭痛止マス。

昭和二三、三、八、火、雪

大シタ降り方デハナイガ、午前中ハボタ雪ガボタト降ッテ約

二寸位八種ツタ。午後八止ム。

一、日直勤務。

二、一昨日来ノ悪寒、頭痛止マズ。

A、食欲モ不進、何ダ力氣分ガスグレナイ。^(衍)

B、左肩胛骨下附近ガヤメテ仕方ガナイ。^(病)

発信。昭和宛、裕宛。

昭和二三、三、九、雪、水曜

一、晩方デハ約三寸八種ツタ。降ル割合二八降ラヌ。^(積力)

一、四日出発シタ戦場掃除、中隊長殿初メ雪ノ中ヲ帰營セラル。

来翰。鈴木 広氏 二月廿四日附、湊上町五五、同葉書。

北島政子様 尾上下町一九。

岡田秀雄氏 福商校

昭和二三、三、一〇、晴

陸軍記念日、第三十三回。

模擬戦。

仮設敵 第二中隊。

攻撃部隊 嘉定在部隊 第二中隊除 全部。

想定及配備、経過。

1、嘉定城壁ニヨル敵ニ対シ、南門、東門ノ中間地区ヲ攻撃。

2、第一、第三、第四中隊第一線、MG八各中隊ヘ一ケ小隊宛

配属ス。

3、午前七時ヲ期シ攻撃開始。

A、煙幕構成。

B、MG、歩砲掩護射撃。

C、民舟ニ依ッテ『クリーク』渡河、竹梯子ニ依ッテ城壁

攀登。

D、追撃開始、演習終了。

分列式 畑ニテ、大隊長、R長訓示、解散。

午前四時出発、集落地ニ至リ、五時半ヨリ配備ニ就キ、八時半

終了ス。

一、集合時二八曇天ニシテ地上ニ約二寸ノ積雪ガアリ、随分寒力

ツタ。

二、分列式終了ノ頃ヨリ晴気味トナリ、後空晴レタリ。天候モ回

復スルナラン。

午後三時ヨリ、連隊長宿舍庭ニ於テ准士官以上ノ野戦式祝賀会

発信。鈴木 広氏 湊上町五五、岡田秀雄君 福商気付、

浅山虎雄氏 尾上上町七二。

松谷金作氏、吉田辰五郎氏、渡辺医院

三月十一日、金、半晴、午後又曇、寒

来翰。坪田昭和。御賜ノ煙草ガ本月五日午後五時ニ到着シタ件

一、望亭附近ヘノ戦場掃除隊、或都合ニヨリ中止 出発後約二里

位八行軍シテオルガ呼戻シ。

一、松竹演芸団ノ慰問八明日ニ延期。

発信。坪田小ぎく、岡先生、東本 弘、不破正志伍長

来翰。三辺雅久氏、不破正志君

日直勤務。

三月十二日、土、曇、寒

一、望亭附近ノ戦場掃除出發。

二、昨日アルベキ松竹演芸団ノ余興、本日午前九時半頃ヨリ実施

随分兵ヲ喜ハセタ様デアル。

三、母校商業学校デハ、本日卒業式挙行セラルル筈。

場所ガ場所ダカラ祝電モ出セナイ。

三月十三日、日、曇

発信。西島與太郎兄へ。

「敵機空襲」

1、午後七時頃、高度二千米南翔上空ヲ三機編隊ノ敵機通過、上

海ヲ襲撃、帰還セリト。

「2」西門対空監視八直チニ関係部隊長へ報告。

「3、午後七時五十分、小隊長以上R本部に集合、R長より注意ヲ

受ク。

一、将校ニシテ之レヲ発見セシモノアリヤ。

二、戦ヒヲ忘レテオルノジャナイカ。

三、コンナ事デハ下士以上ヲ如何ニシテ教育シ、戦争気分薄ラ

ガシメナイデ出来ルカ。

今後大ニ志気緊張シ、部下ノ指導ヲヤラネバナラス。」

三月十四日、晴

一、来翰。吉田甚平氏

一、故郷へ小包ガ発送セラルル筈タツタガ、規則ニ違反スル行為

ガアツテハナラヌト云フノデ、取止メトナル。

一、日直勤務ニ服ス。

参考。

1、近来頻リニ内地帰還ノ為メノ荷物二就テ、或ハ携行物品ニ

就テ、極度ニ八釜シク敵達サレル様ニナツタ。凱旋力、移動?

2、功績調書、同書類作製ニ就テモ、陸普ヲ以テ指示サレテオ

ル。

右八何ヲ意味スルカハ知ラネ共、殊ニ携行品ニ就テハ違反者ナ

キ様検査、計画書マデ提出セヨナドトノ達シハ、志気ヲ弛緩セ

シムルノ虞レナシトセズ、如何?

三月十五日、晴 朝八曇ツテ居タガ寒イ。

発信。吉田甚平氏

小包。呉服町 小大黒屋 だるま屋慰問袋、返却ス。

多分初枝ヲ嫁にくれといふた男から発送した物と思つて返送

す 宛名も坪内としてあつたのを幸として。受取人なし。

情況。

嘉定地区ノ警備地区ガ変更セラレタ關係上、第三中隊八劉河鎮

ニ移駐スルコトトナレリ。明十六日出発ノ予定。

三月十六日、快晴

発信。坪田小ぎく

一、嘉定警備地区下略図ノ如ク変更ス。十七日夫々新任地ニ到着、交替。

要スルニ、 八月八日以来劉河鎮ニ本部ヲ置キ、以北、揚子江迄ヲ警備地区トシタモノデアツタガ、ガノ区域ヲ併セ警備シ、 八元ノ通り、ガ南方ニ延シタコトニツタノデアル。来翰。久木健太郎君 封書ト新聞、 近藤金松君 封書、

北島平太郎氏 新聞。

(写真34)

三月十七日、快晴

来翰。細田達男君、北島平太郎氏

歩三六作命第十九号。

一、軍特務部ノ通報ニ依レバ、青南戦域八十六日午後四時三十分以降、匪賊ノ襲撃ヲ受ケツツアリ。

二、南翔警備隊長八、松皮部隊到着迄部隊ヲ急派シ、治安ノ確保ニ任スベシト云フ。

A、十六日午後三時、匪賊約一〇〇青南戦域ニ来襲シ、財務部ニテ金百円ヲ奪取シ、收容中ノ匪賊十七名ヲ^(解)開放、連行シ、小銃七挺ヲ掠メタリ。

B、目下戦域内八平静ニシテ匪影ナシ。討伐隊八匪情蒐集中ナリ。

三月十八日、金、晴、風寒

午前一時十五分頃、南翔上空ヲ飛行機二、三台 爆声ニヨリ判断通過、上海附近ヨリ杭州方向へ行ったものらしい。

来翰。木水徳右衛門氏 今立郡新横江村下新庄。

鈴木 広君 湊上町五五。

粗品デアルガ送ツタト云フ手紙。

西門ノ前、橋梁上、中隊正門前テ、中隊長殿カラ撮影シテモラツタ。理髪ヲスル。

一、日直勤務二服入。

愈々警力落付イタモノカ、

1、蚊、蠅ノ防設備ノ為メ窓及入口ノ状況ヲ調査。

2、附近水溜り箇所ノ調査。

3、兵舎、幹部舎ノ建物ノ状態、建坪数及持主八誰力等々ノ調査、報告ヲ命ゼラル。

三月十九日、土曜日、曇、寒風

一、今日モ朝早く 七時半頃、十二、三機ノ荒鷲編隊ガ某方面へ爆撃ノ為メダロ、爆音勇マシク進ンテ行ツタ。全ク今歓声モ聞カズニ居ルトキ、遠距離ノ遠征、空ノ勇士ニ感謝ノ外ナイ。一、今日八事務室ノ移動。従来八二室ニ分レ居テ都合ガ悪イノデ、一室ニ合併スルコトニシタ。従ッテ一部模様替ヲナシ、当番室ヲ別棟ニ移転セシム。

来翰。森 勝治氏 大阪市住吉区遠里小野町三四一。

北島平三郎氏 事変記念写真帳。

三月二十日、日曜日、雨、風、午前中八曇、風、晩方ニナリテ益雨

風強シ

近来八余リ天候ガ好クナイ。好イ日モ長続キシナイ。

来翰。日本海館上崎隼雄氏ヨリ新聞。

三月二十一日、雨、風、風強シ

一、班内床ノ張替へ作業。浴槽及浴場ノ改築造。

一、『中隊内務駄』ヲ作り、内務ノ肅正ニ努ム。近ク之レニ基キ

検査ヲ実施スル予定ナリ。

一、嘉定警備区内防疫規定配布サル 愈々伝染病ノ予防デアル。

発信。坪田 裕・昭和へ葉書、宮沢潤二郎氏へ、水野太平氏へ。

受信。水野一郎、福中二年生数名より。

三月二十二日、火、梅雨ノ様ナ細雨

一、日直勤務ニ服ス。

一、歩三六作命第二一七号。

南翔警備隊長八、在白鶴港鎮部隊ヲ速ニ黄渡鎮ニ移駐シ、同地

附近ノ治安維持ニ任セシムベシ。

「黄渡鎮八南翔ヨリ西、西南約二里ノ処ニアリ 白鶴港鎮ヨリ東方一里半。」

来翰。谷 三郎君、五十畑新一氏、竹野栄吉氏

一、俸給日。金五拾九円式拾銭也。

一、大隊命令。

1、灯火管制ノ件。

2、対空射撃ノ件。

右三月二十二日完成セシムル様。

三月二十三日、水、曇時々雨

小包来。森 勝治氏ヨリ、大阪市住吉区遠里小野町三四一。

新聞来。久木健太郎君 花月新町五六。

森氏小包内容品。

洋手拭一、和手拭一、褌2、木綿針一包、仁丹楊子一、

雑紙若干、仁丹齒磨チユープ入中一、ペルメル四〇一、

石鹼一、出コンプ3ヶ、黒糸一、グリコ3。

一、本日第九師団下防空演習ヲ実施スルトノ命令アリ。

A、各隊ノ灯火管制。

B、射撃設備。

三月廿四日、木、快晴、三時頃雨

一、昨夜行ハルル筈タツタ防空演習八行ハレナカッタ。

発信。坪田小ぎく、『夏服送レ』拾円封入。

森 勝治氏 小包ノ謝礼。

「情報。

昨夜羅羅店鎮ニ匪賊約三十名来襲。第四中隊八非常呼集ヲ以テ直

チニ討伐ニ出動セリ。」

（「編成表」【付表2】参照）

（「編成表」裏書）

「 知名戦死者。

一一、一〇、二三 談家頭

一一、一〇、二四 同

一一、一一、一〇 光華門

一一、一〇、九 魔橋頭

一一、一一、二五 無錫

河合中尉

宇野中尉

横井少尉

馬来田中尉

小林正雄

一一、一〇、二五 走馬塔クリーク 野村一義

一二、一〇、二三 三趙宅 本多少佐

一三、一一、三 張家宅南方無名部落 上村甚九郎

一四、一一、二八 嘉定 中村准尉

三月二十五日、晴、金曜日

休務日。

1、孔子廟ニ於テ小林部隊主催ノ余興ガ行ハレタノデ、十一時頃カラ見物 午後も四時頃まで。大部分兵士の演芸でアツタガ、午後上海カラ芸者ガ十人程来テ二席程演芸アリ。

2、サイダー一打購入。

来翰。福山幸彦氏 福井市城町、岡本秀雄氏 市外明里、

栗田義太郎氏 福井商業学校。

発翰。坪田小ぎく 1、夏物ヲ連隊二届ケヨ。

2、近日中金百円送る件。

一、午後八時より内山、八田、田中の諸氏と共に午後九時迄外出

¥一〇、〇〇。

三月二十六日、曇、土曜日、午後十時三十分ヨリ雨

一、金貳百円也、岸名曹長ニ送金手續ヲ依頼ス。

A、発信。坪田小ぎく 送金ノ報

B、小包来。竹内茂三吉 福井市東下町五五。

C、来翰。北島精一 吉住部隊気付三田村部隊上田隊九班。

松村国平 新聞。

一、日直勤務ニ服ス。

今更いふまでもなく、満州事変は一つの時代の一頁であった。一九三一年九月十八日から世界は突然変化した。

日本の連盟脱退、満州国成立、ドイツの連盟脱退、伊工戦争、独乙のライン非武装地帯進駐、伊太利のエチオピア併合、スペイン内乱、支那事変、伊の連盟脱退、独墺合併、其他まだなりつゝある事態、ならんとする事態は幾らもあるのである。

三月二十七日、日曜日、快晴

発信。坪田小ぎく 軍隊内ム書外数号送レ、北島精一君へ、

竹内茂三吉氏へ礼状。

来翰。酒井伊吉 年賀状、尾上中町。松谷金作

「野坂伍長帰隊ス 二十七日午後四時過。

三月六日上海出帆。三月十一日名古屋港上陸 三泊家二届ラレタ

トノコトデアル。」

言伝品 二十八日受領。

A、養命酒壹瓶。

B、写真器壹個"フィルム別に貳個。

C、養命酒箱ノ内容品。

時計修繕品壹、梅干壹瓶、仁丹二、トロ口昆布若干、お守様縫込チヨッキ。

三月二十八日、月曜日、快晴

郷里ヨリ言伝ノ品、野坂伍長ヨリ受領ス。

小包。上崎隼雄氏ヨリ。

来信。留守宅皆ノ者ヨリ言伝品ニ添ヘテ一通。

畑軍司令官ガ巡視スルト云フノデ、城外ニ嘉定部隊練兵場敷地、或ハ射撃場敷地ヲ予定シ、標注ヲ建テタリ。
(写真35)

三月二十九日、火曜日、晴

発翰。坪田小ぎく 品物受領ノ報、上崎先生へ礼状、

永谷中佐殿へ。

一、畑軍司令官本日午後一時ヨリ三時二重リ、嘉定警備地区ノ巡視アリ MG八対空警戒ニ任ズ。巡視ナシ。

吉田上等兵、遺骨護送ノ為メ帰還スルニ付、小包ヲ托ス。^(託)

1、安全カミソリ。

2、カラー。

3、手紙ニ金貳拾円封入。(写真35を指す)

三月三十日、水曜日、晴

来翰。土田京士氏、西島常祐君

一、日直勤務ニ服ス。

昨日来風引気味デアル。

二、遺骨護送者 吉田上等兵 八本日午前七時R本部前ニ集合、

上海ニ至ル。何時出帆力不明。

三月三十一日、木曜日、晴

昨夜八「日夕点呼ノ頃ヨリ絶ヘズ爆竹ノ音カ銃声カ聞エタ。殊ニ本日午前二時頃二八、南方ニ於テ銃声カ盛デアツタ。

聞ケバ、之レヲ偵察ニ行ツタ第四中隊ノ一小隊ハ、急ニ射撃ヲ

受ケタノデ、本日一ケ中隊ヲ以テ掃蕩ニ行クト力。

歩三六作命第二三号。嘉定警備地区隊命令。

一、軍ノ情報ニヨレバ、曩ニ我第十軍ノ上陸セル杭州湾金山附近

二、二週間前約ニケ旅ノ警兵上陸シ、目標ヲ太倉、嘉定ニ取り

行動ヲ開始セルモノ如シ。

二、各警備隊ハ積極的ニ情報ヲ蒐集スルト共ニ、其ノ便ニヨル活

動ヲ索出スルニ努メ、中国人ノ服装検査、夜間ノ焼打、ク

一ク、ヨリスル城内侵入等ニ対シ、特ニ警戒ヲ嚴重ニスヘシ。

昨夜第一中隊ノ大橋少尉ハ、一小隊ヲ以テ敵情視察。

第二中隊八本日掃蕩ニ出張。」

一、中隊長殿八馬匹検査ノ為メ南翔ニ出發。

小包来。鈴木 広氏 湊上町五五。

1、鮎飴煮 一缶 4、鮎味醂漬 二袋

2、味噌大根 一本 5、飴菓子 一缶

3、カキ餅 一缶 6、デンブ 一缶

燕ガ飛んでゐるのを見た。

午後八時より、内山、田中氏と共に外出、午後十時迄。

四月一日、金曜日、晴

休務日。

昨日来ノ風引デ困る。一日中就寢。

四月二日、土曜日、晴、曇、午后四時ヨリ雨

本日ヨリ一週間巡察勤務ニ服ス 第一中隊ノ三宅少尉ト共ニ。

来翰。久木健太郎君 二月二日出。

黒川栄次郎氏 二月二日出。

西村乙松氏 錦上町七七。

北村 豊君、西島伊左衛門

マ氏反応注射ヲ行フ。午後八時ヨリ巡察。

四月三日、日曜日、雨、大降りニアラズ。

午前三時―四時四十分巡察。

「昨夜モ午後九時頃ヨリ西南方ニ於テ二発ツツ銃声アリ。午前三時以後八聞カズ。」

神武天皇祭、中隊八営内ニ於テ休養セシム。

発信。岡本先生、柳本先生

来翰。山田 武氏 乾新町四〇、坪田昭和 航空、

不破正志君 第一MG、北島平三郎氏 新聞。

風邪。一日、二日、思ヒ切ツテ寝たので今日は余程快方に向ふた様に思はれる。

四月四日、月曜日、朝靄、快晴、暖

発信。坪田小ぎく

北島平三郎氏 東京市芝区西久保巴町一一二。

「情況。

銃ヲ持ツ盜賊民家ヲ襲フ。午前〇時半頃ヨリ銃声アリ。同一時半頃ヨリ猛烈、二時マデ。同二時二十分全ク止ム。犬ノ吠工声

スラ止ム。

場所。西北方約千五百米毛家村。

二時二十分、第二中隊ヨリ一ヶ小隊出動セシモ、何等得ル処ナシ。」

来翰。加藤清之 福井中学校教諭、岡田秀雄

四月五日、火曜日、快晴

一、昨夜八東北方遠ク、二、三発時々銃声ハシタガ平穩デアル。

二、六、七月頃には、編成改制ノ為メ一旦内地ニ帰還スル様ナ噂

サガ専ラデアル。

三、第一中隊八担任警戒区域ヲ夜襲シテ、小銃2、盗匪数名ヲ捕ヘタリ。

風邪気味八大分快方だがまだ面はしくない。

四月六日、水曜日、快晴、晩曇

風邪ハ依然トシテ面ハシカラズ、熱ガアル様ニ思ハレル。暇アリ次第就寝ハシテオルガ、夜間或ハ風吹ク日、巡察スル無理ガ悪イノダロー。

四月七日、木曜日、晴

日直勤務。

風邪気味面ハシカラズ、巡察、日直勤務ハ相当身体ニ苦シキ処アリ。

茲二、三日、内地ヨリノ便更ニナシ。他ノ人々ニモナキ模様デアル。如何ナル理由ナルヤ?

課題作業ノ提出

三月上旬R長ヨリ与ヘラレタル十日限りノ課題作業、本日大隊

長ノ許へ提出

鯖江准士官、下士官、国ヲ将来如何ニ振興發展セシムヘキヤ、其具体的方策如何。

四月八日、金曜日、晴

休務日。

「風邪八大分快方デアル。右ノ耳ガジン〜鳴ッテ仕方ガナイ。

来翰。清水義保 錦上町五三一、北島平三郎氏 新聞

発翰。清水義保君、久木健太郎君

中隊長八、昨夜来支那娼婦一名ヲ官舎二件ヒ来リ、本日毛帰楼

サセズ、室内二缶詰デアル。又午後七時ヨリ日本娼婦二名招致

シ缶詰、甚夕風紀上面白カラス。

四月九日、土曜日、シボ雨、午後止ム

『皇国の光』より。

一、三悪道をはなれて、人間にうまるゝことおほきなるよろこびなり、身はいやしくとも畜生におとらんや。

二、家は貧しくとも餓鬼にまさるべし。心におもふこと叶はずとも、地獄の苦にはくらぶべからず。

三、世のすみつきはいとふたよりなり、このゆゑに人間に生れたることよろこぶべし。横川法語

新聞 北島平三郎氏

午後七時半より八時四十分まで慰安所へ。支那六番。¥三、〇〇。

四月十日、日曜日、晴

風邪は九分通り全快した様に思はれる。

噂さによれば漢口？ 抗州？ 北支？ 移動の様であると。さ

つぱり噂さが当にならぬものだ。四月五日の噂さが急変らしい。

発信。福山幸彦氏、小菊

午後八時頃より外泊。明朝六時半迄ノ予定。¥八、〇〇。白娘娘

事張宝珍。

四月十一日、月曜日、快晴

朝六時四十分帰来。昨夜八殆ンド寝れなかつた。

来翰。久木健太郎君 新聞、北島平三郎君 同。

日直勤務。

慰問袋壹個。大谷派法話会七尾支部。

禪一、封筒一、缶一、便箋一、古雑誌一、ドロップ小缶一。

「某方面ニ出勤確定的デアル。徐州？」

四月十二日、火曜日、晴

「愈々出勤 移動 ト確實、決定。

A、梱包二取りカ、リ、

B、将校行李八一個トシ、他二出来タモノ八当地ニ集結シテオリ、十四日二八一部行動開始ト云フ。

だいぶん落付イタノデ何カラ手ラツケテヨイヤラ茫然タリ。

発信。鈴木 広君、西村乙松君、山田武先生、石居先生、

久米田先生、岡本秀雄先生、五十畑先生、乗竹先生

四月十三日、水曜日、晴、夜中風雨

一、梱包作業、輸送命令出ツ。

一、俸給日。¥五七、二〇。

一、差出郵便物八本日午前中限リトス。但来翰ノ分配ハアリ。

四月十四日、木曜日、曇

一、梱包作業。兵八一般二夏服用トシ、兵服八返納、梱包トス。

将校ノ分八兵用夏服借用。

午後四時半ヨリ嘉定運動場ニ於テ祝杯ヲ挙グ。

一、愈々出発準備完了、待機 十六日正午出発ノ予定、南翔二泊スル筈。

年度未賞与、六割五分。 ¥五二、〇〇。

四月十五日、金曜日、快晴

一、日直勤務。

四月十六日、土曜日、快晴、出勤第一日

1、中隊八午前十時出発、南門南方、自動車站南側畑地ニ集合。

2、大隊長ノ軍装検査、訓示。十一時半出発、南翔二向フ。午後二時四十分南翔着。MG兵舎ニ入ル 八昨日出発セルモノナリ。

四月十七日、日曜日、晴

朝明ヶ方八結構涼シイガ日中八随分暑イ。

一、午前六時中隊宿营地出発。行程約七里、午後二時過ギ明治製菓糖会社ニ到着。同工場に宿営ス。

両脚ニ水泡出来、歩行難、非常ニ疲労ス。

宿营地ヨリ約二里モアリ、疲労ノ為メ左記ノ者訪問シテヤル事八出来ナカツタ。

上海労活生路芳里第二家七号 張宝珍。

四月十八日、月曜日

黄浦江ノ水八相変ラス濁流ト一トシテオル。多数船舶碇泊シアリ。

一、午前五時出発、虹紅碼頭ニ至リ 先般ノ上陸地 乗船。

一、午後〇時半ヨリ人乗船開始。

一、午後三時四十分碼頭出帆。黄祐丸。

一、日没頃ヨリ運行停止 航行危険ニ付キ。

四月十九日、火曜日、晴、「午後六時ヨリ雨」

一、午前七時半二八北二向ツテ航行中。途中支那軍 江陰沖ノ

汽船及小艦ヲ沈没セシメテ、我海軍ノ上航ヲ妨止セル箇所及砲

台 江陰 ヲ見ナカラ上航。午后七時停船。

四月二十日、水曜日、昨日来ノ雨止マズ

一、午前六時頃ヨリ運航開始、上航。

一、午後七時四十分南京下関ニ停船。下関対岸八浦口 浦口鎮八

約一里北方ニ在リ 御用船十数艘、其他我軍ニ属スル大小汽船

デ川ヲ埋メテオル。先着船ノ上陸ガ終ラヌノデ上陸八明二十一

日トス。

南京八見エナイ。下関ト浦口八、丁度門司ト下ノ関ノ様ナ關係

ニ在リ、河ニ沿フ都市トシテ八立派ナモノデアル。下関、浦口

共ニ電気アリ、水道アリ。

四月二十一日、木曜日、曇、晴定マラズ

一、午前七時三十分ヨリ、昼、夕食携行、上陸開始。

浦口ニ上陸。浦口ニ露営ノ予定ナルモ、本日出発予定ノ ガ出

発出来ズ。又19 iノ宿舎八後続ノ19 i部隊ガ入舎スルノデ、結

局浦口ニ八露営デキズ。昼食後浦口出発、浦鎮ニ向ツテ前進。

二、午後三時浦鎮着。浦口八大シタ砲、爆撃アルニ反シ、浦鎮八

大シタ事ハナイ。但駅附近、鉄道関係官舎二八、立派ナル避難
掩護壕ガ作ラレテアル。余程空爆二八恐レテオツタモノト見
ル。

〔編成表〕【付表3】参照

九師作命甲第一八三号。

一、濰県西北方山地帯二八、敵ノ遊撃隊ノ出没頻繁ナリ。歩兵第
七連隊ハ、昨二十日朱竜橋西方地区ニ於テ、迫撃砲ヲ有スル約
四百ノ敵ヲ撃退セリ。朱竜橋―池河駅二八後備歩兵大隊ノ各一
中隊警備シアリ。他略ス。

命令。

八左要図ノ如ク朱竜橋―池河駅間ノ警備ヲスルコトナレリ
9 D全部通過終ルマデ。

第一大隊兵力配置基準要図

(写真36)

〔四月二十四日午後五時到着後撃退、警備第三中隊トMG第三小隊。〕
四月二十二日、金曜日、終日細雨、梅雨ノ如シ 太陽ヲ見ス

- 一、午前七時三十分浦鎮発。
- 一、旅次行軍二八非ラサルモ之レニ同ジ。
- 一、午後一時五十分西鶴鎮着、宿営。
- 一、行程約五里。当宿営地ハ殆ンド破壊セラレ、完全ナル家屋ハ
殆ンドナシ。

歩三六ノ 及19 iノ一ヶ小隊 各大隊ニ附属セラレタル大小行李
全部入ツタガ大変タ 入ル処ガナイノデ、一部畑中ニ天幕露営ヲ

ナスト云フ状態デアル。

所見。

1、揚子江ヲ境トシテ、随分風俗、建築等異ナリタル所アリ。

言語モ異ナツテ北京語ニ近イ様デアル。

四月二十三日、土曜日、小雨終日

- 一、午前七時三十分西鶴鎮出發。終日雨ニ悩マサレ、急坂デハナ
イガ山坡又山坡ヲ越エテ、午後四時濰県飛行兵營ニ到着、宿営
- 1、途中休憩ハアレ共、身体、被服濡レテ腰ヲ卸スコトモ出来
ズ、困憊ス。

2、敵ヲ見ズ、又銃声モ聞カズ。

3、当飛行場ハ煉瓦建築物多ク、中ノ設備ハ窓ガラスニ至ルマ
テ破壊セラレアルモ、立派ナル兵營デアル。

二、宿営地濰県飛行場。自動車隊、衛生隊、電信隊其他多数部隊
アリ。

三、行程約六里。最近構築セラレタル近道ニシテ、砂利又割石ナ
ド少シモナク、丸デ雨ノ為メ泥田ノ如キ道デアル。

四月二十四日、日曜日、雨、晩方晴レ

- 一、出發。午前七時飛行場出發。午前八時十分濰県城内ヲ横断。
- 1、北門城壁上二八海軍航空隊ノ監視隊アリ、聴音機ヲ備付ケ
アリ。
- 2、後備隊警備シアリ 第三師団？。
- 3、兵站支部アリ、近藤少佐ニ面会ス 近藤少佐ハ兵站支部長
トシテ居ルラシイ。

二、午後三時朱竜橋ニ於テ中隊主力ト別レ、第三中隊長ノ指揮下ニ入り、約七軒ニシテ広武衛ニ到着ス。

〔戦闘〕

午後五時広武衛二大隊先頭ガ入ルヤ、広武衛北方約三百米ノ高地ヨリ射撃ヲ受ケ、戦闘開始トナル。

第一線、右第二中隊、右第三中隊 坪田小隊附属ノママ、孝尾少尉負傷 広武衛西南路上ニテ。

最初広武衛南端ニ於テ陣地占領、第三中隊ノ高地占領掩助。伊藤軍曹ノ分隊二連射撃、丹羽分隊故障ノ為メ射撃セズ。

〔午後七時高地占領、MG追及占領。〕

本夜八大隊八広武衛二宿営。第三中隊八高地北方ニ於テ至敵ノ警戒テ夜ヲ徹ス。

幸ニ晴天トナリ星出テシ為メ、寒シト雖モ都合テアッタ。

曉方ヨリ銃声ナシ。

四月廿五日、月曜、快晴

一、午前六時高地陣地ニ就キ、第三中隊ノ更ニ東北方高地占領ヲ掩護ス。

〔戦闘アリ。〕

1、東北方ノ高地占領ノ際八敵居ヲサリシモ、占領後約七〇〇米ノ箇所二十名以内ノ敵兵現ハレ交戦。

2、其後終日絶ヘズ東方約千米以内ノ地点ニ於テ、本道上通行ノ我部隊ニ対シ、敵ヨリ射撃ヲ浴セララル 終日銃声アリ。遠クヨリ射撃スルノデアルガ、数射ツ丸二八一、二名ノ負傷者ヲ出

セリ。

3、北方、南方約二千五百米位ノ山背二八、十名位宛ノ敵兵力數ヶ所ニ何カシテオルノガ見エル。』

四月廿六日、曇、晩方晴

一、昨夜来敵ヨリノ銃声ヲ聞カズ。

二、朝来引キモ切ラズ、歩兵部隊、山砲、自動車隊、衛生隊等通過。山砲八通過ノ際東北方部落ヲ射撃シツ、通過ス。

三、午後モ各種部隊通過ス。頗ル平穩ナノデ、MG一分隊八午後三時半露営地ニ撤収ス。休養セシム。

四月廿七日、快晴、強風

一、午後六時半陣地ニ就キ、MG伊藤分隊、小銃一分隊、LG一分隊ヲ併セ指揮シ、前任務続行。

二、銃声ヲ聞カズ。

三、午後六時頃師団輜重通過ノ際、北島精一君ガ通過、尋ネテクレタ。

〔午後六時半頃、朱竜橋警備区方面デ銃声ヲ聞ク。〕

四月廿八日、晴

一、敵情ニ変化ナシ。

二、丹羽分隊ヲ前陣地ニ位置セシメ、小銃小隊長ノ指揮下ニ入ラシメ、小隊主力八広武衛ニ引上ゲ警備ニ任ズ。

三、午後五時師団輜重ノ一部ト、之レガ護衛ノ歩三五ノ一部当広武衛ニ露営ス。

四、昼過ぎ谷本軍曹連絡ニ来ル。

四月廿九日、晴

天長節、第三十七回。

一、中隊命令ニ基キ、MG小隊及小銃半小隊ヲ指揮シ、広武衛西方高地ヲ占領、通過部隊ノ掩護ニ任ス。午前七時任地ニ就ク。

二、高地上ニ於テ遙拝ヲ行フ。

三、本部ヨリ四時半、当地撤退ノ命アリ。六時三十分夕食携行広武衛出發、大隊主力ノ位置大柳鎮ニ向フ。

四、午後八時〇分大柳鎮着。P.O. 1 / MG 2、3アリ。

「第一中隊ガ警戒ニ出テオル監視哨ニ敵ト誤認セラレ、約五百米中隊ノ尖頭ガ近ツイタ時、射撃ヲ受ケ、一時敵力ト思ツテ緊張シテ見タガ、声ヲ以テ連絡ガ出来タノデ、然モ死傷者ナクテ幸ダツタ。」

四月三十日、快晴、曇、午後五時半ヨリ雨

一、午前六時大柳鎮出發。

「途中地雷ノ埋没箇所多ク、自動車ノ転覆セラレ、破壊セルモノ拾数台モアリ。」

二、午前九時岱山領通過。此附近ヨリ平地ナレ共一帶ニ山坡ヲナス。此ハ2 / ガ警備シ居リシ所ニシテ、此处ヨリ 全部集結シテ池河駅ニ向ツテ進ム。

三、午前十一時池河駅着。約一時間大休止、昼食。更ニ二里半前進、胡家岡到着。午後二時十分、露営。本日ノ行程約七里。

理髪。小行李ノ平ニ依頼ス。

昭和十三年五月一日以降ノ分八第四号ニ記載ス。

〔付記〕

本稿を終えるに当たり、「日誌」を御所蔵の坪田昭和氏、その所在を御教示下さり、かつ坪田氏を御紹介いただいた福井新聞社の北島三男氏、福商同窓会の『校友会誌』や坪田留吉氏葬儀における「甲辞」の草稿を見せていただいたうえに、色々とお話を聞かせて下さった本学名誉教授吉田勇氏、および福井市史編さん室に心からお礼を申し上げます。

【付表1】

編成表 昭一二、九、一九 第一機關銃中隊

中隊長：安保大尉

指揮班：岸名曹長、曾根軍曹、南保軍曹、野坂典蔵、松田 昇、中山久治郎、小竹林竹次郎、

阿波賀勇、上木俊治、徳田与四郎、森本彦夫、橋詰豊志、前田実男、清水公孝

乗馬：松坂

第一小隊：小隊長 河合少尉

第一分隊：長 谷本伍長、松浜茂則、柳瀬敏章、杉野英一、平尾貞光、藤井三郎、黒田 治、
中道 厚、村中政治、高倉 等、若泉文平。駄馬：福松、武吉

第二分隊：長 伊藤伍長、大葎原修、羽生 勇、乾 忠夫、福田 揮、伊藤武雄、山本 旭、
川上 林、末本九一、八杉正三、内藤文治。駄馬：千冬、秋岡

第二小隊：小隊長 内山少尉

第三分隊：長 平沢伍長、佐々木相吉、藪 清一、伊藤末一、野村清蔵、水谷辰夫、
渡辺五一、藤岡守一、蒲生 実、角谷重信、浅水久雄。駄馬：千守、森館

第四分隊：長 品川伍長、小垣内宮市、坂口松五郎、仲本成司、佐々木重吉、島 稔、
清水良一、尾崎喜市、伊藤 勉、谷口清義、谷口由太郎。駄馬：谷嵐、横沢

第三小隊：小隊長 宇野准尉

第五分隊：長 井上伍長、渡辺正一、木田寛一、桂 新一、田中 任、中川重信、山崎 栄、
是広菊松、岩崎岩松、大阪文治、白崎藤代治。駄馬：谷赤、松駒

第六分隊：長 桑原伍長、海野忠三、橋本哲之助、日置幸蔵、野崎 武、帰山 親、
山本佐市、五島五市、米谷米作、浜田鉄夫、畑中 茂。駄馬：大牧、谷間

第四小隊：小隊長 坪田准尉

第七分隊：長 野村伍長、大田善一、中西竹蔵、小松 保、吉田秀次、元雄 弘、松村武雄、
山腰秀次、合川作太郎、山口宇太郎、島 孝二。駄馬：谷白、福晴

第八分隊：長 道清伍長、吉田 静、西野千代治、林志計夫、金田米一、吉村正一、
石山豊吉、大門喜代治、有城栄一、梶 俊雄、山口源十郎。駄馬：谷月、千文

彈薬小隊：小隊長 田中准尉

第一分隊：長 笠島治平、田中 齐、浦口長三、田中繁治、木村音次郎、中島吉広、
村田民雄、菱田正吾、田中久孝。駄馬：谷黒、谷風、谷青、谷白

第二分隊：長 丹尾貞一、小林 確、南 竜雄、斉藤武雄、小林正治、津田 太、黒川庄八、
竹内武重、山下 政。駄馬：谷東、谷南、谷桃、谷雪

第三分隊：長 吉川高丸、宮本重助、丸葉定治、近江 猛、林 義人、豊岡 豊、坂井 泰、
木村定義、宮西与作。駄馬：谷西、谷山、谷川、谷秋

第四分隊：長 光川幸治、藤井 葆、岩上清次、酒井 静、西野千太郎、吉田秀雄、
亀岡新治、塚谷武吉、宇野寅栄、山岸善正。

駄馬：谷雨、谷田、谷北、千和、谷神

中隊合計

大尉1、少尉2、准尉3、曹長1、軍曹2、伍長8、テ上8、伍上4、上27、一87、
工上1、特1 計145。

駄33、乗1 計34。

拳24、双9、夜9、角双3、携測2、円41、十16、斧8、鉈8、鎌16、鋸8、旗3、
隠8、微8、八九双1、五十微1、小銃30

【付表 2】

編成表 昭和一三、一、二二 第一機関銃中隊

中隊長 安保大尉

指揮班：岸名 林、谷本 薫、松田 昇、野坂典蔵、中山久治郎、吉川高丸、藤井三郎、
徳田与四郎、坂井 泰、森本彦夫、橋詰豊志、羽生 勇、大葎原修、前田実男、
和田新吉、清水公孝。

第一小隊：小隊長 内山少尉

第一分隊：長 桑原 次、笠松勇二、南 竜雄、谷口清義、藪 清一、畑中 茂、海野忠三、
吉村正一、酒井 静、内山 伝、森岡三善。駄馬：谷神、谷黒

第二分隊：長 木水徳松、角谷重信、諏訪弥作、岡崎新之丞、渡辺正一、白崎藤代治、
田中久孝、山口義一、鈴木庚子吉、谷端正二、藤上金次郎。駄馬：谷川

第二小隊：小隊長 八田少尉

第三分隊：長 吉田秀二、北山長左衛門、桂 新一、田中 斉、阿波賀勇、仲本成司、
内藤文治、坂口金蔵、谷口伯一、宮川 武、山下春吉。駄馬：谷田、大牧

第四分隊：長 瀬戸川了一、梶 俊雄、有城栄一、山本佐市、帰山 親、八杉正三、
大道九左衛門、山下 政、田中源之助、小池弥作、煙草屋和男。駄馬：千宇

第三小隊：小隊長 坪田准尉

第五分隊：長 伊藤 章、谷口由太郎、柳瀬敏章、前田五右衛門、合川作太郎、藤岡守一、
坂瀬吉五郎、大坂文治、菱田正吾、斎藤円治、竹沢敏美。駄馬：谷西、谷北

第六分隊：長 佐々木弘覚、松井儀左衛門、渡辺五一、笹原健吉、坂口松五郎、任田市太郎、
石倉勇太郎、浜田鉄夫、浅水久雄、岩本武雄、山田初蔵。駄馬：福松

第四小隊：小隊長 (空欄)

第七分隊：長 斉藤一三、清水良一、吉田 静、井口 正、西野千太郎、川上栄作、
亀岡新治、竹田喜左衛門、酒井尚一、南部誠治、市川義輝。駄馬：谷雨、谷東

第八分隊：長 寺西 実、田中繁治、渡辺繁生、広井喜一、伊藤末一、豊岡 豊、元雄 弘、
山口定護、島 孝二、地戸貞雄、中村 誠。駄馬：松駒

弾薬小隊：小隊長 田中准尉

第一分隊：長 平井 毅、矢坂利助、藤井 葆、藤田 喬、竹内武重、平田 進、
酒井與四雄、近葉外次郎、近江 猛。駄馬：谷風

第二分隊：長 鎌谷仁蔵、小川 聡、伊藤武男、浦口長三、斉藤惣四郎、斉藤武雄、
杉本 寿、小林正治、森永慶夫、島田不二男。駄馬：千加

第三分隊：長 丹尾貞一、丸葉定治、大田善一、清水利作、山口源十郎、笠島助次郎、
吉田秀雄、毛利 斉、梅垣信治、中村 賢。駄馬：谷畑

第四分隊：長 光川幸治、斉藤與三松、河合 茂、吉田佐太郎、津田 太、渡辺源七、
斉川 昇、竹内 正、中島吉広

中隊合計

大尉 1、少尉 2、准尉 2、曹長 1、軍曹 1、伍長 7、上 51、一 54、二 25、衛 2、
特 1 計 147。

駄 16、乗 1 (松坂) 計 17。

拳、双、夜、角双、携測、円、十、斧、鉞、鎌、鋸、旗、隠、微、八九双、五十観、
小銃 (数字の記載はない)

備考。第四小隊八小銃編成トシ、出動二際シテ八中隊長別ニ之ヲ指示ス。

【付表 3】

編成表 昭和十三年四月二十一日 第一機関銃中隊

中隊長：安保大尉

指揮班：谷本軍曹、野坂伍長、吉川高丸、藤井三郎、徳田與四郎、前田実男、羽生 勇、
森本彦夫、清水公孝、坂井 泰、柳瀬敏章。乗馬：松坂

第一小隊：小隊長 内山少尉、二三

第一分隊：長 木水徳松、笠松勇二、南 竜夫、谷口清義、藪 清一、畑中 茂、海野忠三、
大葎原修、酒井 静、内山 伝、森岡三善。駄馬：谷神、谷黒第二分隊：長 光川幸治、角谷重信、諏訪弥作、岡崎新之丞、渡辺正一、白崎藤代治、
田中久孝、若泉文平、鈴木庚子吉、谷端正二、藤上金次郎。駄馬：谷川、谷雨

第二小隊：小隊長 田中准尉、二三

第三分隊：長 吉田秀二、北山長左衛門、桂 新一、田中 斉、橋本哲之助、仲本成司、
内藤文治、坂口金蔵、谷口伯一、宮川 武、山下春吉。駄馬：谷田、大牧第四分隊：長 中山久次郎、梶 俊雄、有城栄一、山本佐市、帰山 親、八杉正三、
大道久左衛門、山下 政、田中源之助、煙草屋和男、斉川 昇。
駄馬：福松、谷畑

第三小隊：小隊長 坪田准尉、二三

第五分隊：長 伊藤 章、谷口由太郎、川合 茂、前田五右衛門、合川作太郎、藤岡守一、
坂瀬吉五郎、大坂文治、菱田正吾、斎藤円治、竹沢敏美。駄馬：谷西、谷北第六分隊：長 丹尾貞一、松井儀右衛門、佐々木弘寛、笹原健吉、坂口松五郎、任田市太郎、
石倉勇太郎、浜田鉄夫、浅水久雄、山田初蔵、中村 賢。駄馬：千宇、千加

第四小隊：小隊長 (空欄) 一一

第七分隊：(空欄)

第八分隊：長 斉藤一三、田中繁治、渡辺繁生、広井喜一、伊藤末一、豊岡 豊、
斉藤惣四郎、山口定護、島 孝二、地戸貞雄、中村 誠

弾薬小隊：小隊長 岸名曹長、二七

第一分隊：寺西 実、杉本 寿、藤井 葆、竹内武重、近江 猛、藤田 喬、平田 進、
林 義人、近葉外次郎第二分隊：長 瀬戸川了一、笠島助治郎、島 稔、毛利 斉、伊藤武男、酒井與四雄、
岩本武雄、竹内 正、第三分隊：長 丸葉定治、浦口長三、津田 太、斉藤與三松、吉田佐太郎、渡辺源七、
森永慶夫、小林正治、吉田秀雄

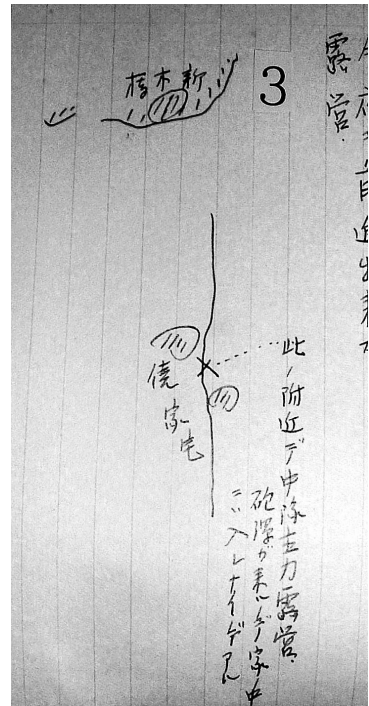
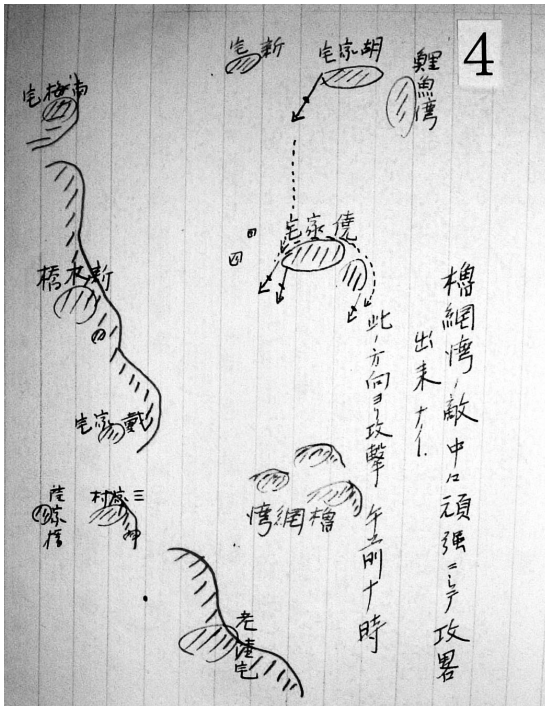
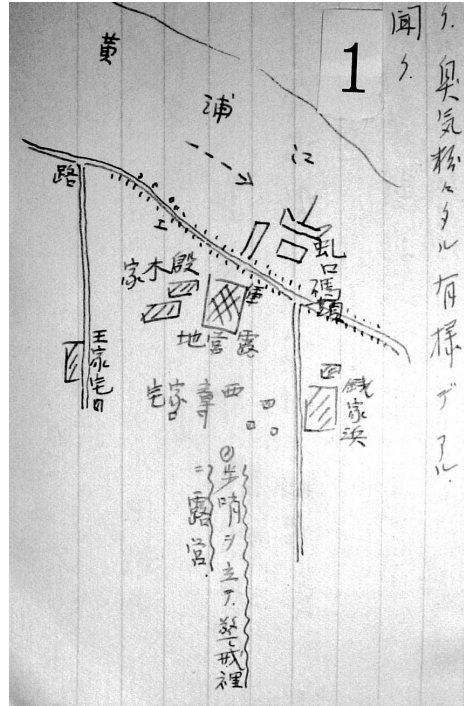
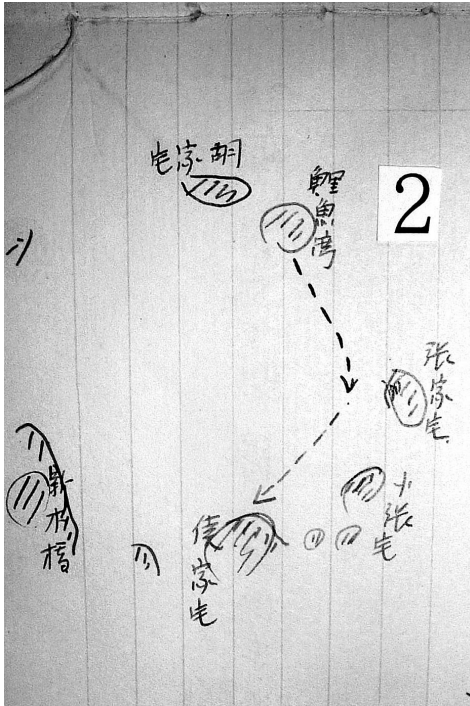
残置人員：功績 松田 昇、阿波賀勇、二三

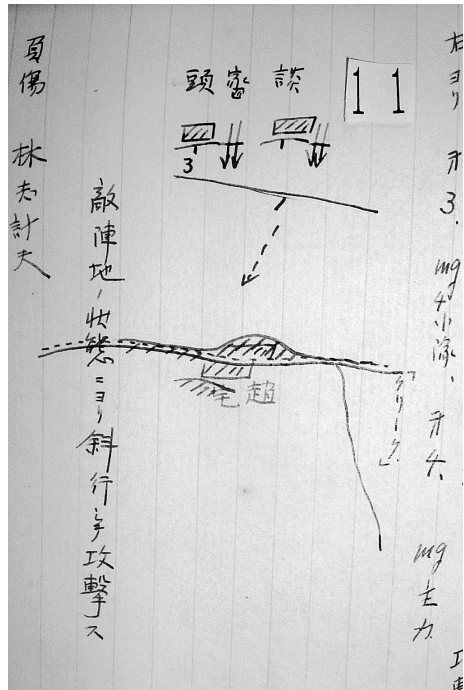
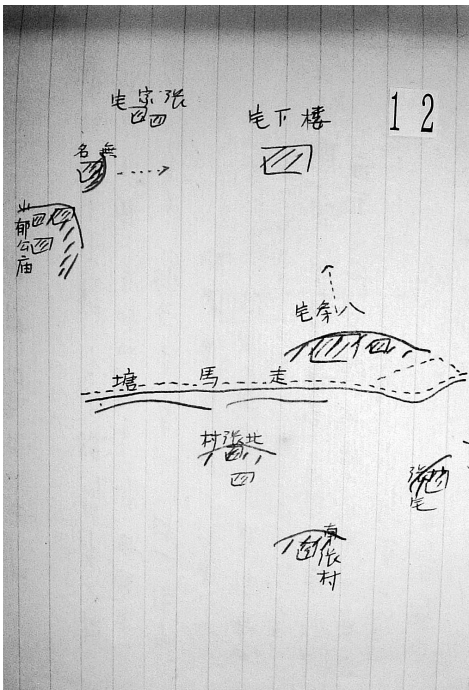
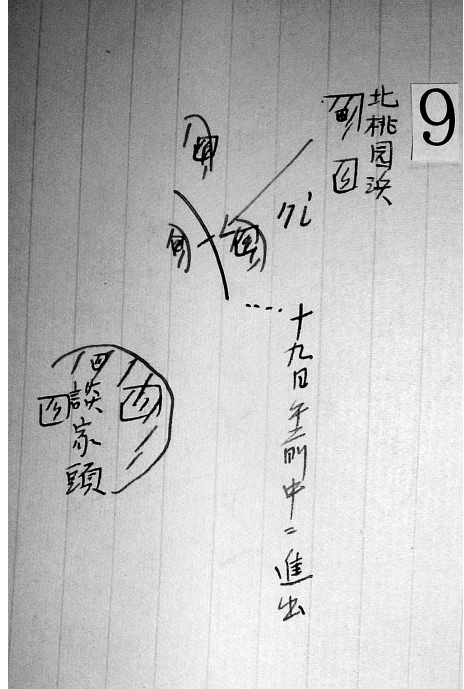
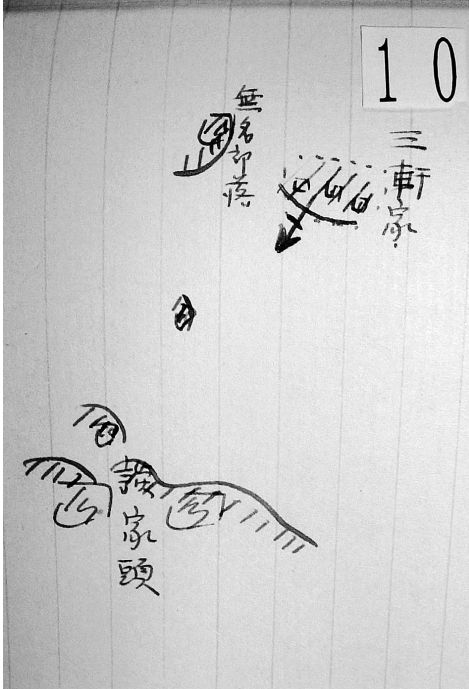
残置分隊 八田少尉、平井伍長、西野千太郎、清水良一、井口 正、竹田喜左衛門、
酒井尚一、松茂茂則、亀岡新治、市川義輝、南部誠司、島田不二男、
橋詰豊志、内地 吉田 静、桑原 次、小池孫作、斉藤武男、川上栄作、
入院 鎌谷仁蔵、小川 聡、矢坂利助

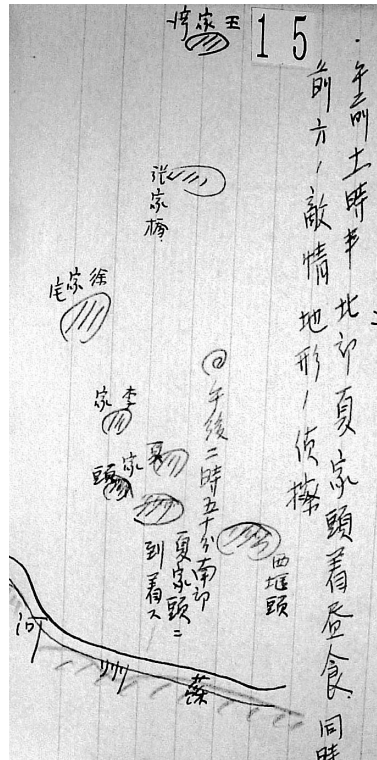
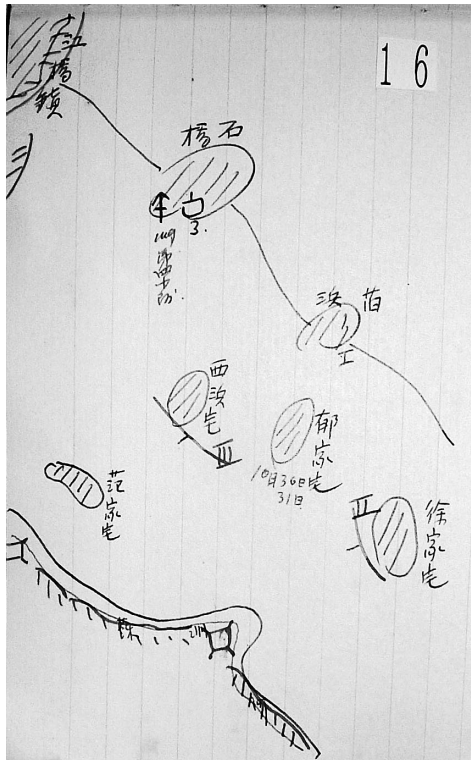
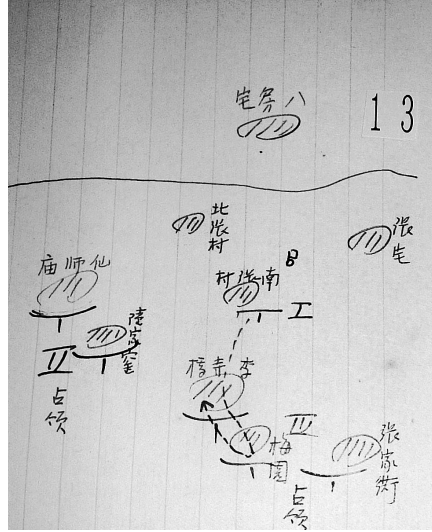
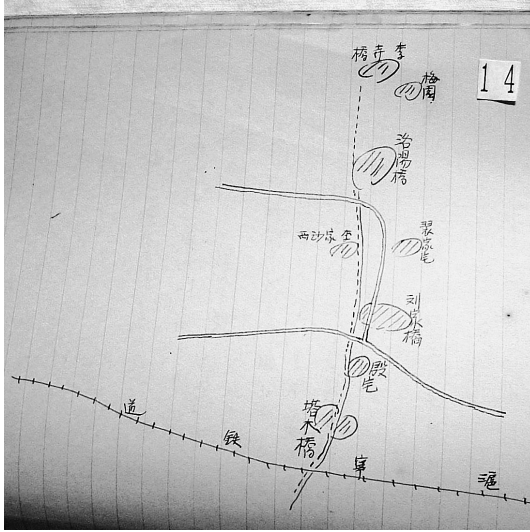
備考。一、総員中隊長以下一一九名。

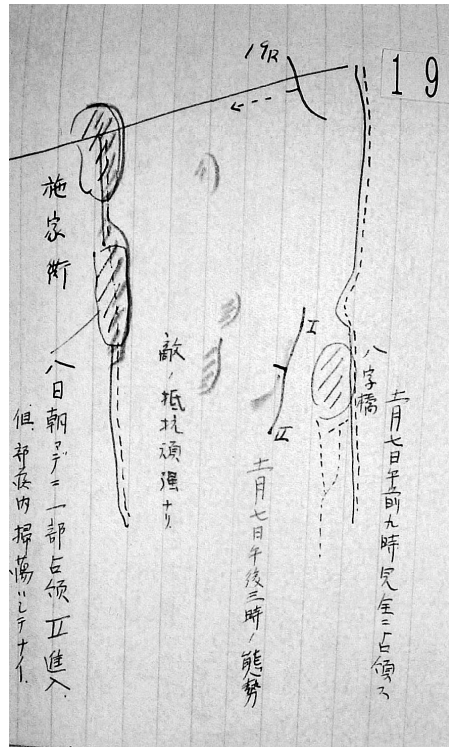
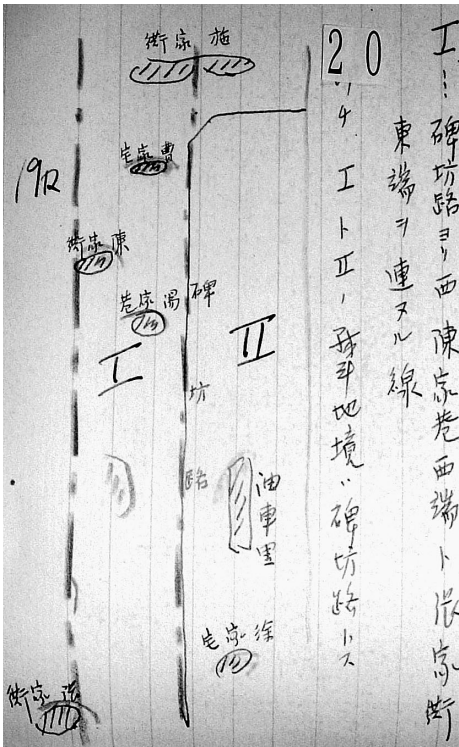
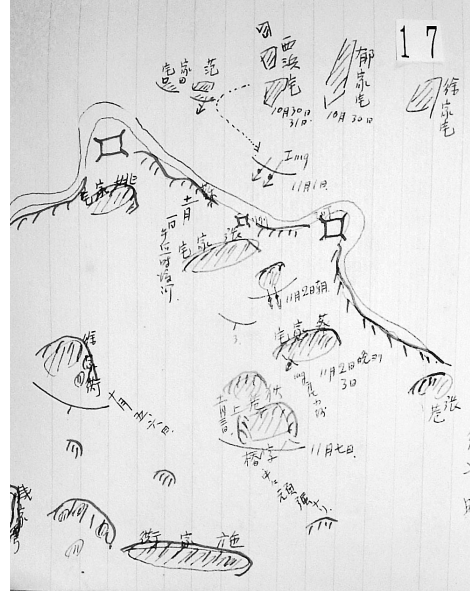
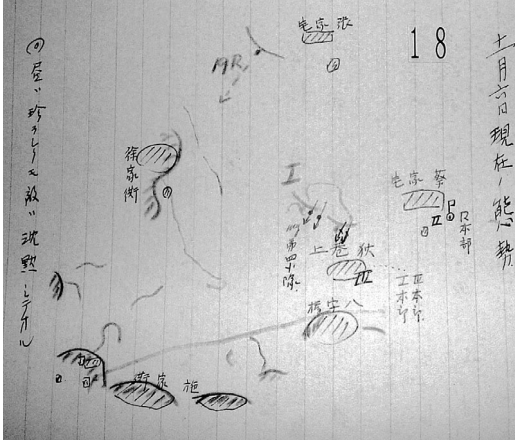
二、嘉定出発時ノ編成人員一四二名、残置人員其他二三名。

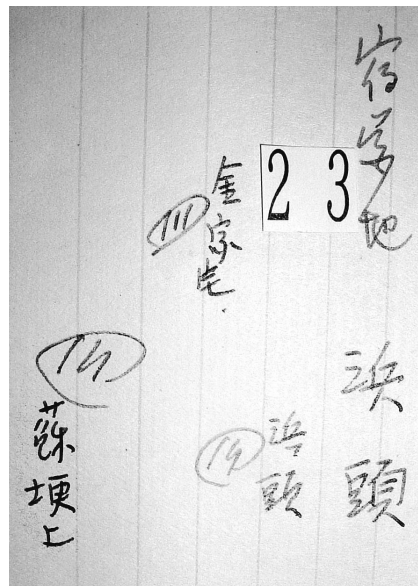
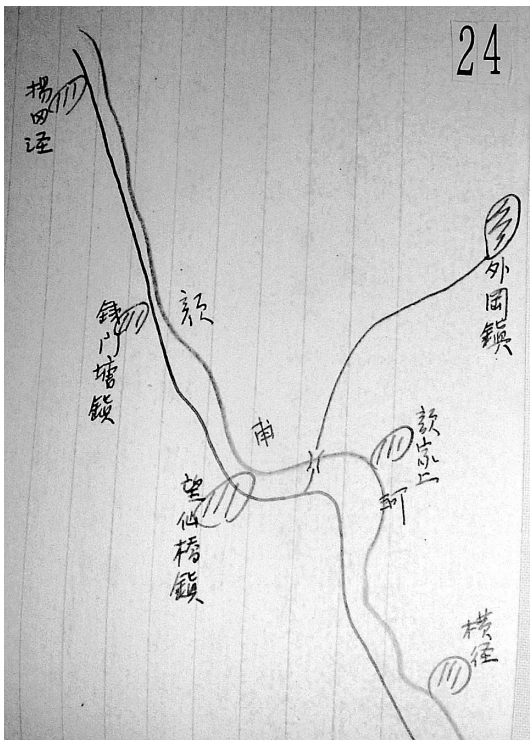
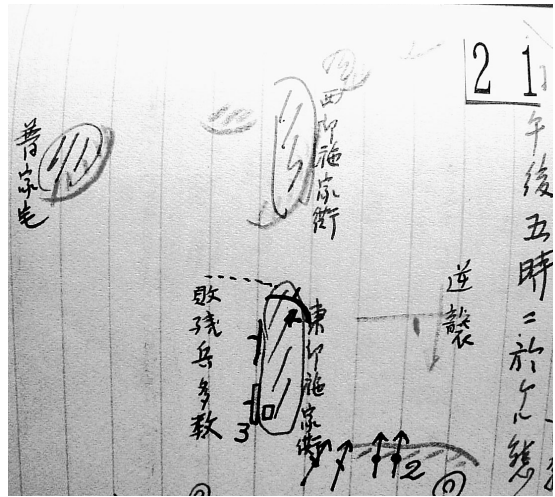
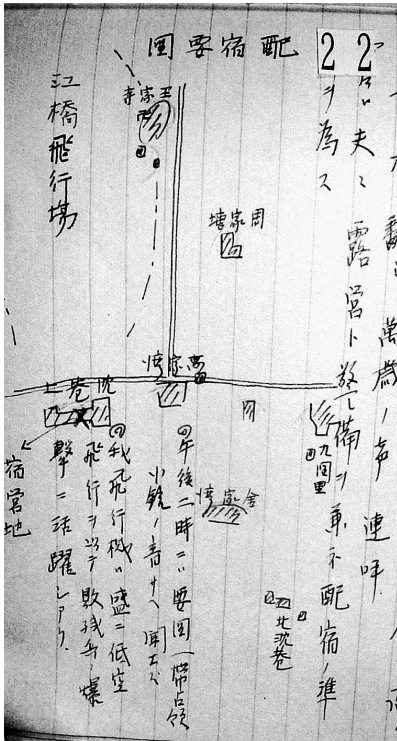
注 1 . 原本は縦書きで、藁半紙などにガリ版印刷やカーボン紙で複写されているが、罫線
(枠)を全て省略して横組みとした。2 . 人名に付された、「器具」(拳、双、円、鉈、鎌など)、「番号」(順番を示す数字)、「階
級」(曹長、軍曹、伍長、上、一など)は、全て省略した。

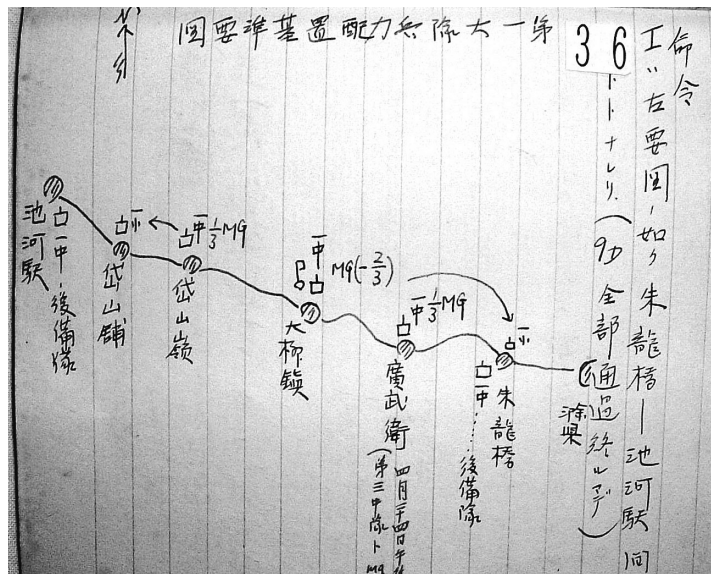
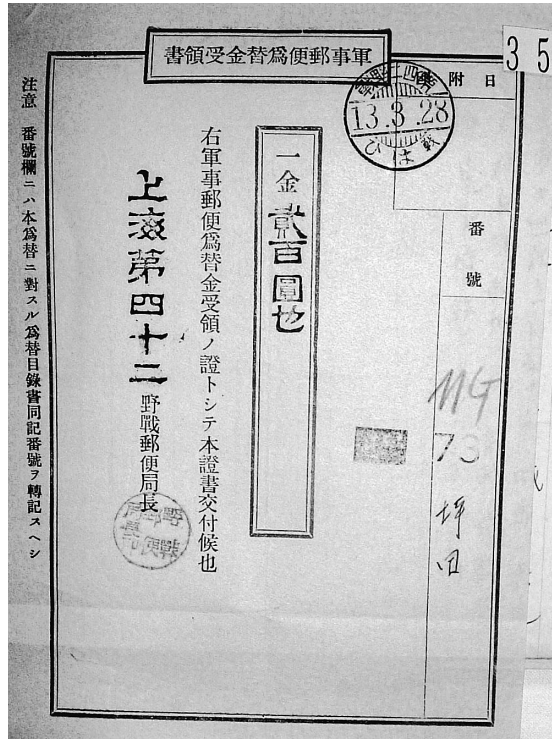












注一、写真の縮尺は同じではない。数行分から一頁分くらいまである。33は別紙を貼付したもの。整理番号の大ききで御判

断願したい。
二、薄く見える部分がおおむね朱書である。